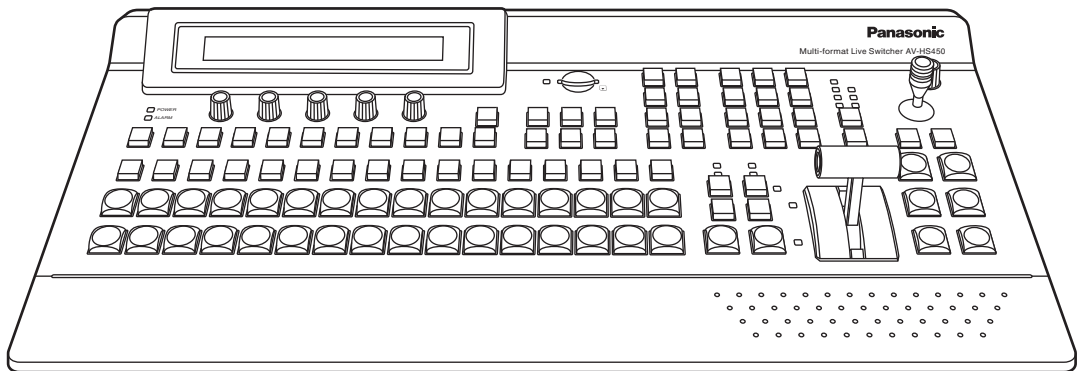
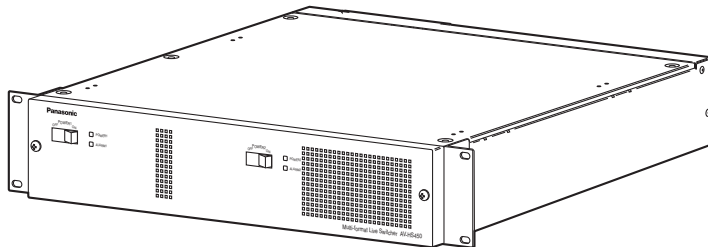


取扱説明書

マルチフォーマットライブスイッチャー

品番 AV-HS450N

メインフレーム
[AV-HS450U1N]



コントロールパネル[AV-HS450C1N]



このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
- ご使用前に「安全上のご注意」(6～10ページ)を必ずお読みください。
- 保証書は、「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。

保証書別添付

もくじ

概要.....	5	3. 基本操作.....	37
特長.....	5	3-1. バックグラウンドトランジション.....	37
構成.....	7	3-1-1. バスの選択.....	37
付属品.....	7	3-1-2. SHIFT 機能によるバスの選択.....	37
安全上のご注意.....	8	3-1-3. バスモードの選択.....	40
使用上のお願い.....	13	3-1-4. トランジションモードの選択.....	41
個人情報の保護について.....	13	3-1-5. マニュアルトランジション (フェーダーレバー).....	41
商標および登録商標について.....	14	3-1-6. オートトランジション.....	41
免責について.....	14	3-1-7. カットトランジション.....	41
1. 設置.....	15	3-2. IMAGE.....	42
1-1. コントロールパネルの設置.....	15	3-2-1. IMAGE 効果の設定.....	42
1-2. メインフレームの設置.....	16	3-2-2. IMAGE 効果の実行.....	43
1-3. オプションボードの取り付けかた.....	17	3-3. ワイプ.....	44
1-4. 接続.....	19	3-3-1. ワイプパターンの選択.....	44
1-4-1. ブロックダイヤグラム.....	19	3-3-2. 3D2 パターンページの背景選択.....	46
1-4-2. 外部同期をかける接続 (フレーム シンクロナイザー OFF).....	20	3-3-3. ワイプ方向の選択.....	46
1-4-3. 外部同期をかけない接続 (フレーム シンクロナイザー ON).....	21	3-3-4. ワイプの装飾 (ボーダー、ソフト).....	47
2. 各部の機能.....	22	3-3-5. ワイプの開始位置設定.....	48
2-1. コントロールパネル.....	22	3-3-6. ワイプのモディファイ.....	49
2-1-1. クロスポイント部.....	23	3-4. KEY (キー).....	51
2-1-2. ワイプパターン/メモリー部.....	25	3-4-1. キータイプの選択.....	52
2-1-3. ユーザーボタン部.....	26	3-4-2. キー素材の選択.....	53
2-1-4. トランジション部.....	26	3-4-3. キートランジション.....	54
2-1-5. LCD メニュー部.....	29	3-4-4. キープレビュー.....	55
2-1-6. ポジショナー部.....	31	3-4-5. ルミネンスキー/リニアキーの調整.....	56
2-1-7. SD メモリーカード部.....	32	3-4-6. クロマキーの調整.....	57
2-1-8. 背面接続部.....	33	3-4-7. キーの装飾.....	65
2-2. メインフレーム.....	34	3-4-8. キーのマスク.....	66
2-2-1. 前面部.....	34	3-4-9. フライングキー.....	67
2-2-2. 背面部.....	35	3-5. PinP (ピクチャーインピクチャー).....	68
		3-5-1. PinP チャンネルと素材の選択.....	68
		3-5-2. Shape の選択.....	69
		3-5-3. PinP のプレビュー.....	69
		3-5-4. PinP のトランジション.....	70
		3-5-5. PinP の調整.....	70
		3-5-6. PinP1 と PinP2 の連動.....	72
		3-5-7. PinP の装飾.....	74
		3-5-8. トリミングの設定.....	75

もくじ

3-6. DSK (ダウンストリームキー)	76	4. 入出力信号の設定	101
3-6-1. DSK タイプの選択	76	4-1. 入力信号の設定	101
3-6-2. DSK チャンネルと DSK フィル素材の選択	78	4-1-1. フレームシンクロナイザー設定	102
3-6-3. DSK のトランジション	79	4-1-2. 入力モードの設定	103
3-6-4. DSK のプレビュー	79	4-1-3. 入力信号のフリーズ	104
3-6-5. DSK の調整	80	4-1-4. カラーコレクター	105
3-6-6. DSK の装飾	81	4-1-5. アップコンバーターの設定	109
3-6-7. DSK のマスク	82	4-1-6. アナログ入力のゲイン設定 (オプション)	111
3-7. FTB (フェードトゥブラック)	83	4-1-7. アナログコンポジット入力信号の設定 (オプション)	112
3-8. 内蔵カラー信号	84	4-2. DVI 入力信号の設定 (オプション)	113
3-8-1. カラーバックグラウンドの設定	84	4-2-1. DVI 入力信号の設定	113
3-9. AUX 出力の切り替え	85	4-2-2. DVI 入力信号の調整	117
3-9-1. AUX 出力素材の選択	85	4-2-3. DVI 入力信号の情報表示	118
3-9-2. AUX1 のトランジション	86	4-3. 出力信号の設定	119
3-9-3. AUX1 のトランジション 有効/無効設定	87	4-3-1. 出力信号のアサイン	120
3-10. メモリー	88	4-4. DVI 出力の設定 (標準出力の OUT5 と OUT6、およびオプション)	122
3-10-1. メモリーの登録、呼び出し項目	89	4-5. ダウンコンバーターの設定 (オプション)	124
3-10-2. メモリーの登録 (Store)	90	4-6. 同期信号の設定	125
3-10-3. メモリー動作の 呼び出し (Recall)	91	4-7. 出力信号の位相調整	126
3-10-4. メモリーの削除 (Delete)	92	4-8. マルチビューディスプレイの設定	130
3-10-5. エフェクトディゾルブ	93	4-8-1. 画面レイアウトの設定	130
3-11. フレームメモリー	94	4-8-2. 分割枠と文字の設定	132
3-11-1. AUX バスからの転送	94	4-8-3. タリー表示の設定	133
3-11-2. フラッシュメモリーへの保存	95	4-8-4. 素材名の変更	134
3-12. SD メモリーカード	96	4-8-5. ハイレゾリューション マルチビューモード	135
3-12-1. SD メモリーカードの イニシャライズ	97	4-9. OSD (オンスクリーンディスプレイ) の設定	136
3-12-2. SD メモリーカードへの保存	98	4-10. アンシラリデータ、エンベデッド オーディオデータの設定	137
3-12-3. SD メモリーカードからの 読み込み	99		
3-12-4. SD メモリーカードの ファイル削除	100		
3-12-5. SD メモリーカードの情報表示	100		

もくじ

5. システムの設定	139	6. 外部インターフェース	163
5-1. ビデオフォーマットの設定	139	6-1. コントロールパネルと メインフレームの接続	163
5-2. 2D モードと 3D モードの切り替え	140	6-2. メインフレーム.....	163
5-3. クロスポイントの設定	141	6-2-1. LAN.....	163
5-3-1. クロスポイントのアサイン.....	141	6-2-2. EDITOR.....	164
5-3-2. クロスポイント切り替えの設定.....	143	6-2-3. COM	164
5-4. ボタンアサイン.....	144	6-2-4. TALLY/GPI.....	165
5-4-1. ユーザーボタンの設定	144	6-3. コントロールパネル.....	166
5-5. 日付と時刻の設定.....	146	6-3-1. TALLY/GPI.....	166
5-6. ネットワークの設定.....	147	7. 画像転送機能	167
5-7. その他の設定.....	148	8. セッティングメニュー一覧	172
5-8. 外部機器制御.....	149	9. 外形寸法図	190
5-8-1. 外部機器制御有効/無効の設定.....	149	10. 定格	191
5-8-2. 編集機制御.....	150	付 録【用語解説】	196
5-8-3. GPI の設定	151	保証とアフターサービス	200
5-8-4. カメラの制御.....	153		
5-9. ステータス表示.....	160		
5-9-1. アラーム状態の表示	160		
5-9-2. アラームメッセージ	160		
5-9-3. バージョン情報/ オプション情報の表示.....	161		
5-10. 初期化	162		
5-10-1. 設定データの初期化	162		
5-10-2. フェーダーの初期化	162		

概要

本機は、HD/SD マルチフォーマットに対応した 1ME デジタルビデオスイッチャーです。

本機は、メインフレームとコントロールパネルで構成されています。

メインフレームは、2RU のコンパクトサイズながら、標準で SDI の 16 入力、4 出力が行えます。

また、DVI の 2 出力に対応し、映像効果も、KEY を 1 系統、DSK を 2 系統、PinP を 2 系統、DVE (BKGD) を 2 系統、DVE (KEY) を 1 系統、マルチビューを 2 系統と、多彩な映像制作を可能にします。

入力には、フレームシンクロナイザー、アップコンバーター、カラーコレクターを内蔵しています。

さらにオプションボードを取り付けると、様々な入出力フォーマットに対応したり、3D 映像制作が可能になるなど、柔軟にシステムを構築することができます。

特長

コンパクト設計、豊富な入出力

- メインフレームは、2RU のコンパクトサイズながら、標準で豊富な入出力を備えています。
入力は、標準で HD/SD-SDI の 16 系統で、すべての入力にフレームシンクロナイザーを内蔵しています。
さらにアップコンバーターを 4 系統、カラーコレクターも 8 系統内蔵しています。
出力は、標準で HD/SD-SDI が 4 系統と DVI-D が 2 系統です。
- 入出力兼用のオプションスロットを 2 つ備えています。
入力用のオプションボードを 2 枚取り付けると最大で 20 系統の入力、出力用のオプションボードを 2 枚取り付けると最大で 10 系統の出力まで拡張することができます。

マルチフォーマット対応

- 信号フォーマットは、HD フォーマット (1080/59.94i、1080/50i、1080/24PsF^{*1}、1080/23.98PsF^{*1}、720/59.94p、720/50p)、SD フォーマット (480/59.94i、576/50i)、DVI^{*2} に対応します。

※ 1：下記のオプションボードは対応していません。

AV-HS04M1、AV-HS04M2、AV-HS04M3、AV-HS04M4、 AV-HS04M5、AV-HS04M6、AV-HS04M7、AV-HS04M7D
--

※ 2：標準の DVI 出力は、DVI-D 信号の出力です。

オプションボードの AV-HS04M3 は、DVI-I 信号の入力、AV-HS04M8 は DVI-D 信号の入力、AV-HS04M5 は DVI-I 信号の出力に対応します。

マルチビューディスプレイ機能

- 標準でマルチビューディスプレイ機能を 2 系統装備しています。
モニター 2 台にプログラム映像 (PGM)、プレビュー映像 (PVW)、入力映像信号など、最大で 20 系統の映像を 2 画面に分けて同時に表示することができます。

フレームシンクロナイザー方式／外部同期方式に対応

- 入力すべてに高性能 10 bit フレームシンクロナイザーを内蔵しているので、非同期の映像入力が可能です。
B.B. (ブラックバースト) 出力を利用して、本機の同期を基準にしてシステムを構築することができます。
- ゲンロック機能を備えているので、外部同期信号 (B.B. または TRI 信号) を基準にした外部同期方式にも対応します。

特長

多彩なエフェクト機能を搭載

- 標準ワイプ、ミックス、カットに加えて、縮小、スライドなどの DVE トランジションが可能です。
- 2 画面の押し出し効果など、2 チャンネルを用いた DVE トランジションが可能です。
- キーヤーは、ルミナンスキー、クロマキーを装備し、さらに DSK を 2 系統、PinP を 2 系統の専用ハードウェアを標準装備しています。
- AUX1 に MIX トランジション機能を装備しています。
次に選択した素材との MIX トランジションが可能ですので、柔軟にシステムを構築することができます。

Primatte[®] アルゴリズムによる高品位クロマキー

クロマキーには、プラグインソフトウェアとして多くのノンリニア編集機で定評のある Primatte[®] アルゴリズムをリニア編集のシステムで実現しました。高品位なクロマキー画質を簡単な操作で実現できます。

- Primatte[®] は、株式会社 IMAGICA デジックスの登録商標です。
- Primatte[®] の著作権は、株式会社 IMAGICA デジックスが保有しています。
- Primatte[®] の特許は、株式会社 IMAGICA デジックスが保有しています。

SDHC メモリーカード対応

- SDHC メモリーカードから静止画データ (BMP、JPEG) を本機のフレームメモリーに取り込み、バックグラウンド画像やキー素材として利用することができます。
また、本機のフレームメモリーの画像や設定データを SDHC メモリーカードへ保存することも可能です。

- SDHC ロゴは商標です。

回転台システム (回転台とコンバーチブルカメラ) 制御対応

- COM 端子を利用して、パナソニック製の回転台システム (パン、チルト、ズーム、フォーカス、プリセット) の制御が可能です。
コントローラーを使用すると、最大で 5 台の回転台システムの制御が可能になります。
また、カメラのメニュー操作も可能です。

対応コントローラー	AW-RP555N、AW-RP655N
対応回転台	AW-PH400、AW-PH405N、 AW-PH360N
対応カメラ	AW-HE100N

電源の 2 重化

- 標準で 2 重化電源を装備していますので、安心してライブ運用を行うことができます。

シンプルな操作性

- 16 個のクロスポイントボタンやパターン選択ボタンなど、ダイレクトに各機能の操作を可能にするシンプルなパネルレイアウトにより、迅速なライブ送出が可能です。
プリセット的な操作は、LCD またはオンスクリーンディスプレイ (OSD) に表示されるメニューで行います。

構成

メインフレーム [AV-HS450U1N]	1
コントロールパネル [AV-HS450C1N]	1

付属品

取扱説明書	1
CD-ROM（取扱説明書 / 画像転送ソフトウェア）	1
AC アダプター（コントロールパネル用）	2
電源コード（メインフレーム用 / AC アダプター用）	4
CAT5E ケーブル（STP、ストレート、10 m）	1

■ オプションボード（別売）

製品品番	名称	機能	対応するスロット	
			SLOT A	SLOT B
AV-HS04M1	SDI 入力ボード	SDI 入力 2 系統	○	○
AV-HS04M2	アナログ入力ボード	アナログコンポーネント入力 2 系統	○	○
AV-HS04M3	DVI 入力ボード	DVI-I 入力 2 系統	○	○
AV-HS04M4	アナログ出力ボード	アナログコンポーネント出力 2 系統	○	○
AV-HS04M5	DVI / アナログ出力ボード	DVI-I 出力 1 系統、 アナログコンポーネント出力 1 系統	○	○
AV-HS04M6	アナログコンポジット入力ボード	アナログコンポジット入力 2 系統	○	○
AV-HS04M7	SDI 出力ボード	SDI 出力 2 系統	○	○
AV-HS04M7D	3D SDI 出力ボード	SDI 出力 2 系統、3D モード追加	×	○
AV-HS04M8	フル HD DVI 入力ボード	SDI 出力 2 系統	○	○

■ 取扱説明書について

本機 AV-HS450 は、映像制作にあわせて 2D モードまたは 3D モードに切り替えることができます。この取扱説明書では、2D モード時の操作方法を記載しています。3D モードで操作するときは、AV-HS04M7D の取扱説明書も併せて参照してください。

安全上のご注意

必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ 誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。



警告

「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。



注意

「傷害を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■ お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。



してはいけない内容です。



実行しなければならない内容です。

● 設置・使用方法について



警告

工事は販売店に依頼する



工事は技術と経験が必要です。火災、感電、けが、器物損壊の原因となります。

●必ず販売店に依頼してください。

コンセントや配線器具の定格を超える使い方や、交流100 V～120 V以外での使用はしない



禁止

たこ足配線等で、定格を超えると、発熱による火災の原因となります。

電源を入れたまま工事、配線をしない



禁止

火災や感電の原因となります。

安全上のご注意

必ずお守りください

● 設置・使用方法について

警告

付属品・オプションは指定の製品を使用する



本体に誤って指定外の製品を使用すると、火災や事故を起こすおそれがあります。

湿気やほこりの多い場所、油煙や湯気が当たるような場所に設置しない



火災や感電の原因となります。

禁止

電源プラグは根元まで確実に差し込む



差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。

● 傷んだプラグ、ゆるんだコンセントは使用しないでください。

アースを確実に接続する



付属の電源コードはアース端子付き3芯プラグです。アースに接続された3極コンセントに接続してください。アースの接続がされていないと、故障や漏電による感電の原因となります。

● 販売店に相談してください。

電源コードは、必ずプラグ本体を持って抜く



コードが傷つき、火災や感電の原因となります。

ケーブルなどは引っ張らない



火災や感電の原因となります。

禁止

ぬれた手で、電源プラグの抜き差しはしない



感電の原因となります。

ぬれ手禁止

不安定な場所に設置しない



落下や転倒によるけがや事故の原因となります。

禁止

ケーブルなどを傷つけない



重いものを載せたり、はさんだりすると、ケーブルが傷つき、火災や感電の原因となります。

付属のACアダプター以外は使用しない



付属のACアダプター以外を使用すると、電圧や+-の極性が異なることがあるため、発煙・火災の原因となります。

禁止

長時間使わないときは、電源プラグをコンセントから抜く



火災や感電の原因となります。

電源プラグを抜く

安全上のご注意

必ずお守りください

● 設置・使用方法について

警告

分解しない、改造しない



火災や感電の原因になります。

分解禁止

- 修理や点検は、販売店に連絡してください。

電源コード・電源プラグを破損するようなことはしない（傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重いものを載せたり、束ねたりしない）



傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因となります。

禁止

- コードやプラグの修理は販売店に相談してください。

移動させる場合は外部の接続線を外す



電源コードが傷つくと、火災、感電の原因となります。

- 移動させるときは、電源スイッチを切り、外部接続ケーブルを外したことを確認してください。

機器の上や周囲に水などの入った容器を置かない



水などが中に入った場合、火災や感電の原因となります。

水ぬれ禁止

- 直ちに電源プラグを抜いて、販売店に連絡してください。

水場で使用しない



火災・感電の原因となります。

水場使用禁止

異物を入れない



水や金属が内部に入ると、火災や感電の原因となります。

禁止

- 直ちに電源プラグを抜いて、販売店に連絡してください。

本機の上に重いものを置かない



禁止

バランスが崩れて倒れたり、落下したりするなど、けがの原因となります。また、火災、感電の原因となります。

落としたり、破損させたりしない



本機を落としたり、破損させたりしたまま使用すると、火災や感電の原因となります。

- 直ちに電源プラグを抜いて、販売店に連絡してください。

振動や強い衝撃を与えない



禁止

火災や感電の原因となります。

安全上のご注意

必ずお守りください

● 設置・使用方法について

警告

開口部（オプションスロット部など）に手を入れない



禁止

けがや感電の原因となります。

メモリーカードは乳幼児の手の届くところに置かない



禁止

誤って飲み込むと、身体に悪影響を及ぼします。

- 万一、飲み込んだと思われるときは、すぐに医師にご相談ください。

注意

通風孔、冷却ファンをふさがない



禁止

内部に熱がこもり、火災の原因となります。

ケーブルは正しく接続する



左右が入れ替わった3D映像は、視聴時に目の疲れや、体調不良の原因になることがあります。

3D映像の視聴時は、モニターなど表示機器の取扱説明書に従い正しく安全に使用する



誤った視聴を続けると、目の疲れや、体調不良の原因になることがあります。

3D映像の制作時には、左右の映像に差を付け過ぎない



禁止

視差を付け過ぎた3D映像や、左右で大きさや垂直位置、色、明るさなどの異なる3D映像は、視聴時に目の疲れや、体調不良の原因になることがあります。

本機を、直射日光の当たる場所や、火のそばなどの高温になる場所に置かない



禁止

内蔵のコイン電池が高温になり、火災の原因となります。

安全上のご注意

必ずお守りください

● 異常時の処理について



異常があるときは、すぐ使用をやめる



煙が出る、においがする、外部が劣化するなど、そのまま使用すると火災・落下によるけが、器物破壊の原因となります。

- 放置せずに、直ちに電源を切り、販売店に連絡してください。

● お手入れについて



お手入れのときは電源を切り、電源プラグを抜く



感電の原因となります。

電源プラグのほこりなどは定期的にとる



プラグにほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因となります。

- 電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。

1年に1度は、販売店に内部の掃除のご相談を！



本機の内部にほこりがたまったら、使用すると、火災や故障の原因になる恐れがあります。

使用上のお願い

●取り扱いにはいねいに

落としたり、強い衝撃や振動を与えないでください。また、フェーダーレバーを持って持ち運びや移動はしないでください。故障や事故の原因になります。

●使用温度範囲は、0℃～+40℃でお使いください。

0℃以下の寒い所や+40℃以上の暑い所では内部の部品に悪影響を与えるおそれがあります。

●ケーブルの抜き差しは電源を切って

ケーブルの抜き差しは、必ず機器の電源を切ってから行ってください。

●湿気、ホコリの少ないところで

湿気、ホコリの多いところは、内部の部品がいたみやすくなりますのでさけてください。

●お手入れは

電源を切って乾いた布で拭いてください。汚れが取れにくいときは、うすめた台所用洗剤（中性）を布にしみ込ませ、よく絞り、軽く拭いた後、水拭きしてから、乾いた布で拭いてください。

お願い

- ・ベンジンやシンナーなど揮発性のものは使用しないでください。
- ・化学ぞうきんを使用するときは、その注意事項をよくお読みください。

●制作時のご注意

本機の映像切り替え機能や映像効果機能を用いると、細かく点滅する映像や急激に変化する映像を制作することが可能です。

このような映像は、視聴者の身体へ影響を与える可能性がありますので、制作時には、特にご留意ください。

●オプションボードの取り扱い

オプションボードを取り付けるときや取り外すときは、必ず機器の電源を切ってから行ってください。

また、オプションボードを取り付けるときや取り外すときに、オプションボードの縁や金属部などでけがをしないようにご注意ください。

●廃棄のときは

本機のご使用を終え、廃棄されるときは環境保全のため、専門の業者に廃棄を依頼してください。

●消耗品について

冷却ファン：

冷却ファンは消耗品です。

約5年（1日に15時間使用時）を目安に交換してください。

電源ユニット：

電源ユニットは消耗品です。

約5年（1日に15時間使用時）を目安に交換してください。

消耗品の交換時期は、使用条件により異なります。

消耗品を交換する場合は、必ず、販売店に依頼してください。

個人情報の保護について

本機を使用したシステムで製作された本人が判別できる情報は、「個人情報の保護に関する法律」で定められた「個人情報」に該当します。*

法律に従って、映像情報を適正にお取り扱いください。

*経済産業省の「個人情報の保護に関する法律についての経済産業分野を対象とするガイドライン」における【個人情報に該当する事例】をご参照してください。

- 本商品および、ともに使用するSDメモリーカードに記録された情報内容は、「個人情報」に該当する場合があります。本商品が廃棄、譲渡、修理などで第三者に渡る場合は、その取り扱いに十分に注意してください。

SDメモリーカードは取り外し、保管管理してください。

使用上のお願い

商標および登録商標について

- Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の、米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。
- Adobe および Reader は、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- SDHC ロゴは商標です。
- その他、本文中の社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

免責について

弊社はいかなる場合も以下に関して一切の責任を負わないものとします。

- ① 本機に関連して直接または間接に発生した、偶発的、特殊、または結果的損害・被害
- ② お客様の誤使用や不注意による障害または本機の破損など
- ③ お客様による本機の分解、修理または改造が行われた場合
- ④ 本機の故障・不具合を含む何らかの理由または原因により、映像が表示できないことによる不便・損害・被害
- ⑤ 第三者の機器などと組み合わせたシステムによる不具合、あるいはその結果被る不便・損害・被害
- ⑥ 取付方法の不備など、本商品の不良によるもの以外の事故に対する不便・損害・被害
- ⑦ 登録した情報内容が何らかの原因により、消失してしまうこと
- ⑧ 本体や SD メモリーカードまたは PC に保存された画像データ、設定データの消失あるいは漏えいなどによるいかなる損害、クレームなど

1. 設置

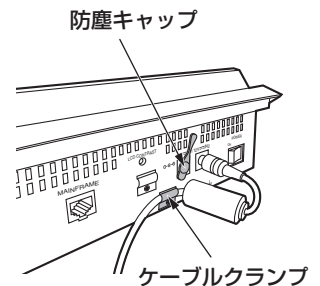
1-1. コントロールパネルの設置

「安全上のご注意」に記載されている内容とともに、以下の事項をお守りください。

本機を設置するときや接続工事を行うときは、必ず、販売店に依頼してください。

電源の接続について

- AC 100 V ~ 120 V で使用してください。
- 付属の電源コードと AC アダプターを必ず使用してください。
- 電源コードのアース端子は、必ずアースに接続してください。
また、背面のグランド端子 (SIGNAL GND) は、システムのグランドに接続してください。
- AC アダプターを 1 系統のみ接続する場合は、使わない DC 電源入力端子に防塵キャップを取り付けてください。
- DC プラグの抜け防止のため、AC アダプターのケーブルは、ケーブルクランプに取り付けてください。
- 長時間使用しないときは、節電のため電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。



取り扱いはいないに

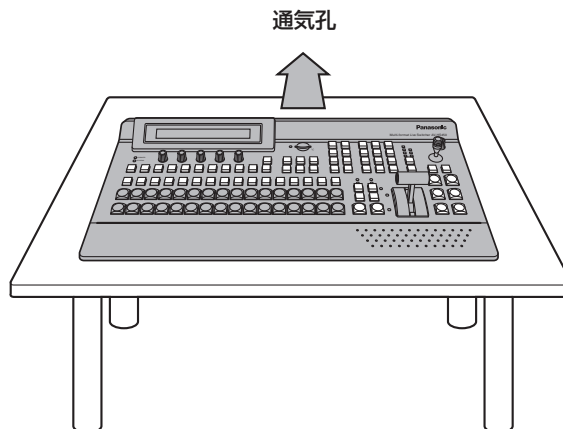
- 落したり、強い衝撃や振動を与えると、故障や事故の原因になります。

内部に異物を入れないでください。

- 水や金属、飲食物などの異物が内部に入ると、火災や感電の原因になります。

設置場所について

- 本機は、屋内専用の機器です。
- 十分な強度があり、安定した水平な場所に置いて使用してください。
- 背面の通気孔周辺は、通風の妨げにならないように 100 mm 以上の空間を確保してください。
特にパネルやテーブルに埋め込んで使用する場合は、通気と配線の空間を十分に確保してください。
- 0 °C 以下の寒いところや、+40 °C 以上の暑いところに設置しないでください。
- 直射日光の当たるところや温風の吹き出し口付近への設置は避けてください。
- 湿気やほこり、振動の多い場所に設置すると、故障の原因となります。



1. 設置

1-2. メインフレームの設置

「安全上のご注意」に記載されている内容とともに、以下の事項をお守りください。

本機を設置するときや接続工事を行うときは、必ず、販売店に依頼してください。

電源の接続について

- AC 100 V ~ 120 V で使用してください。
- メインフレームは、1 系電源と 2 系電源の両方を動作させて使用してください。
1 系電源と 2 系電源に AC 電源の入力がない場合や電源スイッチが OFF の場合、アラームが表示されます。
- 付属の電源コードを必ず使用してください。
- 電源コードのアース端子は、必ずアースに接続してください。

取り扱いはいないに

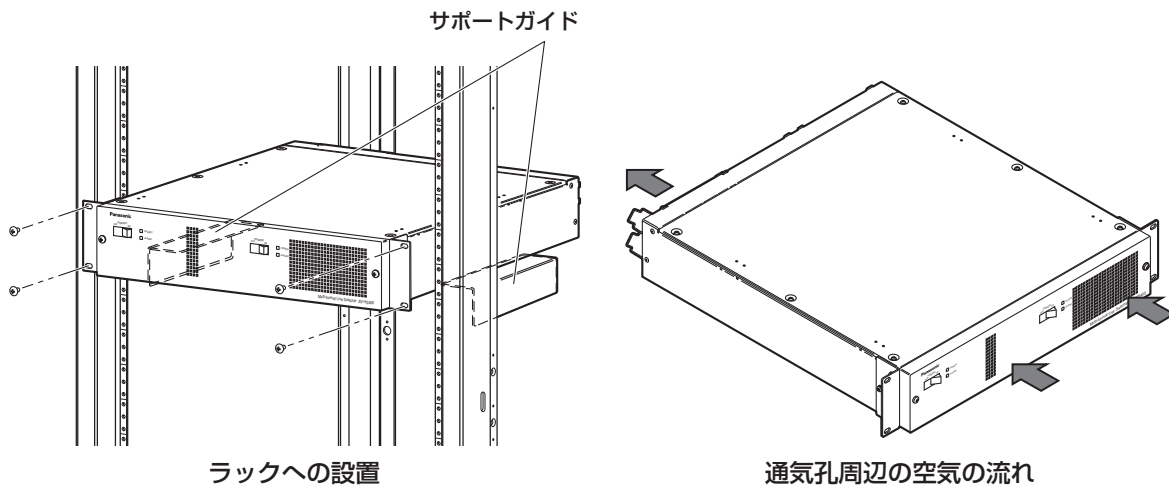
- 落としたり、強い衝撃や振動を与えると、故障や事故の原因になります。

内部に異物を入れないでください。

- 水や金属、飲食物などの異物が内部に入ると、火災や感電の原因になります。

設置場所について

- 本機は、屋内専用の機器です。
- EIA 規格相当品の 19 インチ標準ラック (奥行寸法: 600 mm 以上) に確実に取り付けて使用してください。
- 収納するラックに適合したねじで、確実に固定してください。
- メインフレームの後部を支えるサポートガイドを必ず取り付けてください。
(サポートガイドは、ラックに適合するものを用意してください。)
- 前面の吸気孔と背面の冷却ファンの周辺には、十分な空間を確保してください。
- 0 °C 以下の寒いところや、+40 °C 以上の暑いところに設置しないでください。
- 直射日光の当たるところや温風の吹き出し口付近への設置は避けてください。
- 湿気やほこり、振動の多い場所に設置すると、故障の原因となります。



1. 設置

1-3. オプションボードの取り付けかた

オプションボードをメインフレームに取り付けます。

詳細は、各オプションボードの取扱説明書を参照してください。

※下記のオプションボードの取扱説明書は、AV-HS400ANに取り付ける場合の内容で記載されています。
本書の内容に読み替えて参照してください。

< オプションスロットと信号ラインの読み替え >

オプションボードと各取扱説明書に記載されている内容			AV-HS450Nに取り付ける場合	
AV-HS04M1、AV-HS04M2、 AV-HS04M3、AV-HS04M6	SLOT 1	INPUT 5、INPUT 6	SLOT A	IN A2、IN A1
	SLOT 2	INPUT 7、INPUT 8	SLOT B	IN B2、IN B1
AV-HS04M4、AV-HS04M5、 AV-HS04M7	SLOT 1	OUTPUT 3、OUTPUT 4	SLOT A	OUT A2、OUT A1
	SLOT 2	OUTPUT 5、OUTPUT 6	SLOT B	OUT B2、OUT B1

< AV-HS04M6 の設定スイッチ：SW501 の読み替え >

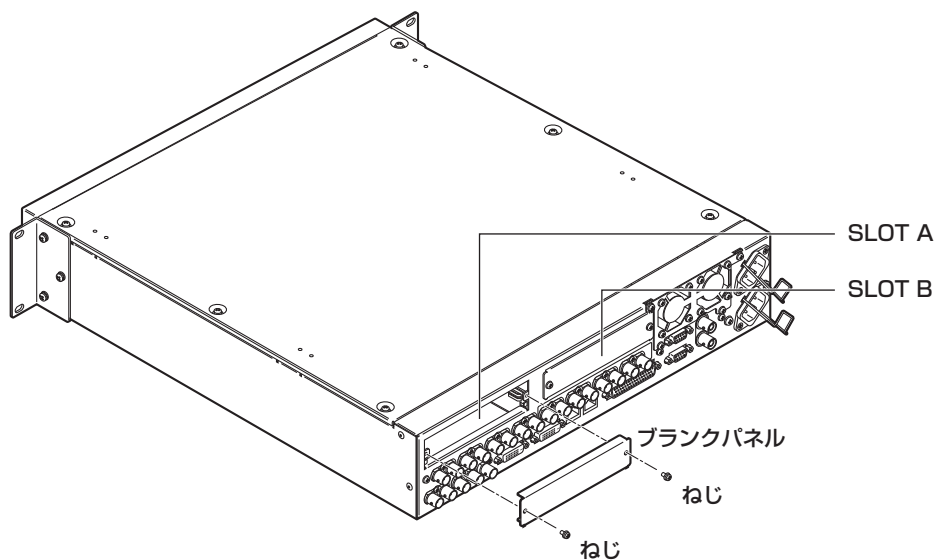
取扱説明書に記載されている内容		AV-HS450Nに取り付ける場合	
スイッチNo.		スイッチNo.	
1	YC分離モード	1	YC分離モード
2	(INPUT5、7)	2	(IN A1、IN B1)
3	YC分離モード	3	YC分離モード
4	(INPUT6、8)	4	(IN A2、IN B2)
5	NTSC SETUP	5	NTSC SETUP
6		6	
7	リザーブ	7	リザーブ
8		8	

注意

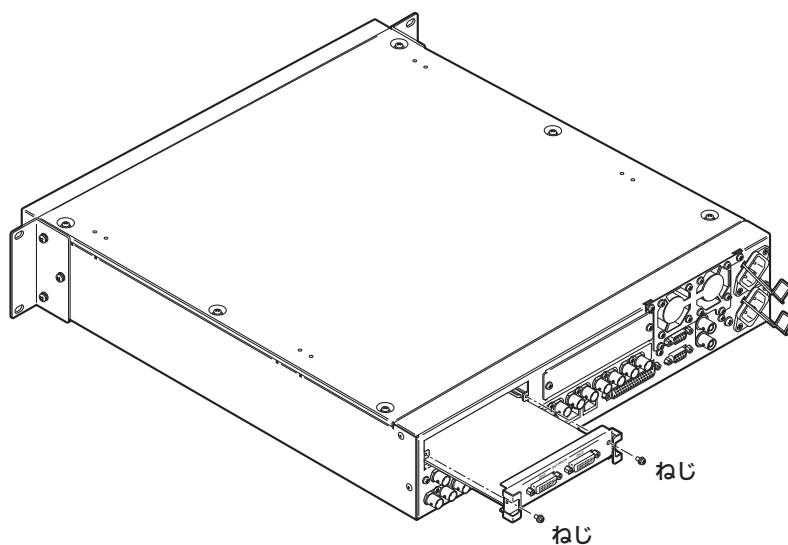
- 取り付け、および取り外し作業は、必ず販売店に依頼してください。
- 取り付け、および取り外し作業は、電源を切り、電源プラグを抜いてから行ってください。
- オプションボードに触れる前に、接地した金属に手を触れ、人体に帯電している静電気を「放電」してください。静電気防止のリストストラップを着けると安全です。
帯電している状態でオプションボードに触れると、故障の原因となります。
- オプションボードを落としたり、強い衝撃や振動を与えて破損しないようにしてください。
- オプションボードを取り外した後は、必ずブランクパネルを取り付けてください。
- オプションボードを取り付けるときや取り外すときに、オプションボードの縁や金属部などでけがをしないようにご注意ください。
- AV-HS04M7D は、本機の SLOT B に取り付けてください。SLOT A に取り付けても動作しません。

1. 設置

- ① メインフレームの電源を OFF にし、電源コードを抜く。
- ② メインフレーム背面の SLOT A または SLOT B のねじ 2 本を緩めて、ブランクパネルを外す。



- ③ オプションボードをガイドレールに沿わせて、ゆっくりと差し込む。
確実に奥まで差し込んでください。このとき無理な力を加えると、内部のコネクターを破損することがありますので、ご注意ください。
- ④ ねじ 2 本でオプションボードを取り付ける。
締め付けトルク：0.7 N・m

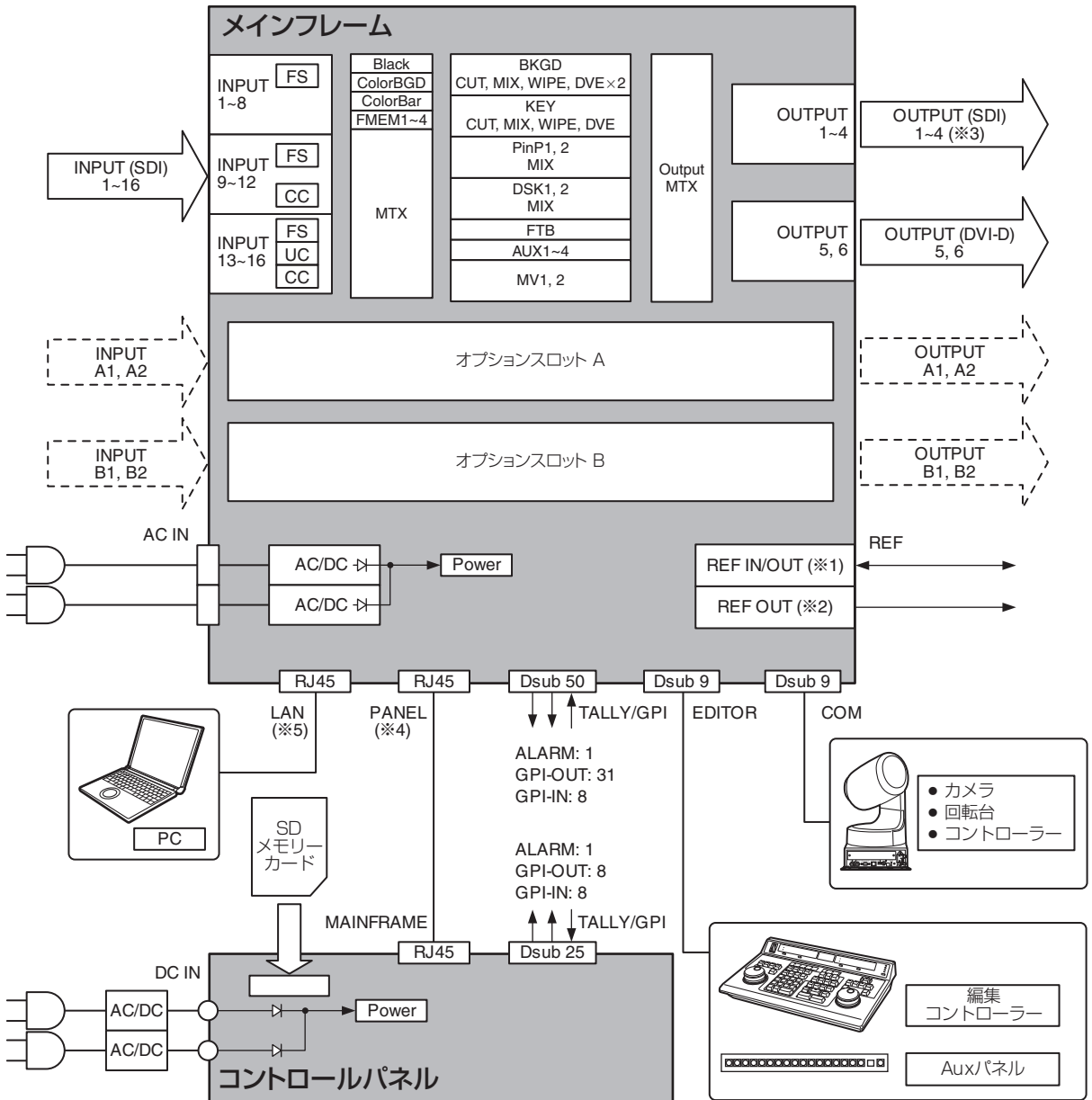


- ⑤ 必要なケーブルを接続してから、電源コードを差し込んで電源を入れる。

1. 設置

1-4. 接続

1-4-1. ブロックダイアグラム



※ 1 : リファレンス信号の設定を外部同期に設定した場合は、リファレンス信号入力になります。
内部同期に設定した場合は、リファレンス信号出力になります。

※ 2 : リファレンス信号の設定を外部同期に設定した場合は、ループスルー出力になります。
内部同期に設定した場合は、リファレンス信号出力になります。

※ 3 : OUTPUT (SDI) 1 は、2 分配出力です。

※ 4 : PANEL 端子と MAINFRAME 端子は、付属の CAT5E ケーブルで直接接続してください。

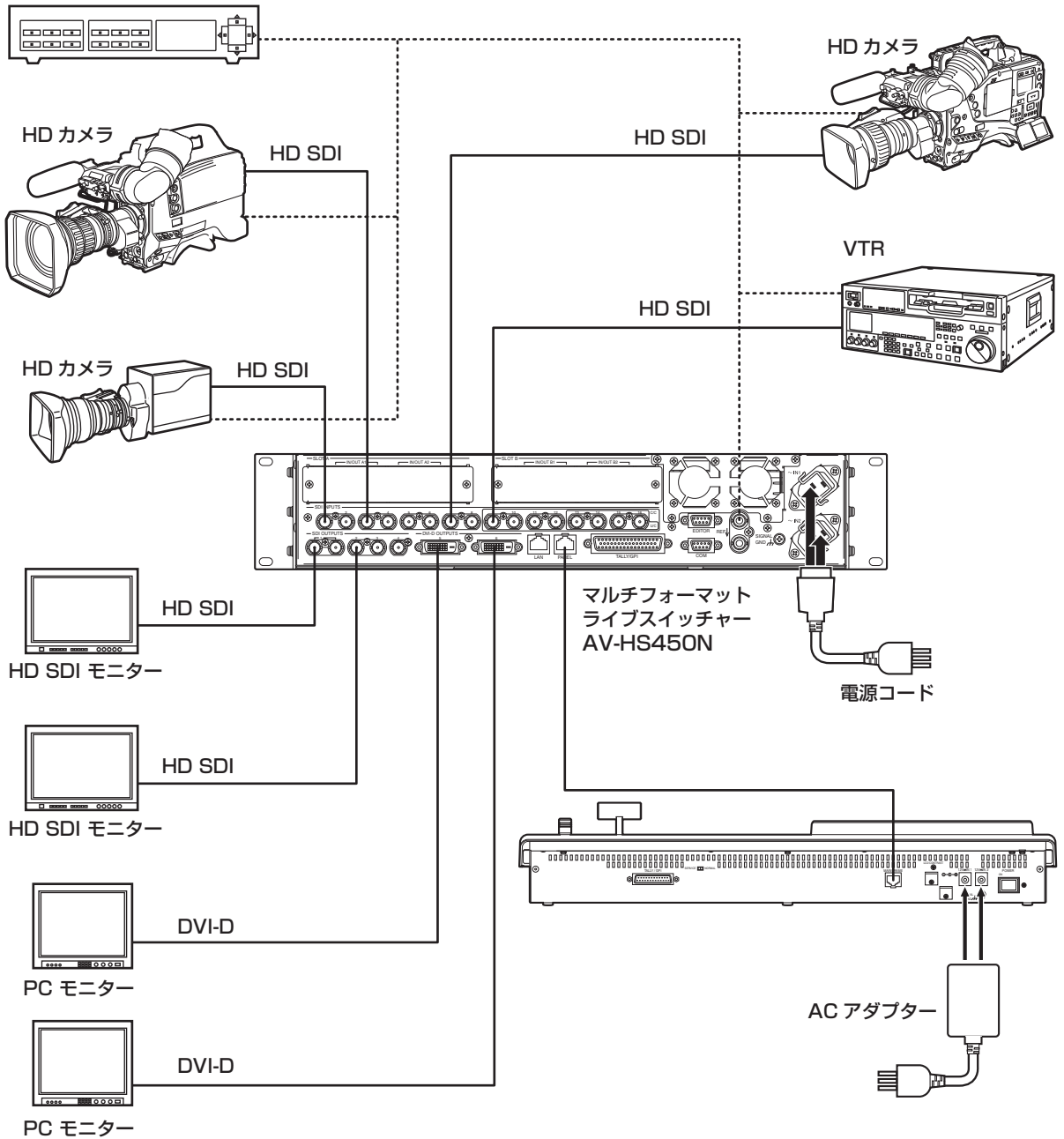
※ 5 : PC を接続する場合、公衆回線に接続しないでください。

1. 設置

1-4-2. 外部同期をかける接続 (フレームシンクロナイザー OFF)

同期信号発生器

(Sync Generator)



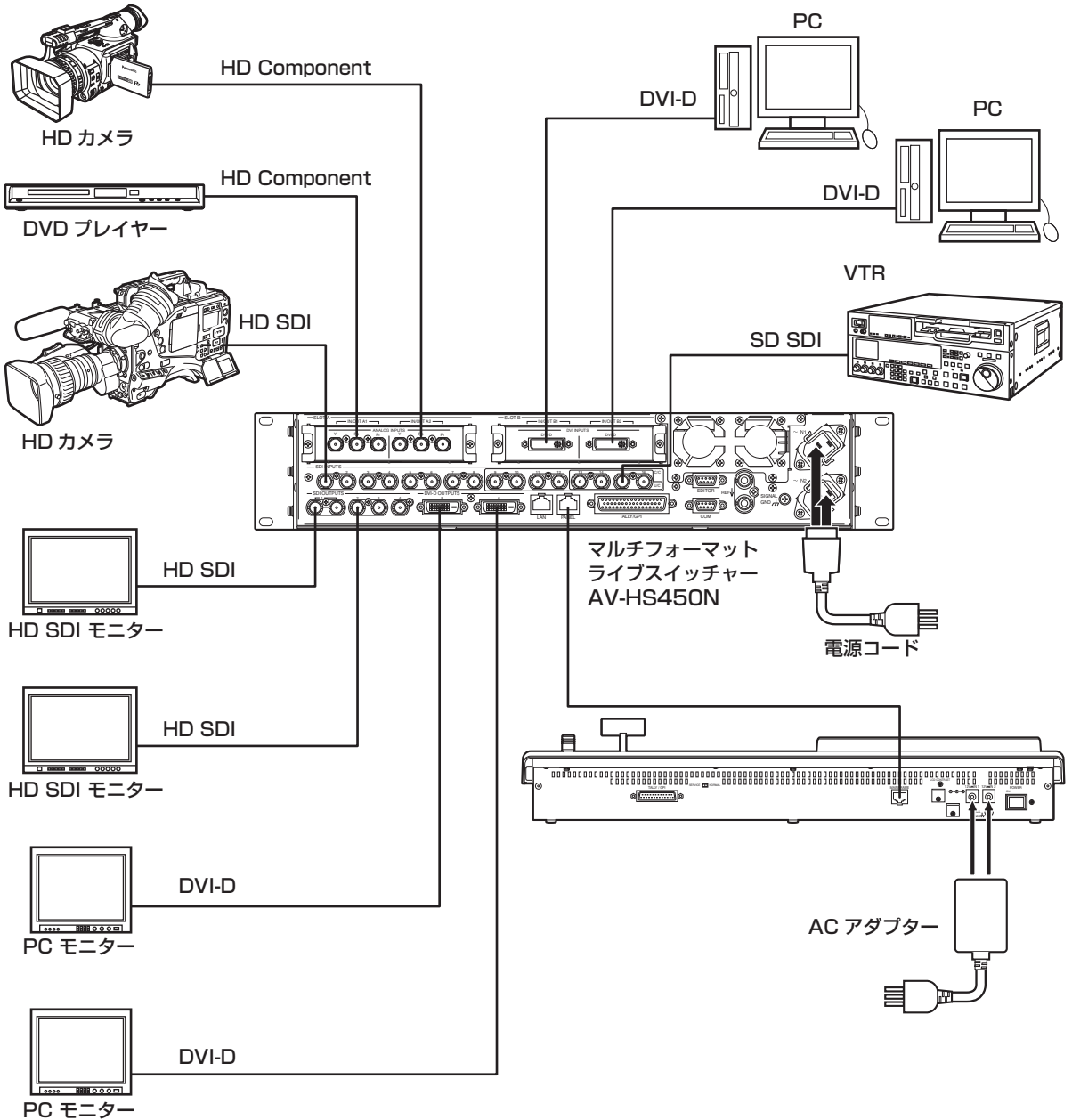
- 本機を設置するときや、接続工事を行うときは、必ず販売店に依頼してください。
- 電源コードの接続は、3 極コンセントを使用して確実にアースを接続してください。

1. 設置

1-4-3. 外部同期をかけない接続（フレームシンクロナイザー ON）

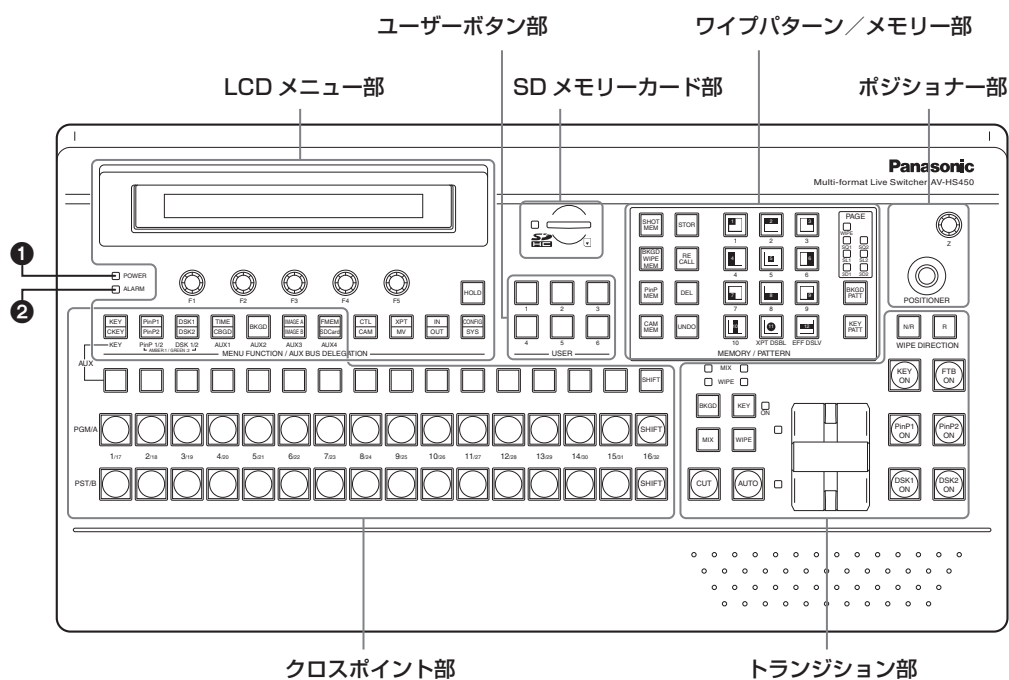
オプションボードを使用した例

SLOT A : アナログ入力ボード (AV-HS04M2)
SLOT B : フル HD DVI 入力ボード (AV-HS04M8)



2. 各部の機能

2-1. コントロールパネル



① 電源表示灯 [POWER]

DC 電源入力端子に電源が入力されているときに、背面の電源スイッチ (39) を ON にすると点灯します。

② アラーム表示灯 [ALARM]

メインフレームの冷却ファンが停止しているとき、またはメインフレームおよび、コントロールパネルの電源に異常 (電圧低下) があるときに点灯します。

このとき、LCD と外部モニターの OSD 画面にアラームメッセージが表示されます。

アラーム発生中は、SYSTEM/Alarm メニューで、異常の内容を確認することができます。

アラーム情報は、コントロールパネルの TALLY/GPI 端子 (35) から外部機器に出力することができます。

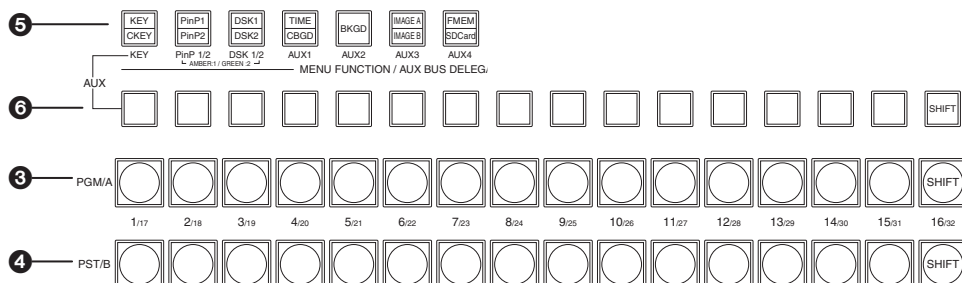
詳しくは、「5-9-2. アラームメッセージ」を参照してください。

アラームが発生した場合は、すぐに使用を中止し、必ず販売店へご連絡ください。

そのまま使用すると、本機が故障する原因となることがあります。

2. 各部の機能

2-1-1. クロスポイント部



③ PGM/A バスクロスポイントボタン [PGM/A 1 ~ 32]

PGM/A バスの映像信号を選択します。

[SHIFT] ボタンを使って、1 ~ 32 までを選択することができます。

⇒ 「3-1-2. SHIFT 機能によるバスの選択」参照

フリップフロップ方式の場合は、常に本線映像 (PGM) を選択します。

クロスポイントボタン (③、④、⑥) を長押ししたときは、入力素材の名称やクロスポイントボタンの番号を表示します。

④ PST/B バスクロスポイントボタン [PST/B 1 ~ 32]

PST/B バスの映像信号を選択します。

[SHIFT] ボタンを使って、1 ~ 32 までを選択することができます。

⇒ 「3-1-2. SHIFT 機能によるバスの選択」参照

フリップフロップ方式の場合は、常に次に挿入される映像 (PST) を選択します。

⑤ AUX バス選択ボタン [KEY、PinP 1/2、DSK 1/2、AUX1 ~ AUX4]

AUX バスクロスポイントボタン (⑥) で操作するバスを選択します。

選択されているボタンが点灯します。

[KEY] :

AUX バスクロスポイントボタン (⑥) をキーフィルバスのソース選択ボタンに切り替えます。

キーソースバスのソースは、AUX バスクロスポイントボタン (⑥) を長押ししたときに表示するメニューで設定できます。設定されたソースは、DSK1 と DSK2 共通になります。

また、CONFIG メニューでソースを設定することもできます。

[PinP 1/2] :

AUX バスクロスポイントボタン (⑥) を PinP バスのソース選択ボタンに切り替えます。

ボタンを押すごとに PinP1 と PinP2 が切り替わります。

PinP1 が選択されているときは、ボタンがアンバー色に点灯し、PinP2 が選択されているときは、ボタンが緑色に点灯します。

2. 各部の機能

[DSK 1/2] :

AUX バスクロスポイントボタン (⑥) を DSK フィルバスのソース選択ボタンに切り替えます。
ボタンを押すごとに DSK1 と DSK2 が切り替わります。

DSK1 が選択されているときは、ボタンがアンバー色に点灯し、DSK2 が選択されているときは、ボタンが緑色に点灯します。

[AUX1] ~ [AUX4] :

AUX バスクロスポイントボタン (⑥) を AUX バスのソース選択ボタンに切り替えます。

AUX バス選択ボタンは、メニューファンクションボタン (⑳) としても使用します。
--

⑥ AUX バスクロスポイントボタン

AUX バス選択ボタン (⑤) で切り替えたバスのソースを選択します。

[SHIFT] ボタンを使って、1 ~ 32 までを選択することができます。

⇒ 「3-1-2. SHIFT 機能によるバスの選択」 参照

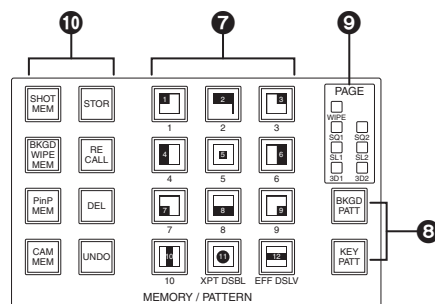
2. 各部の機能

2-1-2. ワイプパターン／メモリー部

⑦ ワイプパターン／メモリー選択ボタン

BKGD/KEY パターン選択ボタン (③) が点灯しているときは、1～12のワイプパターンが選択できます。

メモリー操作ボタン (⑩) の [SHOT MEM]、[BKGD WIPE MEM]、[PinP MEM]、[CAM MEM] が点灯しているときは、1～10のボタンに対してメモリーの登録およびメモリーの呼び出しができます。



⑧ BKGD/KEY パターン選択ボタン [BKGD PATT] [KEY PATT]

[BKGD PATT] ボタンを押して点灯しているときは、バックグラウンドトランジションのワイプパターンを選択します。

[KEY PATT] ボタンを押して点灯しているときは、キートランジションのワイプパターンを選択します。

[BKGD PATT] ボタンと [KEY PATT] ボタンは、押すごとにパターンのページが WIPE (ワイプ)、SQ1 (スクィーズ 1)、SL1 (スライド 1)、3D1 (3次元 1)、SQ2 (スクィーズ 2)、SL2 (スライド 2)、3D2 (3次元 2) の順に切り替わり、パターンページ表示 LED (⑨) の点灯位置で選択されているパターンのページが確認できます。

キートランジションのワイプパターンでは、SQ2、SL2、3D2 を選択することができません。

⑨ パターンページ表示 LED [PAGE]

LED の点灯位置で、BKGD/KEY パターン選択ボタン (③) で選択したパターンのページが確認できます。

⑩ メモリー操作ボタン [SHOT MEM] [BKGD WIPE MEM] [PinP MEM] [CAM MEM] [STOR] [RECALL] [DEL] [UNDO]

[SHOT MEM] ボタン、[BKGD WIPE MEM] ボタン、[PinP MEM] ボタン、[CAM MEM] ボタンのいずれかを押し、テンキー (1～10) に対してメモリーの操作を行います。

[STOR] :

メモリーを登録します。

[RECALL] :

メモリーの呼び出しをします。

[DEL] :

メモリーを削除します。

[UNDO] :

[RECALL] ボタンと [DEL] ボタンの操作を戻します。

元に戻すことができる操作の回数は、1 度だけです。

[CAM MEM] ボタンを押したときのメモリーの操作では、この操作を行うことができません。

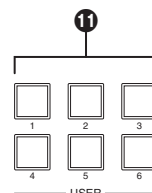
2. 各部の機能

2-1-3. ユーザーボタン部

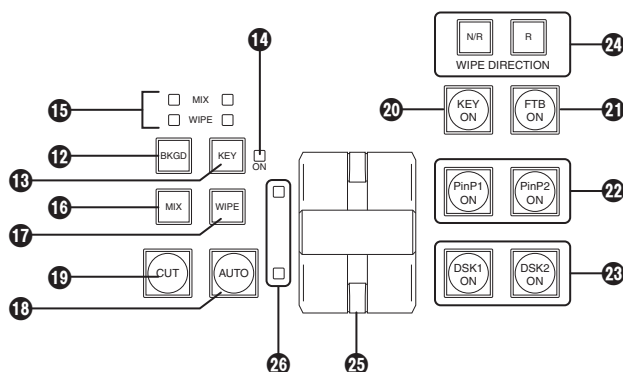
⑪ ユーザーボタン [USER1 ~ USER6]

CONFIG メニューでメニュー設定の一部の機能を、[USER1] ~ [USER6] にアサインして使用することができます。

⇒ 「5-4-1. ユーザーボタンの設定」 参照



2-1-4. トランジション部



⑫ [BKGD] ボタン

[AUTO] ボタン (18) またはフェーダーレバー (25) の操作を行ったときに、バックグラウンドのトランジションを行います。

[BKGD] ボタンを押して選択されているときはアンバー色に点灯します。

[KEY] ボタン (13) が押された場合は消灯し、非選択状態になります。

ただし、[BKGD] ボタンと [KEY] ボタン (13) を同時に押した場合は、両方の選択状態となります。

⑬ [KEY] ボタン

[AUTO] ボタン (18) またはフェーダーレバー (25) の操作を行ったときに、キーのトランジションを行います。

[KEY] ボタンを押して選択されているときは、アンバー色に点灯します。

[BKGD] ボタン (12) が押された場合は消灯し、非選択状態になります。

ただし、[BKGD] ボタン (12) と [KEY] ボタンを同時に押した場合は、両方の選択状態となります。

⑭ KEYON 状態表示 LED

キー ON 状態の場合に、赤色に点灯します。

⑮ MIX/WIPE 選択状態表示 LED

バックグラウンドトランジションまたはキートランジションを行うときに、それぞれ MIX、WIPE のどちらが選択されているかを表示します。

2. 各部の機能

16 [MIX] ボタン

A/B バスの画像をオーバーラップさせながら切り替えます。

トランジション中は、A/B バスの出力の合計が 100 % に保たれます。

[MIX] ボタンを押して選択されているときはアンバー色に点灯します。

[WIPE] ボタン (17) が押された場合は、消灯し、非選択状態になります。

17 [WIPE] ボタン

ワイプパターン選択ボタン (7) で選択したパターンにより、トランジションを行います。

[WIPE] ボタンを押して選択されているときはアンバー色に点灯します。

[MIX] ボタン (16) が押された場合は、消灯し、非選択状態になります。

18 [AUTO] ボタン

TIME メニューで設定されたトランジションタイムにより、トランジションを自動実行します (オートトランジション)。

オートトランジション中はアンバー色に点灯します。オートトランジション中に再度押すと、オートトランジションの動作を中断し、緑色に点灯します。中断中に再度押すと、残りのトランジションを実行します。オートトランジションが完了すると消灯します。

フェーダーレバー (25) が途中の状態ですら [AUTO] ボタンを押すと、途中からの残り時間でトランジションを実行します。

19 [CUT] ボタン

トランジションを瞬時に実行します。

トランジション中はアンバー色に点灯し、トランジションが完了すると消灯します。

20 [KEY ON] ボタン

TIME メニューで設定されたトランジションタイムで、キーのトランジションを行います。

21 [FTB ON] ボタン

TIME メニューで設定されたトランジションタイムで、黒画面へのフェードアウト、または黒画面からのフェードインを実行します。

22 PinP ボタン [PinP1 ON] [PinP2 ON]

TIME メニューで設定されたトランジションタイムで、ピクチャーインピクチャーのフェードイン、フェードアウトを実行します。

23 DSK ボタン [DSK1 ON] [DSK2 ON]

TIME メニューで設定されたトランジションタイムで、ダウンストリームキーのフェードイン、フェードアウトを実行します。

2. 各部の機能

④ ワイプ方向選択ボタン [WIPE DIRECTION N/R、R]

バックグラウンドトランジション実行時にワイプを行う方向を選択します。

[R] 消灯時 : ノーマル方向にワイプを行います。

[R] 点灯時 : リバース方向にワイプを行います。

[N/R] 点灯時 : トランジション完了時にノーマル方向とリバース方向を入れ替えます。

(ワイプを行う方向に合わせて [R] ボタンの点灯と消灯も切り替わります。)

⑤ フェーダーレバー

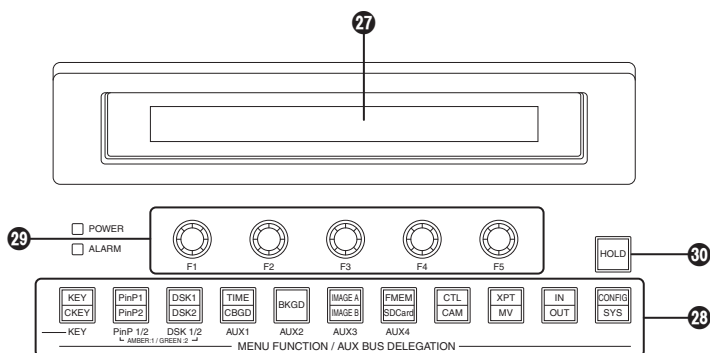
バックグラウンドまたはキーのトランジションを実行する場合に使用します。レバーを動かしきると、トランジションが完了します。オートトランジション実行中にフェーダーレバーを動かした場合、フェーダーの位置が実行中のトランジション量を追い越した時点でマニュアル動作に切り替わります。

⑥ バスタリー LED

A/B バスの出力状態を表示します。プログラム (PGM) 出力されているバス側が点灯します。

2. 各部の機能

2-1-5. LCD メニュー部



② LCD

メニューファンクションボタン (28) を押したときは、設定メニューを表示します。

また、下記のボタンをダブルクリックすると、特定されたメニューに切り替わります。
(メニューデリゲーション機能)

このとき、各ボタンを押したときの動作も実行されます。

<メニューデリゲーション機能一覧>

	ボタン	メニュー
トランジション部	BKGD	TIME メニュー /BKGD サブメニュー
	KEY	TIME メニュー /KEY サブメニュー
	WIPE	BKGD メニュー /Border サブメニュー
ワイプパターン部	WIPE の 5 番 (BKGD)	BKGD メニュー /WIPEPos サブメニュー
	WIPE の 5 番 (KEY)	KEY メニュー /WIPEPos サブメニュー
	WIPE の 11 番 (BKGD)	BKGD メニュー /WIPEPos サブメニュー
	WIPE の 11 番 (KEY)	KEY メニュー /WIPEPos サブメニュー
	SQ の 5 番 (BKGD)	BKGD メニュー /SQPos サブメニュー
	SQ の 5 番 (KEY)	KEY メニュー /SQPos サブメニュー
	SL の 5 番 (KEY)	KEY メニュー /FlyKEY サブメニュー

2. 各部の機能

28 メニューファンクションボタン [MENU FUNCTION/AUX BUS DELEGATION]

各機能別のメニューを選択します。

ボタンを押すごとに上段に表示されている機能と下段に表示されている機能のメニューが切り替わります。
[PinP1/PinP2] ボタンと [DSK1/DSK2] ボタンは、ボタンを押すごとにアンバー色と緑色に点灯色が変わります。他のボタンは、アンバー色に点灯します。

29 ロータリーエンコーダー [F1] ~ [F5]

メニュー (LCD または OSD) に表示されたパラメーターの設定をします。

詳細な操作については、「3. 基本操作」の各項を参照してください。

[F1] : ロータリーエンコーダーを回してサブメニューを切り替えます。
INPUT メニューと OUTPUT メニューでは、設定する信号を切り替えます。

[F2] : ロータリーエンコーダーを回してパラメーターの設定をします。
INPUT メニューと OUTPUT メニューでは、第3メニューを切り替えます。

[F3] ~ [F5] : ロータリーエンコーダーを回してパラメーターの設定をします。
メニュー項目に “↓” が表示されている場合は、ロータリーエンコーダーを押すことでパラメーターが決定されます。

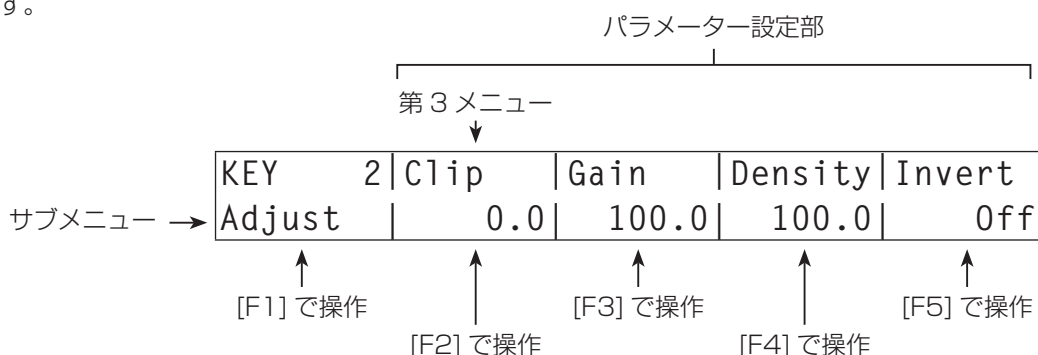
数値で設定するパラメーターの場合は、ロータリーエンコーダーを長押しするとデフォルトに戻ります。
(ただし、ネットワークの設定および日付と時刻の設定は、デフォルト値に戻りません。)

メニューの基本操作

詳細な操作については、「3. 基本操作」の各項を参照してください。

また、メニューの構成は、「8. セッティングメニュー一覧」を参照してください。

- ① メニューファンクションボタン (28) で、各機能別のメニューを選択します。
- ② ロータリーエンコーダー (29) で、詳細な設定を行うサブメニューを表示し、パラメーターの設定をします。



- INPUT メニューと OUTPUT メニューは、オプションボードの有無によりメニューが異なります。

30 [HOLD] ボタン

メニューを表示しているときに [HOLD] ボタンを押すと、メニューファンクションボタン (28) を押しても他のメニューに切り替わりません。

また、AUX バス選択ボタン (5) を押しても他のバスに切り替わりません。

[HOLD] ボタンが押されているときは、[HOLD] ボタンがアンバー色に点灯します。

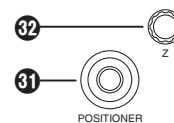
2. 各部の機能

2-1-6. ポジショナー部

③1 ポジショナー [X/Y]

下記の設定を行うときに使用します。

- PinP1、PinP2 の位置設定
- ワイブの開始位置設定 (WIPE の 5 番、11 番、SQ の 5 番)
- カメラの制御
- フライングキーの位置設定
- クロマキーのマーカ位置設定



いずれも下記メニューが選択されている場合にのみ有効になります。

注意

本機は、電源を入れてから起動するまでの間にポジショナーの中心値を設定します。
起動するまでの間は、ポジショナーを操作しないでください。

③2 ロータリーエンコーダー [Z]

PinP やフライングキーの大きさ設定、およびクロマキーの領域を選択するときを使用します。

いずれも下記メニューが選択されている場合にのみ有効になります。

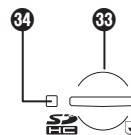
	ポジショナー	ロータリーエンコーダー		有効メニュー
	X/Y	Z	スイッチ	
PinP1、PinP2	位置調整	サイズ調整 (右回りでサイズが大きくなり、左回りで小さくなる)	長押しで初期値 (X/Y、Z) に戻る	PinP1、PinP2 のメニュー全て (PinP1、PinP2/Rotation 除く)
	回転角度調整 (X方向とY方向の回転)	回転角度調整 (Z方向の回転)	長押しで初期値 (X/Y、Z) に戻る	
WIPE (BKGD)	開始位置調整	—	長押しで初期値 (X/Y) に戻る	BKGD/WIPEPos BKGD/SQPos
WIPE (KEY)	開始位置調整	—	長押しで初期値 (X/Y) に戻る	KEY/WIPEPos KEY/SQPos
クロマキー	選択位置調整	選択領域のサイズ調整 (右回りでサイズが大きくなり、左回りで小さくなる)	サンプリングの実行	CHR KEY/Sample1 CHR KEY/Sample2
フライングキー	位置調整	サイズ調整 (右回りでサイズが大きくなり、左回りで小さくなる)	長押しで初期値 (X/Y、Z) に戻る	KEY/FlyKEY
カメラ制御	X: Pan 制御または Focus 制御 Y: Tilt 制御または Zoom 制御	—	Pan/Tilt 制御、Zoom/Focus 制御の切り替え	上記メニュー以外

2. 各部の機能

2-1-7. SD メモリーカード部

③③ SD メモリーカードスロット

SD メモリーカード（別売）、または SDHC メモリーカード（別売）を挿入します。



③④ SD メモリーカードアクセス LED

SD メモリーカードにアクセスしている間、LED が点灯します。

アクセス LED が点灯している間は、本機の電源を切ったり、SD メモリーカードを抜かないでください。SD メモリーカードのデータが破壊されることがあります。

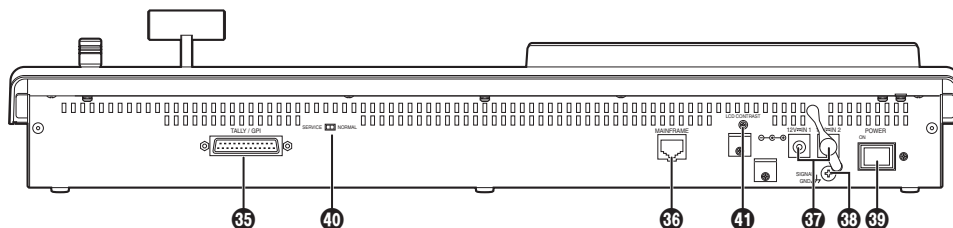
推奨 SD メモリーカードと SDHC メモリーカードについて

下記のパナソニック株式会社製 SD メモリーカードと SDHC メモリーカードのご使用を推奨します。

SDHC メモリーカード	RP-SDM04G、RP-SDM06G、RP-SDM08G、 RP-SDM12G、RP-SDM16G
	RP-SDV04G、RP-SDV08G、RP-SDV16G、 RP-SDV32G
SD メモリーカード	RP-SD128B、RP-SD256B
	RP-SDR512
	RP-SDM01G、RP-SDM02G
	RP-SDV512、RP-SDV01G、RP-SDV02G

2. 各部の機能

2-1-8. 背面接続部



35 TALLY/GPI 入出力端子 [TALLY/GPI] (D-sub 25 ピン、メス、インチねじ)

⇒接続のしかたは、「6. 外部インターフェース」を参照してください。

36 MAINFRAME 端子 [MAINFRAME] (RJ-45) (100 Base-TX)

付属の CAT5E ケーブル (STP、ストレート、10 m) で、メインフレームに接続します。

37 DC 電源入力端子 [12 V \equiv IN1]、[12 V \equiv IN2] (DC 12 V、0.8 A)

付属の AC アダプター (コントロールパネル用) を接続します。

38 グランド端子 [SIGNAL GND]

システムのグランドに接続してください。

39 電源スイッチ [POWER]

電源スイッチを ON にすると電源表示灯 (1) が点灯し、コントロールパネルを操作することができます。

40 SERVICE スイッチ [NORMAL/SERVICE]

メンテナンス用のスイッチです。

通常は、「NORMAL」の位置で使用してください。

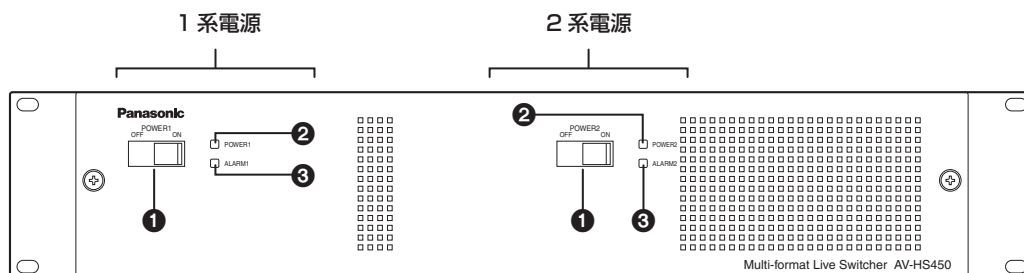
41 LCD CONTRAST 調整ねじ

LCD 表示のコントラストを調整します。

2. 各部の機能

2-2. メインフレーム

2-2-1. 前面部



① 電源スイッチ [POWER1、POWER2]

電源の ON/OFF を行います。

本機は、標準で 2 重化電源を装備しています。

電源を切る場合は、1 系 (POWER1) と 2 系 (POWER2) の両方の電源スイッチを OFF にしてください。

② 電源表示灯 [POWER1、POWER2]

AC 電源入力端子に電源が入力されているときに、電源スイッチ (①) を ON にすると点灯します。

電源スイッチ (①) を OFF にすると消灯します。

③ アラーム表示灯 [ALARM1、ALARM2]

メインフレームの冷却ファンが停止しているとき、または電源に異常 (電圧低下) があるときに点灯します。

このとき、コントロールパネルの LCD と外部モニターの OSD 画面にアラームメッセージが表示されます。

アラーム発生中は、SYSTEM/Alarm メニューで、異常の内容を確認することができます。

アラーム情報は、メインフレームの TALLY/GPI 端子 (⑭) から外部機器に出力することができます。

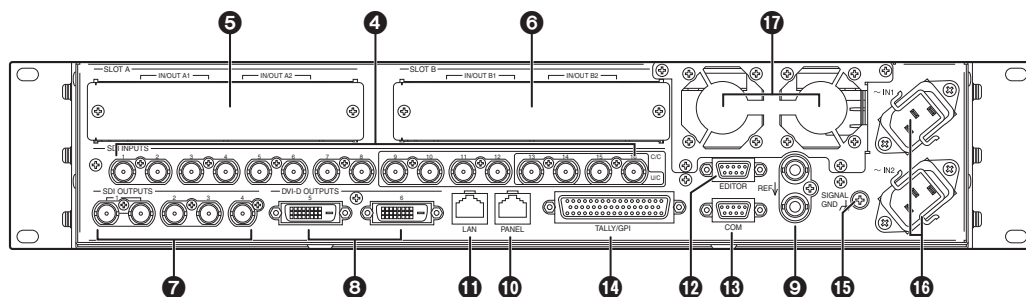
詳しくは、「5-9-2. アラームメッセージ」を参照してください。

アラームが発生した場合は、すぐに使用を中止し、必ず販売店へご連絡ください。

そのまま使用すると、本機が故障する原因となることがあります。

2. 各部の機能

2-2-2. 背面部



④ SDI 信号入力端子 [SDI INPUTS 1 ~ 16]

9 ~ 16 : カラーコレクター機能を使用することができます。

13 ~ 16: アップコンバーター機能を使用することができます。

⑤ オプションスロット SLOT A [IN/OUT A1、IN/OUT A2]

⑥ オプションスロット SLOT B [IN/OUT B1、IN/OUT B2]

入出力兼用のオプションスロットです。

DVI 入力ボード、アナログ出力ボードなどのオプションボードを取り付けることができます。

詳細は、「1-3. オプションボードの取り付けかた」および各オプションボードの取扱説明書を参照してください。

⑦ SDI 信号出力端子 [SDI OUTPUTS 1 ~ 4]

1 ~ 4: メニューによりアサイン可能

- OUTPUT 1 は 2 分配出力です。

⑧ DVI-D 出力端子 [DVI-D OUTPUTS 5、6]

メニューによりアサイン可能

- DVI-I コネクターケーブルは使用できません。

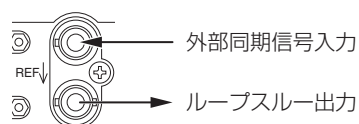
⑨ リファレンス入力端子 / BB 出力端子 [REF]

外部同期モード時は、ループスルー出力します。

ループスルー出力を使用しない場合は、75 Ω で終端してください。

内部同期モード時は、2 つの端子から BB 信号を出力します。

< 外部同期モード時 >



外部同期信号は、上側の端子に入力してください。

⑩ PANEL 端子 [PANEL] (RJ-45) (100 Base-TX)

付属の CAT5E ケーブル (STP、ストレート、10 m) を使ってコントロールパネルに接続します。

2. 各部の機能

⑪ LAN 端子 [LAN] (RJ-45) (10/100 Base-TX)

⇒接続のしかたは、「6. 外部インターフェース」を参照してください。

⑫ EDITOR 端子 [EDITOR] (RS-422、D-sub 9 ピン、メス、インチねじ)

⑬ COM 端子 [COM] (RS-422、D-sub 9 ピン、メス、インチねじ)

⇒接続のしかたは、「6. 外部インターフェース」を参照してください。

⑭ TALLY/GPI 入出力端子 [TALLY/GPI] (D-sub 50 ピン、メス、インチねじ)

⇒接続のしかたは、「6. 外部インターフェース」を参照してください。

⑮ グランド端子 [SIGNAL GND]

システムのグラウンドに接続してください。

⑯ AC 電源入力端子 [～ IN1] [～ IN2] (AC 100 V～ 120 V、50/60 Hz)

付属の電源コードを接続し、もう一方を AC コンセントに差し込みます。

付属の電源コードは 3 芯プラグです。3 極コンセントを使用して確実にアースを接続してください。

3 極コンセントが使用できない場合は、必ず販売店にご連絡ください。

⑰ 冷却ファン

3. 基本操作

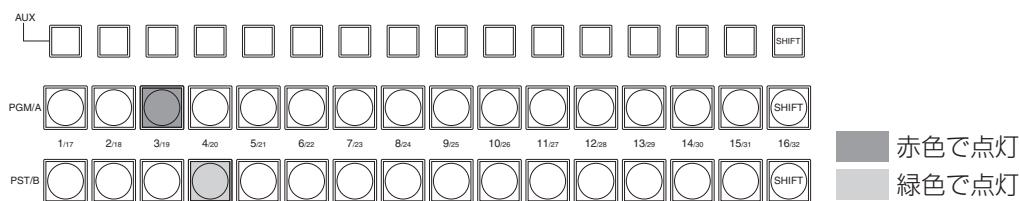
3-1. バックグラウンドトランジション

3-1-1. バスの選択

クロスポイントボタンを押して、バックグラウンドトランジションを行う素材を選択します。
押したボタンは動作状態により 2 種類の色で点灯します。

赤色点灯：選択された入力が PGM に出力されている場合
(ただし、FTB 動作中はアンバー色に点灯します。)

緑色点灯：選択された入力が PGM に出力されていない場合



また、クロスポイントボタンを長押しすると、押したボタンに対応している入力素材の名称とボタンの番号が LCD に表示されます。

3-1-2. SHIFT 機能によるバスの選択

SHIFT 機能とは、1 つのボタンに表素材と裏素材の 2 つの素材を割り当て、[SHIFT] ボタンで切り替えて使う機能です。

PGM/A バスクロスポイントボタン、PST/B バスクロスポイントボタン、AUX バスクロスポイントボタンの各 16 個のボタンに、表素材 (1 ~ 16) と裏素材 (17 ~ 32) の 32 の素材をアサインすることができます。

SHIFT 機能には、すべての表素材と裏素材を入れ替える「一括 SHIFT」と、各バスクロスポイントボタンごとに表素材と裏素材を入れ替える「個別 SHIFT」があります。

一括 SHIFT は、USER ボタンに SHIFT 機能をアサインして操作します。

個別 SHIFT は、メニュー操作で各バスクロスポイントボタンの 16 番、または 1 番のボタンに SHIFT 機能をアサインして操作します。

3. 基本操作

一括 SHIFT

PGM/A バスクロスポイントボタン、PST/B バスクロスポイントボタン、AUX バスクロスポイントボタンの素材を、一括で表素材と裏素材を切り替えます。

表素材と裏素材は、SHIFT 機能をアサインした USER ボタンで切り替えます。

- ① USER ボタンに SHIFT 機能をアサインします。
(USER ボタンへのアサイン方法は、「5-4-1. ユーザーボタンの設定」を参照)

- ② [SHIFT](USER) ボタンを押すごとに、表素材と裏素材が切り替わります。

- 裏素材 (17 ~ 32) を選択しているときは、[SHIFT](USER) ボタンがアンバー色に点灯します。
- 再度ボタンを押すと消灯し、表素材 (1 ~ 16) の状態となります。

個別 SHIFT

PGM/A バスクロスポイントボタン、PST/B バスクロスポイントボタン、AUX バスクロスポイントボタンの素材を、別々に表素材と裏素材を切り替えます。

表素材と裏素材は、SHIFT 機能をアサインしたクロスポイントボタン (16 番、または 1 番のボタン) で切り替えます。

■ SHIFT 機能のアサイン

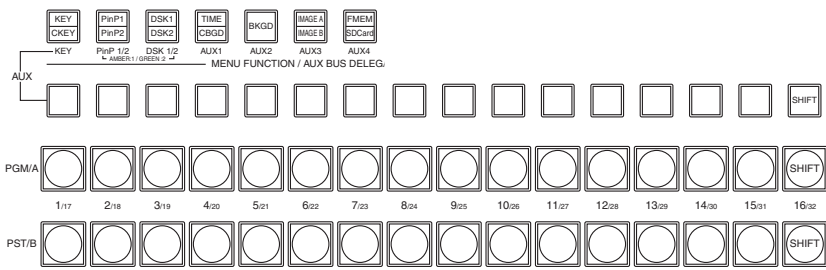
- ① [XPT] ボタンを押して点灯させ、XPT メニューを表示します。

⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」参照

- ② [F1] を回して XPTAsign サブメニューを表示します。

<メニュー表示>

XPT	5	XPT	Signal	Shift	Sf-Lock
XPTAsign	-	-	Right	Off	Off
	1~32	IN1~16	Off	On	
		IN-A1	Left		
		IN-A2			
		IN-B1			
		IN-B2			
		Black			
		CBGD			
		CBAR			
		FMEM1~4			
		PGM			
		PVW			
		KeyOut			
		CLN			
		MV1, MV2			
		NoAsign			



3. 基本操作

③ [F4] を回して Shift 項目で、SHIFT 機能をアサインするボタンを選択します。

Right : 16 番のボタン

Left : 1 番のボタン

Off : アサインしない

④ [F5] を回して Sf-Lock 項目で、[SHIFT] ボタンを押したときの動作を選択します。

Off : [SHIFT] ボタンを押している間だけが裏素材になります。

On : [SHIFT] ボタンを押すことに表素材と裏素材が切り替わります。

- SHIFT 機能をアサインしたボタンに設定されている素材を使う場合は、SHIFT 機能を off にするか、もう 1 つのボタンに SHIFT 機能をアサインしてください。
- Sf-Lock 項目の On、Off に関わらず裏素材が選択されている場合は、そのボタンと [SHIFT] ボタンがアンバー色に点灯します。
バスモードが PGM/PST の場合、トランジションでバスを切り替えた場合、SHIFT 状態も切り替わります。
- 「一括 SHIFT」で裏素材（17～32）に切り替えたときに「個別 SHIFT」の [SHIFT] ボタンを押すと、対象のバスクロスボタンが表素材に切り替わります。
- クロスポイントボタンを長押しすると、押したボタンにアサインされている入力素材が LCD に表示されます。
[SHIFT] ボタンを長押しした場合は、「Shift」が LCD に表示されます。

3. 基本操作

3-1-3. バスモードの選択

設定メニューから、A/B バス方式、フリップフロップ方式（PGM/PST 方式）を選択します。

- ① [CONFIG] ボタンを押して点灯させ、CONFIG メニューを表示します。
⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照
- ② [F1] を回して Operate サブメニューを表示します。
- ③ [F2] を回して BusMode 項目で、A/B または PGM/PST（フリップフロップ方式）を選択します。

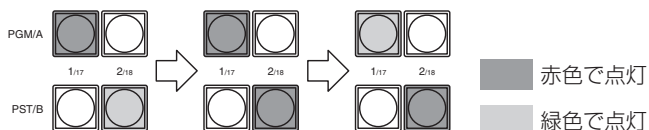
<メニュー表示>

CONFIG 1	BusMode	LCD-BL	MENU DLG
Operate	PGM/PST	On	On
	A/B	Off	Off
		60	
		120	
		180	

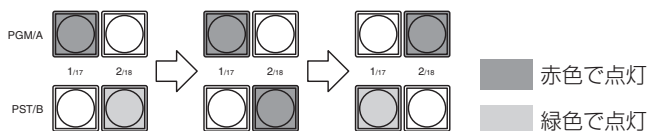
フリップフロップ方式（PGM/PST）では、PGM/A バス選択された信号が常に PGM 映像として出力され、PST/B バス選択されている信号が常に PVW（PST）映像として出力されます。

方式	映像出力	トランジション前	トランジション中	トランジション完
A/B	PGM	PGM/A	PGM/A、PST/B	PST/B
	PVW (PST)	PST/B	PST/B	PGM/A

- A → B へトランジションする場合



方式	映像出力	トランジション前	トランジション中	トランジション完
フリップフロップ PGM/PST	PGM	PGM/A	PGM/A、PST/B	PGM/A
	PVW (PST)	PST/B	PST/B	PST/B



3. 基本操作

3-1-4. トランジションモードの選択

トランジション部の [BKGD] ボタンを押してアンバー色に点灯させます。
[BKGD] ボタンと [KEY] ボタンを同時に押した場合は、両方選択されます。

トランジション部の [MIX] ボタン、[WIPE] ボタンでバックグラウンドトランジションのモードを選択します。
選択されているボタンは、アンバー色に点灯します。

3-1-5. マニュアルトランジション（フェーダーレバー）

フェーダーレバーを操作してマニュアルでトランジションを実行します。
オートトランジション実行中にフェーダーレバーを動かした場合、フェーダーの位置が実行中のトランジション量を追い越した時点でマニュアル動作に切り替わります。
フェーダーレバー左のバスタリー LED は、プログラムバスの出力状態を表示します。

上の LED のみ点灯 : PGM/A バスを出力

上下の LED 点灯 : トランジション中

下の LED のみ点灯 : PST/B バスを出力

3-1-6. オートトランジション

- [AUTO] ボタンを押すと、設定されたトランジションタイムでトランジションを自動実行します。
- フェーダーレバーが途中の場合、[AUTO] ボタンを押すと、途中からの残り時間でトランジションを実行します。
- オートトランジションタイムの設定は、TIME メニューで行います。
 - ① [TIME] ボタンを押して点灯させ、TIME メニューを表示します。
⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」参照
 - ② [F1] を回して BKGD サブメニューを表示します。
 - ③ [F4] を回して Unit 項目で表示単位を切り替えます。
 - ④ フレーム (Frame) の場合、[F3] を回してトランジションタイムを設定します。
 - ⑤ 秒 (Sec) の場合、[F2] を回して秒単位の設定、[F3] を回してフレーム単位の設定をします。

<メニュー表示>

TIME	1	TransTime	Unit
BKGD		16s 39f	Sec

TIME	1	TransTime	Unit
BKGD		999f	Frame

設定できる時間は 0 ~ 999f です。ビデオフォーマットにより、秒表示のときの設定可能時間が異なります。

59.94i : max 33s09f、**59.94p** : max 16s39f、**50i** : max 39s24f、**50p** : max 19s49f

24psf : max 41s15f、**23.98psf** : max 41s15f

3-1-7. カットトランジション

[CUT] ボタンを押すと、瞬時にトランジションを実行します。

3. 基本操作

3-2. IMAGE

3-2-1. IMAGE 効果の設定

ペイント、モノカラー、モザイク、デフォーカスの4種類の効果を PGM/A のバス素材と PST/B のバス素材に設定します。

① [IMAGE A] ボタン (または [IMAGE B] ボタン) を押して点灯させ、IMAG A メニュー (または IMAG B メニュー) を表示します。

⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照

② [F2] を回して、IMAGE 効果の On/Off を設定します。
IMAGE 効果を付加する場合は、On にします。

<メニュー表示>

IMG A 1	On/Off			
IMAG A	Off			
	On			

③ [F1] を回して、設定する効果のメニュー (Paint、Mono、Mosa/Def サブメニュー) を表示します。

<メニュー表示>

IMG A 2	On/Off	Y-Level	C-Level	
Paint	Off	0	0	
	On	0~7	0~7	

IMG A 3	On/Off	Hue	Sat	
Mono	Off	0.0	0.0	
	On	0.0	0.0	
		}	}	
		359.9	100.0	

IMG A 4	On/Off	Mode	Effect	
Mosa/Def	Off	Mosaic	20.0	
	On	Defocus	0.0	
			}	
			100.0	

④ [F2] を回して、各サブメニューで On/Off を設定します。

⑤ [F3] と [F4] を回して、効果の設定値を変更します。

- CONFIG メニュー / Operate サブメニューの BusMode 項目で、PGM/PST (フリップフロップ方式) を選択しているときにトランジションを行うと、PGM/A のバスと PST/B のバスが入れ代わるので、メニューのタイトルも IMAG A と IMAG B が入れ代わります。

3. 基本操作

3-2-2. IMAGE 効果の実行

IMAGE 効果を On に設定しているときは、IMAGE 効果が付加されているバス素材のクロスポイントボタンが点滅します。

IMAGE 効果は、DVE (Digital Video Effect) で作られているため、通常の実出力より 1 フレーム遅れて出力されます。

PGM/A バス、または PST/B バスの片方だけに IMAGE 効果を On に設定した場合でも、両方のバスの出力が 1 フレーム遅れて出力されます。

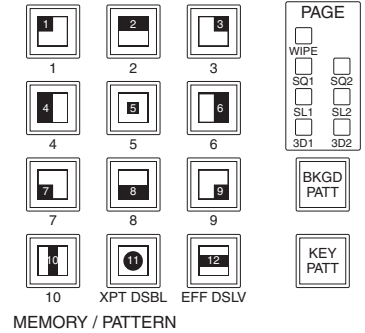
3. 基本操作

3-3. ワイプ

3-3-1. ワイプパターンの選択

本機は、12個のボタンに割り付けられたワイプパターンを基本とし、バックグラウンドのトランジションパターンを7ページ、キーのトランジションパターンを4ページ保有しています。〔ワイプパターン一覧〕を参照)

ワイプパターン選択ボタンには、基本的なワイプパターンのイメージと番号が表示されています。



< ワイプパターンの選択方法 >

- ① [BKGD PATT] ボタン、または [KEY PATT] ボタンを押してパターンページを切り替えます。ボタンを押すごとにページが切り替わり、選択されている PAGE LED が点灯します。

トランジションの種類	パターンページの選択	PAGE LED の点灯
バックグラウンド	[BKGD PATT] ボタン	WIPE → SQ1 → SL1 → 3D1 → SQ2 → SL2 → 3D2 ↑
キー	[KEY PATT] ボタン	WIPE → SQ1 → SL1 → 3D1 ↑

- ② 12個のワイプパターン選択ボタンから、該当するパターン番号が表示されているボタンを選択します。選択中のパターンは点灯し、外部モニター（OSD）上にワイプパターンのイメージが表示されます。

パターンページ表示 LED は、[BKGD PATT] ボタンまたは [KEY PATT] ボタンが選択されている場合のみ点灯します。

■ ワイプパターン一覧

● キートランジションのパターンページ

WIPE (ワイプ)			SQ1 (スクィーズ 1)			SL1 (スライド 1)			3D1 (3次元 1)		
1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
4	5	6	4	5	6	4	5	6	4	5	6
7	8	9	7	8	9	7	8	9	7	8	9
10	11	12	10	11	12	10	11	12	10	11	12
				11 パターン なし		10 パターン なし	11 パターン なし	12 パターン なし			

3. 基本操作

● バックグラウンドトランジションのパターンページ

WIPE (ワイプ)			SQ1 (スクィーズ 1)			SL1 (スライド 1)			3D1 (3次元 1)		
1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
4	5	6	4	5	6	4	5	6	4	5	6
7	8	9	7	8	9	7	8	9	7	8	9
10	11	12	10	11	12	10	11	12	10	11	12
SQ2 (スクィーズ 2)			SL2 (スライド 2)			3D2 (3次元 2)					
1	2	3	1	2	3	1	2	3			
4	5	6	4	5	6	4	5	6			
7	8	9	7	8	9	7	8	9			
10	11	12	10	11	12	10	11	12			

3. 基本操作

3-3-2. 3D2 パターンページの背景選択

3D2 (3次元2) のパターンページでは、背景にフレームメモリの静止画 (FMEM1 ~ 4) または、カラーバックグラウンド (CBGD)、ブラック (Black) を選択することができます。

① [BKGD] ボタンを押して点灯させ、BKGD メニューを表示します。

⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照

② [F1] を回して Base サブメニューを表示します。

<メニュー表示>

BKGD	6	Type			
Base		Black			

FMEM1
}
FMEM4
CBGD

③ [F2] を回して Type 項目で、背景にする画像を設定します。

- 設定した背景は、バックグラウンドトランジションのパターンページで「3D2」が選択されているときに有効になります。

3-3-3. ワイプ方向の選択

ワイプ方向選択ボタンを操作して、バックグラウンドトランジションのワイプの方向を選択します。

(キートランジションは、メニューで設定します。ここで設定した方向は反映されません。

⇒ 「3-4-3. キートランジション」 参照)

[R] 消灯時：

ノーマル方向にワイプを行います。

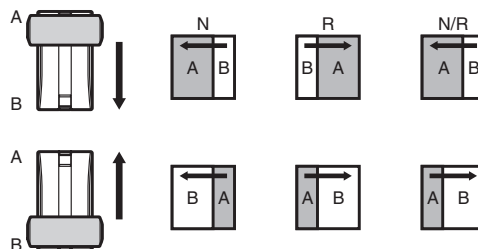
[R] 点灯時：

リバース方向にワイプを行います。

[N/R] 点灯時：

トランジション完了時にノーマル方向とリバース方向を入れ替えます。

(ワイプを行う方向に合わせて [R] ボタンの点灯と消灯も切り替わります。)



3. 基本操作

3-3-4. ワイプの装飾（ボーダー、ソフト）

バックグラウンドトランジションのワイプに、ボーダー効果やソフト効果を付加します。

ボーダー、ソフトを設定する

① [BKGD] ボタンを押して点灯させ、BKGD メニューを表示します。

⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照

<メニュー表示>

BKGD	1	Border	Width	Soft
Border		Off	5.0	0.0
		On	0.1	0.0
			}	}
			100.0	100.0

② [F1] を回して Border サブメニューを表示します。

③ [F2] を回して Border 項目で、ボーダーの On/Off を設定します。

④ [F3] を回して Width 項目で、ボーダーの幅を設定します。

⑤ [F4] を回して Soft 項目で、ソフト効果の量を設定します。

Border 項目を “On” に設定したとき、ソフト効果の量は、ボーダーの幅に対するソフト効果の割合を示します。

ソフト効果のみをワイプに付加する場合は、Border 項目を “Off” に設定してください。

- ワイプパターンで SQ2、SL2、3D2 を選択した場合、ソフト効果を付加することができません。

ボーダーの色を設定する

① BKGD メニューより、[F1] を回して BodrCol サブメニューを表示します。

<メニュー表示>

BKGD	2	Hue	Sat	Lum	Load↓
BodrCol		0.0	0.0	100.0	White
		0.0	0.0	0.0	Yellow
		}	}	}	Cyan
		359.9	100.0	108.0	Green
					Magenta
					Red
					Blue
					Black

② [F2] ~ [F4] を回して、ボーダーカラーの Hue、Sat、Lum を調整します。

■ プリセットカラーを呼び出す場合

[F5] を回して Load 項目でプリセットカラーを選択し、[F5] スイッチを押します。Hue、Sat、Lum の値がプリセットカラーの値に変更されます。

- プリセットカラーを呼び出す前に設定していた値を保存する場合は、「3-10. メモリー」を参照してください。

3. 基本操作

3-3-5. ワイプの開始位置設定

ワイプパターンの WIPE の 5 番と 11 番、SQ の 5 番について、開始位置を任意に設定することができます。WIPE の 5 番と 11 番は、BKGD メニューの WIPEPos サブメニューで設定します。SQ の 5 番は、BKGD メニューの SQPos サブメニューで設定します。

- ① [BKGD] ボタンを押して点灯させ、BKGD メニューを表示します。
⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照
- ② [F1] を回して WIPEPos サブメニューまたは、SQPos サブメニューを表示します。

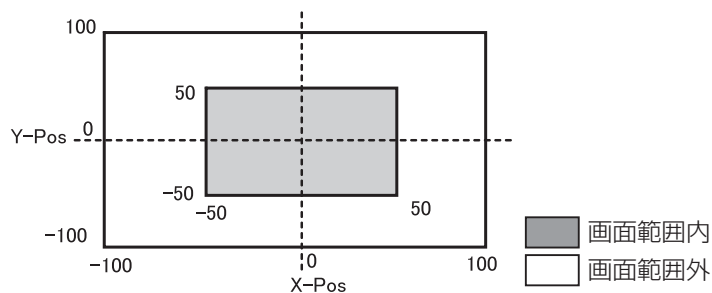
<メニュー表示>

BKGD 3	X-Pos	Y-Pos		CopyTo↓
WIPEPos	0.00	0.00		
	-100.00	-100.00		
	}	}		
	100.00	100.00		

BKGD 4	X-Pos	Y-Pos		CopyTo↓
SQPos	0.00	0.00		
	-100.00	-100.00		
	}	}		
	100.00	100.00		

- ③ ポジショナーを操作するか、[F2] と [F3] を回して、X-Pos 項目と Y-Pos 項目でワイプの開始位置を設定します。
バックグラウンドまたはキーパターンで、WIPE の 5 番、11 番、または SQ の 5 番を選択している場合にのみ、設定が可能です。
- ④ フェーダーレバーを操作するか、[AUTO] ボタンを押して、ワイプの動作を確認します。
(例えば、X-Pos: -50、Y-Pos: -50 を設定した場合は、次の画面 (またはキー) が左下から現れて、画面中心に移動しながらワイプを行います。)

<X-Pos、Y-Pos の設定範囲>



- ⑤ 開始位置の設定をコピーする場合は、[F5] を押します。
CopyTo 項目の下には、コピー先が表示されています。([F5] を回しても変化しません。)

3. 基本操作

3-3-6. ワイプのモディファイ

ライティング効果の設定

下記のワイプパターンを選択した場合、ライティング効果を付加することができます。

3D1 ページ：1 番、3 番、7 番、9 番

バックグラウンドトランジション、およびキートランジションに対して設定することができます。

■ バックグラウンドトランジションの場合

① [BKGD] ボタンを押して点灯させ、BKGD メニューを表示します。

⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照

② [F1] を回して、Modify サブメニューを表示します。

<メニュー表示>

BKGD	5	Light	Trim	4:3Auto
Modify		Off	Off	Off
		On	16:9	On
			4:3	
			4:3Smth	

③ [F2] を回して、Light 項目でバックグラウンドトランジションを行うときのライティング効果を付加するかどうかを選択します。

On：ライティング効果を付加します。

Off：ライティング効果を付加しません。

■ キートランジションの場合

① [KEY] ボタンを押して点灯させ、KEY メニューを表示します。

② [F1] を回して、Modify サブメニューを表示します。

<メニュー表示>

KEY	9	Light			
Modify		Off			
		On			

③ [F2] を回して、Light 項目でキートランジションを行うときのライティング効果を付加するかどうかを選択します。

On：ライティング効果を付加します。

Off：ライティング効果を付加しません。

3. 基本操作

トリミングの設定

ワイプパターンで SQ1、SQ2、SL1、SL2、3D1、3D2 を選択した場合、バックグラウンドトランジションを行うときのトリミングの設定をすることができます。

Trim 項目の “4:3” と “4:3Smth” は、システムフォーマットが、HD フォーマットに設定されている場合に有効になります。

- ① BKGD メニューより、[F1] を回して、Modify サブメニューを表示します。

<メニュー表示>

BKGD	5	Light	Trim	4:3Auto	
Modify		Off	Off	Off	
		On	16:9	0n	
			4:3		
			4:3Smth		

- ② [F3] を回して、Trim 項目でトリミングの動作とトランジションの動作を設定します。

16:9 (On)：素材の周囲をトリミングします。

素材の周囲に黒い縁どりなどが見えるときに使用します。

システムフォーマットが HD のときは、“16:9” がメニューに表示されますが、システムフォーマットが SD のときは、“On” がメニューに表示されます。

4:3：4:3 のアスペクト比でトリミングを行い、トランジション完了時にトリミングを解除します。

4:3Smth：4:3 のアスペクト比でトリミングを行い、16:9 の映像へ滑らかにトランジションを行います。

Off：トリミングをしません。

- ③ [F4] を回して、4:3Auto 項目で素材に応じて自動トリミング（4:3 または 4:3Smth）を行う設定をします。

Off：すべての入力素材を自動トリミングの対象にします。

On：アップコンバーターの設定で、EC（エッジクロップ）を選択した入力素材を自動トリミングの対象にします。

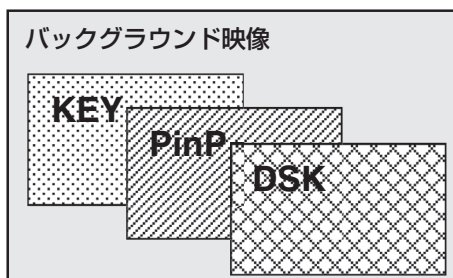
3. 基本操作

3-4. KEY (キー)

バックグラウンド映像に別の映像を合成します。また、キーの抜け具合の調整や、合成した映像にエッジを付加することができます。

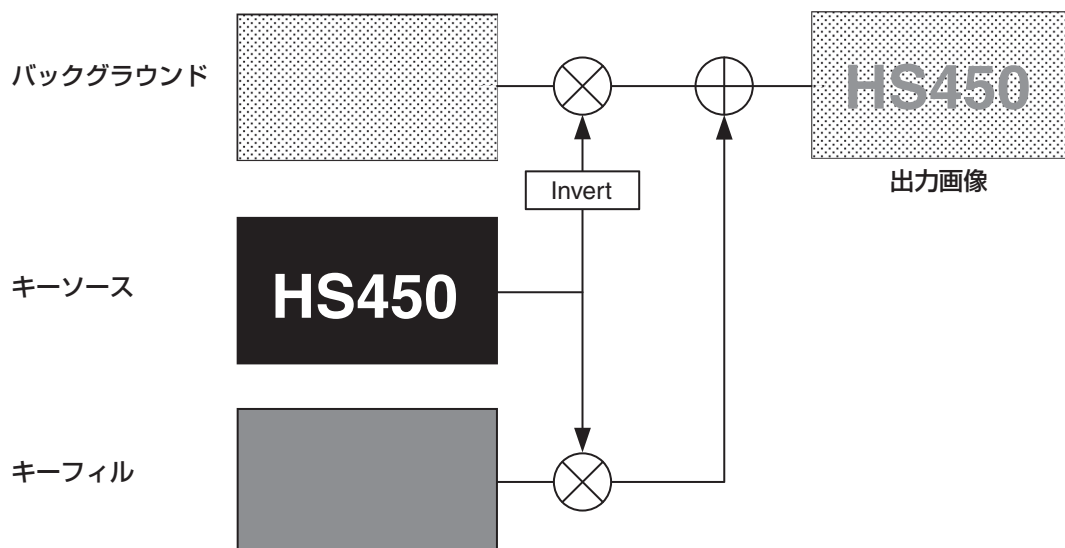
バックグラウンド映像に合成する素材として、キーの他に PinP (ピクチャーインピクチャー)、DSK (ダウンストリームキー) がありますが、プライオリティは下図のようになります。

<KEY、PinP、DSK のプライオリティ>



また、キー合成のしくみは下図のようになります。

<キー合成のしくみ>



3. 基本操作

3-4-1. キータイプの選択

- ① [KEY] ボタンを押して点灯させ、KEY メニューを表示します。
⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照
- ② [F1] を回して KEY サブメニューを表示します。
- ③ [F2] を回して Type 項目を選択します。

<メニュー表示>

KEY	1	Type	LumKey	Fill	PVW
KEY		Linear	ChrmOff	Bus	Auto
		Lum	ChrmOn	Matte	Off
		Chroma			On
		Full			

Lum (ルミナンスキー / セルフキー) :

キーフィル信号の輝度成分または、輝度成分とクロマ成分からキー信号を作成します。

Linear (リニアキー / EXT キー) :

キーソース信号の輝度成分からキー信号を作成します。

キーソース信号とキーフィル信号が異なる場合に使用します。

Chroma (クロマキー / セルフキー) :

キーフィル信号の特定の色相を基準にしてキー信号を作成します。

Full (フルキー / セルフキー) :

全画面の映像をキーソース信号としてキー信号を作成します。

フライングキーと組み合わせて、PinP 合成を行うことが可能です。⇒ 「3-4-9. フライングキー」参照

ルミナンスキーとクロマキーは、セルフキーとして運用されるためキーフィル信号をキーソース信号として使用します。フルキーは、全画面の映像をキーソース信号として使用します。

キーのタイプとしてルミナンスキーやクロマキー、フルキーを選択しているときは、キーソース信号を切り替えてもキー信号は変化しません。

リニアキーを使用する場合、キーソース信号は、背景が黒色でキー合成したい文字や形が白色の素材を使用してください。白黒以外の色の素材は、きれいに合成されない場合があります。

また、背景が白色で黒の文字などの素材は、キーインバート機能で反転させて使用することができます。

- ④ ルミナンスキーを選択した場合、セルフキー用途を考慮して、キー信号の生成にクロマ成分を含めることができます。(リニアキーには適用されません。)

[F3] を回して LumKey 項目で設定します。

ChrmOn : 輝度成分に加えて、クロマ成分も考慮してキー信号を生成します。

キー信号に、輝度成分の低い色を用いた場合 (例えば、青色の文字を抜きたい場合など) に設定します。

ChrmOff : 輝度成分のみからキー信号を生成します。

- ⑤ [F4] を回して Fill 項目でフィルのタイプを選択します。

Bus : キーフィル信号にバスの信号を使用します。

Matte : キーフィル信号に内蔵のフィルマットを使用します。

3. 基本操作

3-4-2. キー素材の選択

キーフィル信号の選択

AUX バス選択ボタンの [KEY] ボタンを押して点灯させ、AUX バスクロスポイントボタン 1 ~ 32 を押してキーフィル信号を選択します。

キーソース信号の選択

キーフィルに対するキーソースを設定します。
この設定は、KEY と DSK で共通になります。

■ AUX バスクロスポイントボタンでの設定

- ① AUX バス選択ボタンの [KEY] ボタン（または [DSK1/2] ボタン）を押して点灯させ、選択したキーフィル信号の AUX バスクロスポイントボタンを長押しします。

<メニュー表示>

XPTStats	FILL: INPUT1	SRC↓ INPUT1
	XPT : 1	

- ② [F5] を回して、キーフィル信号 (FILL) に対するキーソース信号 (SRC) を選択し、[F5] スイッチを押します。

■ CONFIG メニューでの設定

- ① [CONFIG] ボタンを押して点灯させ、CONFIG メニューを表示します。

⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照

- ② [F1] を回して KSAsign サブメニューを表示します。

- ③ [F2] を回して、Fill 項目でキーフィル素材を選択します。

- ④ [F3] を回して、Source 項目でキーソース素材を選択し、[F3] スイッチを押します。

<メニュー表示>

CONFIG11	Fill	Source↓		
KSAsign	-	-		
IN1~16	IN1~16			
IN-A1	IN-A1			
IN-A2	IN-A2			
IN-B1	IN-B1			
IN-B2	IN-B2			
CBGD	CBGD			
CBAR	CBAR			
FMEM1~4	FMEM1~4			
	NoAsign			

ルミナンスキーとクロマキーは、セルフキーとして運用されるため、メニューの設定に関わらずキーフィル信号をキーソース信号として使用します。

3. 基本操作

3-4-3. キートランジション

① トランジションモードを選択します。
 トランジション部の [KEY] ボタンを押して点灯させます。
 バックグラウンドトランジションとキートランジションを同時に実行させる場合は、[BKGD] ボタンと [KEY] ボタンを同時に押して両方点灯させます。

② トランジションタイプを選択します。
 トランジション部の [MIX] ボタンまたは [WIPE] ボタンで、キートランジションのモードを選択します。
 選択したボタンがアンバー色に点灯し、選択したモードの MIX/WIPE 選択状態表示 LED が点灯します。
 WIPE を選択した場合は、ワイプパターン/メモリー部の [KEY PATT] ボタンを押して点灯させ、ワイプパターンを選択します。

③ トランジションの時間を設定します。
 TIME メニューより、[F1] を回して KEY サブメニューを表示します。
 バックグラウンドトランジションと同様に、トランジションタイムを設定します。

④ ワイプの方向を設定します。
 KEY メニューより、[F1] を回して Trans サブメニューを表示します。
 [F1] を回して OutPatt 項目で、Nor (ノーマル) /Rev (リバース) を設定します。

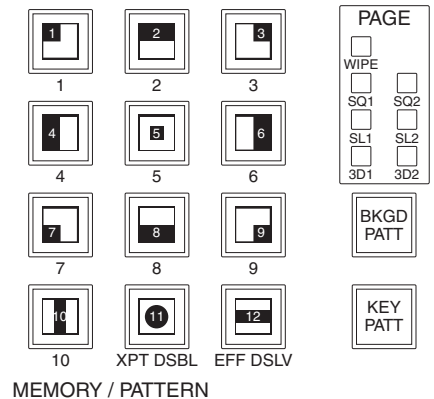
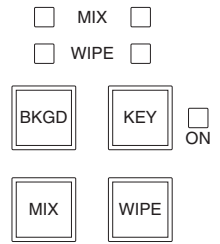
- Nor (ノーマル)** : キーアウトのパターンを、キーインのパターンと同じ方向にします。
- Rev (リバース)** : キーアウトのパターンを、キーインのパターンと逆方向 (対角方向) にします。

< パターン例 >

	パターン例 1	パターン例 2	パターン例 3 (WIPE の 5、10、11、12)	パターン例 4 (SQ の 5、10、12) (3D1 の 5、10、11、12)
キーイン				
キーアウト (ノーマル)				
キーアウト (リバース)				

: キー合成されている領域を示します。

- WIPE の 5、10、11、12 はパターン例 3 の動作を行います。
- SQ の 5、10、12 と 3D1 の 5、10、11、12 はパターン例 4 の動作を行い、ノーマルとリバースが同じ動作になります。



3. 基本操作

⑤ トランジションを実行します。

トランジション部の [AUTO] ボタンを押して、設定されたトランジションタイムでトランジションを自動で実行します。

または、フェーダーレバーを操作して手動でトランジションを実行します。

キーオートトランジション

トランジション部の [KEY ON] ボタンを押すと、設定されたトランジションタイムでトランジションを自動で実行します。

キーイン中は、[KEY ON] ボタンが赤色に点滅し、トランジションが完了すると赤色に点灯します。

完全にキーインした状態で [KEY ON] ボタンを押すと、KEY 映像がトランジション（キーアウト）します。

キーアウト中は、[KEY ON] ボタンが赤色に点灯し、トランジションが終了すると消灯します。

トランジションの途中で、[KEY ON] ボタンを押すと、トランジションの方向が反転します。

3-4-4. キープレビュー

プレビュー出力にキーのプレビュー映像を出力して、キーの調整および確認をすることができます。

① KEY メニューより、[F1] を回して KEY サブメニューを表示します。

② [F5] を回して、PVW 項目でプレビューのモードを設定します。

On : プレビュー出力にキー効果を付加した映像を出力します。

Off : プレビュー出力にキー効果を付加しない映像を出力します。

Auto : プレビュー出力に次のトランジションのプレビュー映像を出力します。

3. 基本操作

3-4-5. ルミナンスキー／リニアキーの調整

ルミナンスキーとリニアキーの抜け具合を調整します。

- ① [KEY/CKEY] ボタンを押して点灯させ、KEY メニューを表示します。

⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照

- ② [F1] を回して Adjust サブメニューを表示します。

<メニュー表示>

KEY	2	Clip	Gain	Density	Invert
Adjust		0.0	100.0	100.0	Off

- ③ [F2]、[F3]、[F4] を回してキーの抜け具合を調整します。

- ④ [F5] を回してキーインバートの設定をします。

On の場合は、内部で生成するキー信号を反転させます。

操作	パラメーター	設定内容	設定範囲
F2	Clip	キー信号作成の基準レベル	0.0 ~ 108.0
F3	Gain	キーの増幅度	0.0 ~ 200.0
F4	Density	キーの濃さ	0.0 ~ 100.0
F5	Invert	キー信号の反転	On、Off

3. 基本操作

3-4-6. クロマキーの調整

選択したキー素材に対してサンプリングを行い、キーの抜け具合を調整します。

ステップ 1

■ 自動でサンプリングを実行する場合

- ① [KEY/CKEY] ボタンを押して点灯させ、CHR KEY メニューを表示します。
⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照
- ② [F1] を回して、AutoCmp サブメニューを表示させます。
- ③ [F2] を押して、自動的にサンプリングを実行します。
サンプリングした内容を元に戻す場合は、[F5] を押します。

<メニュー表示>

CHRKEY 1	AutCmp↓			RESET↓
AutoCmp				

■ 手動でサンプリングを実行する場合

- ① [KEY/CKEY] ボタンを押して点灯させ、CHR KEY メニューを表示します。
⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照
- ② [F1] を回して、Sample1 サブメニューを表示させます。
- ③ [F2] を回して、View 項目で「Cmpsit」を選択します。
Cmpsit : バックグラウンド映像とキーの合成映像
Matte : マット映像
Proc.FG : プロセスフォアグラウンド映像
FG : フォアグラウンド映像
- ④ [F3] を回して、Mode 項目で「SelBG」を選択します。
SelBG : フォアグラウンド映像のバックグラウンドにする色を指定します。
通常は、ブルーバック、またはグリーンバックを指定します。
CIn.BG : バックグラウンド映像のノイズを除去します。
CIn.FG : フォアグラウンド映像のノイズを除去します。
Spl.Spg : 細部に残っているノイズを除去します。
- ⑤ ポジショナーを使って、サンプルマーカの位置を移動させます。
サンプルマーカのサイズを変更する場合は、ロータリーエンコーダー [Z] を回します。
- ⑥ 設定したサンプル領域で良ければ、ロータリーエンコーダー [Z] を押します。
設定した領域がサンプリングされます。
- ⑦ サンプリングを実行したあと、サンプリング前の状態に戻す場合は、[F5] を押します。
元に戻すことができる操作の回数は、1 度だけです。

<メニュー表示>

CHRKEY 3	View	Mode		UNDO↓
Sample1	Cmpsit	SelBG		
	Matte	CIn.BG		
	Proc.FG	CIn.FG		
	FG	Spl.Spg		

3. 基本操作

ステップ 2

バックグラウンド映像のノイズを除去します。
数回この操作を行って、ノイズを除去します。

- ① CHR KEY メニューより、[F1] を回して、
Sample1 サブメニューを表示させます。

<メニュー表示>

CHRKEY 3	View	Mode		UNDO↓
Sample1	Matte	Cln.BG		

- ② [F2] を回して、View 項目で「Matte」を選択します。
- ③ [F3] を回して、Mode 項目で「Cln.BG」を選択します。
- ④ ポジショナーを使って、バックグラウンド映像のノイズ（白い点）の位置にサンプルマーカークの位置を移動させます。
サンプルマーカークのサイズを変更する場合は、ロータリーエンコーダー [Z] を回します。
- ⑤ 設定したサンプル領域で良ければ、ロータリーエンコーダー [Z] を押します。
設定した領域のノイズが除去されます。
- ⑥ サンプルングを実行したあと、サンプルング前の状態に戻す場合は、[F5] を押します。
元に戻すことができる操作の回数は、1 度だけです。



ノイズ除去前



ノイズ除去後

3. 基本操作

ステップ 3

フォアグラウンド映像のノイズを除去します。
数回この操作を行って、ノイズを除去します。

- ① [F2] を回して、View 項目で「Matte」を選択します。

<メニュー表示>

CHRKEY 3	View	Mode	UNDO↓
Sample1	Matte	Cln.FG	

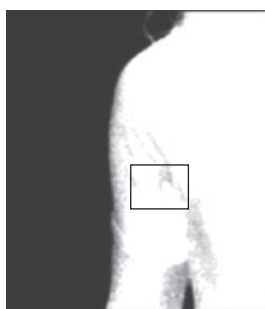
- ② [F3] を回して、Mode 項目で「Cln.FG」を選択します。

- ③ ポジショナーを使って、フォアグラウンド映像のノイズ（黒い点）の位置にサンプルマーカーの位置を移動させます。

サンプルマーカーのサイズを変更する場合は、ロータリーエンコーダー [Z] を回します。

- ④ 設定したサンプル領域で良ければ、ロータリーエンコーダー [Z] を押します。
設定した領域のノイズが除去されます。

- ⑤ サンプリングを実行したあと、サンプリング前の状態に戻す場合は、[F5] を押します。
元に戻すことができる操作の回数は、1 度だけです。



ノイズ除去前



ノイズ除去後

3. 基本操作

ステップ 4

ステップ 1 ～ステップ 3 の操作では、右の映像のように髪の毛の付近など細部にノイズが残ってしまいます。ステップ 4 では、細部に残っているノイズを除去します。

ノイズの数が多い場合は、数回この操作を行って、ノイズを除去します。

ノイズの数が少ない場合は、Sample2 サブメニューの Spill(+) 項目と Spill(-) 項目でノイズを調整します。



① [F2] を回して、View 項目で「Cmpsit」を選択します。

② [F3] を回して、Mode 項目で「Spl.Spg」を選択します。

③ ポジショナーを使って、ノイズが残っている位置にサンプルマーカの位置を移動させます。サンプルマーカのサイズを変更する場合は、ロータリーエンコーダー [Z] を回します。

④ 設定したサンプル領域で良ければ、ロータリーエンコーダー [Z] を押します。設定した領域のノイズが除去され、より自然な色に変わります。

⑤ サンプルングを実行したあと、サンプルング前の状態に戻す場合は、[F5] を押します。元に戻すことができる操作の回数は、1 度だけです。

- サンプル領域は、明るい部分と暗い部分の両方でそれぞれサンプルングしてください。
- 上記の操作を行っても、フォアグラウンド映像のノイズが完全に除去されない場合は、FineTun サブメニューの操作を行ってください。

<メニュー表示>

CHRKEY 3	View	Mode		UNDO↓
Sample1	Cmpsit	Spl.Spg		

3. 基本操作

ステップ 5

ノイズの調整や透明度など、映像の微調整を行います。

- ① CHR KEY メニューより、[F1] を回して、Sample2 サブメニューを表示させます。

<メニュー表示>

CHRKEY 4	View	Mode	UNDO↓
Sample2	Cmpsit	Spill-	
	Matte	Spill+	
	Proc.FG	Matte-	
	FG	Matte+	
		Detail-	
		Detail+	
		MatSpng	
		MkFGTrn	
		RstrDt1	

- ② [F2] を回して、View 項目で調整を行う映像を選択します。

Cmpsit : バックグラウンド映像とキーの合成映像

Matte : マット映像

Proc.FG : プロセスフォアグラウンド映像

FG : フォアグラウンド映像

- ③ [F3] を回して、Mode 項目で調整機能を選択します。

各項目の詳細は、次ページを参照してください。

- ④ ポジショナーを使って、サンプリングする位置にサンプルマーカの位置を移動させます。

サンプルマーカのサイズを変更する場合は、ロータリーエンコーダー [Z] を回します。

- ⑤ 設定したサンプル領域で良ければ、ロータリーエンコーダー [Z] を押します。

設定した領域のサンプリングが行われます。

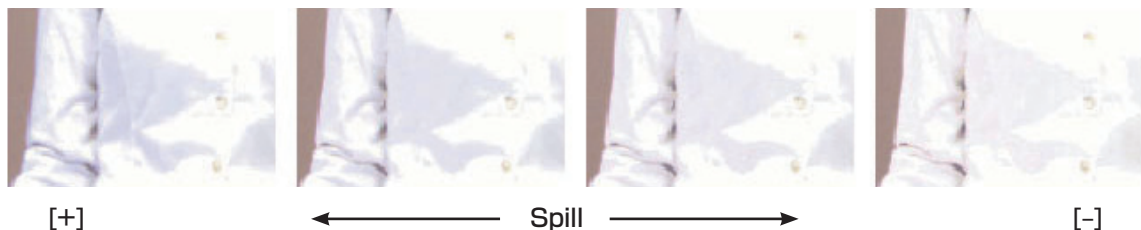
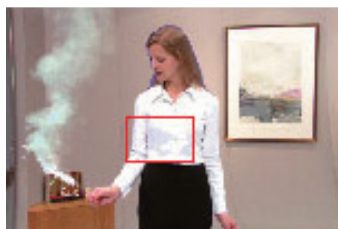
- ⑥ 調整を行ったあと、1 段階前の状態に戻す場合は、[F5] を押します。

元に戻すことができる操作の回数は、1 度だけです。

3. 基本操作

[Spill-] [Spill+]

繰り返しサンプリングすることにより、フォアグラウンド映像のノイズの除去と復元を段階的に行うことができます。



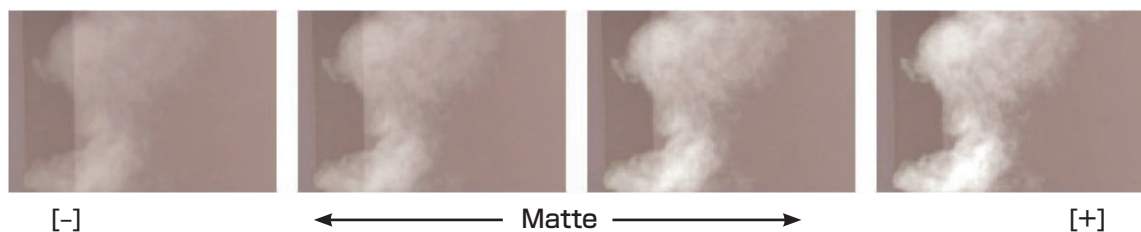
[Matte-] [Matte+]

マット情報の調整を行います。

たとえば、フォアグラウンド映像の影の領域を薄くする場合には、[Matte-] を使用して調整します。

影の領域を濃くする場合には、[Matte+] を使用します。

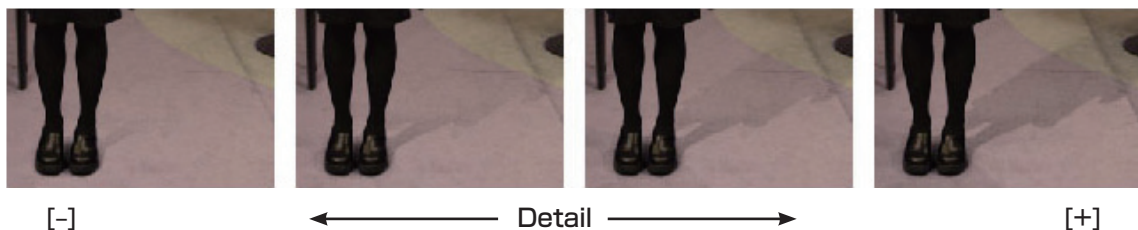
煙や水など半透明な映像をより際立たせることができます。



3. 基本操作

[Detail-] [Detail+]

バックグラウンド映像のノイズを、段階的に除去することができます。
他のサンプリング操作で失われた映像などを調整し、映像の質感や透明度を調整する場合に有効です。



[MatSpng]

フォアグラウンド映像にある被写体の半透明な部分を選択して不透明にします。
Sample1 サブメニューの [CIn.FG] と異なり、色情報を変更しません。
[CIn.FG] は、選択部分の色がオリジナルの色に戻りますが、[MatSpng] の場合、半透明になっているキーを不透明にするだけで、色はそのままとなりオリジナルの色には戻りません。

[MkFGTrn]

フォアグラウンド映像で、透明度が低い領域の透明度を高くします。
たとえば、フォアグラウンドの映像で、濃い煙や雲などに覆われた部分を半透明にする場合に有効です。

[RstrDtl]

バックグラウンド映像で、透明度が高い領域の透明度を低くします。
たとえば、Sample1 サブメニューの [CIn.BG] などの操作で、失われた微細な映像（ほつれた髪の毛や煙など）を元に戻す場合に有効です。

3. 基本操作

[FineTun]

微細な映像の調整を行います。

- ① CHR KEY メニューより、[F1] を回して、FineTun サブメニューを表示させます。

<メニュー表示>

CHRKEY 5	View	Spill	Trans	Detail
FineTun	Cmpsit	0	0	0

- ② [F2] を回して、View 項目で「Cmpsit」を選択します。
- ③ ポジショナーを使って、サンプリングする位置にサンプルマーカの位置を移動させます。
サンプルマーカのサイズを変更する場合は、ロータリーエンコーダー [Z] を回します。
- ④ 設定したサンプル領域で良ければ、ロータリーエンコーダー [Z] を押します。
- ⑤ [F3] を回して、Spill 項目でノイズの除去と復元を行います。
時計方向に回すと、フォアグラウンド映像から多くのノイズが除去され、ブルースクリーンの補色（反対色）に近づいていきます。
反時計方向に回すと、オリジナルのフォアグラウンド映像に近づいていきます。
- ⑥ [F4] を時計方向に回して、Trans 項目でフォアグラウンド映像の色に近い色のマットを調節することができます。
たとえば、フォアグラウンドの映像で、濃い煙や雲などに覆われた部分を半透明にする場合に有効です。
- ⑦ [F5] を時計方向に回して、Detail 項目でバックグラウンド映像の色に近い色に対するマット情報を調節します。
たとえば、サンプリングによりフォアグラウンド映像で失われた微細な映像（ほつれた髪の毛や煙など）を元に戻す場合に有効です。

ステップ 6

生成したクロマキー信号の微調整を行います。

- ① CHR KEY メニューより、[F1] を回して、KeyAdj サブメニューを表示させます。

<メニュー表示>

CHRKEY 2	Narrow	Phase		
KeyAdj	Off	0.0		
	0.5	-4.0		
	1.0	}		
	1.5	4.0		

- ② [F2] を回して、Narrow 項目でクロマキー信号の幅を調整します。
キー信号の幅を水平方向に 0.5（画素数）の単位で調整します。
- ③ [F3] を回して、Phase 項目でクロマキー信号の水平位相を調整します。
キー信号の位置を 0.5（画素数）の単位で水平方向に移動することができます。

3. 基本操作

3-4-7. キーの装飾

キーに、ボーダーやシャドウなどのエッジを付加します。

キーのエッジを設定する

① [KEY] ボタンを押して点灯させ、KEY メニューを表示します。

⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照

② [F1] を回して Edge サブメニューを表示します。

③ [F2] を回してエッジのタイプを選択します。

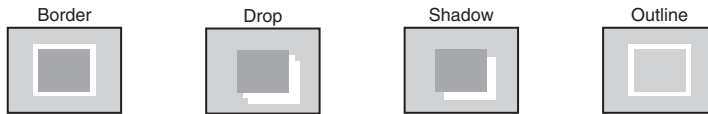
Off : エッジを付加しません。

Border : 全縁にボーダーを付加します。

Drop : 斜め方向のボーダーを付加します。

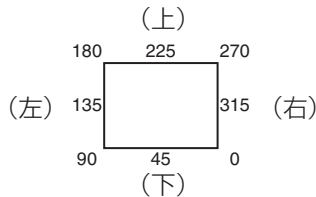
Shadow : シャドウを付加します。

Outline : アウトライン（フィルなしのボーダーのみ）を付加します。



④ [F3] を回してエッジの幅を設定します。

⑤ [F4] を回して「Drop」「Shadow」を付加する方向（45° 単位）を設定します。



<メニュー表示>

KEY	4	Type	Width	Dirac
Edge		Off	2	0
		Border	0~4	45
		Drop		90
		Shadow		135
		Outline		180
				225
				270
				315

エッジの色を設定する

① KEY メニューより、[F1] を回して、EdgeCol サブメニューを表示します。

② [F2] ~ [F4] を回して、エッジカラーの Hue、Sat、Lum を調整します。

■ プリセットカラーを呼び出す場合

[F5] を回して Load 項目でプリセットカラーを選択し、[F5] スイッチを押します。Hue、Sat、Lum の値がプリセットカラーの値に変更されます。

- プリセットカラーを呼び出す前に設定していた値を保存する場合は、「3-10. メモリー」を参照してください。

<メニュー表示>

KEY	5	Hue	Sat	Lum	Load↓
EdgeCol		0.0	0.0	0.0	Black
		0.0	0.0	0.0	White
		}	}	}	Yellow
		359.9	100.0	108.0	Cyan
					Green
					Magenta
					Red
					Blue

3. 基本操作

3-4-8. キーのマスク

BOX パターンのマスク信号で、キー信号をマスクします。

- ① [KEY] ボタンを押して点灯させ、KEY メニューを表示します。
⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照

- ② [F1] を回して Mask サブメニューを表示させます。

<メニュー表示>

KEY	10	Mask	Invert		
Mask		Off	Off		
		Manual	On		
		4:3			

- ③ [F2] を回して Mask 項目で、マスクの方法を設定します。

- Off** : キー信号をマスクしません。
- Manual** : MaskAdj サブメニューで設定する領域をマスクします。
- 4:3** : 4:3 のアスペクト比にマスクします。

- ④ [F3] を回して Invert 項目で、マスク信号を反転させるかどうかを設定します。

- On** : マスク信号を反転させます。
- Off** : マスク信号を反転させません。

- ⑤ [F1] を回して MaskAdj サブメニューを表示させます。

<メニュー表示>

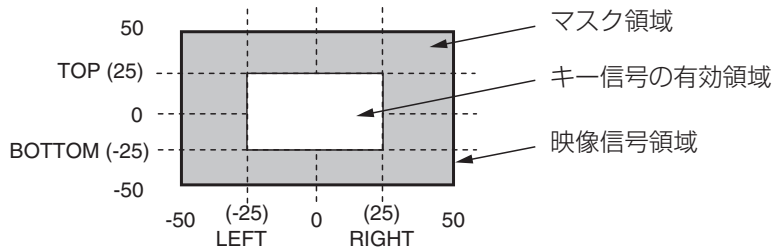
KEY	11	Left	Top	Bottom	Right
MaskAdj		-25.00	25.00	-25.00	25.00

- ⑥ [F2] ~ [F5] を回して、マスクする領域を設定します。

操作	パラメーター	設定内容	設定範囲	初期値
F2	Left	キー左側の位置	-50.00 ~ 50.00	-25.00
F3	Top	キー上部の位置	-50.00 ~ 50.00	25.00
F4	Bottom	キー下部の位置	-50.00 ~ 50.00	-25.00
F5	Right	キー右側の位置	-50.00 ~ 50.00	25.00

Left と Right、Top と Bottom は、お互いの設定範囲を超えることはできません。

<キーマスクの設定> (図はデフォルト値の場合)



3. 基本操作

3-4-9. フライングキー

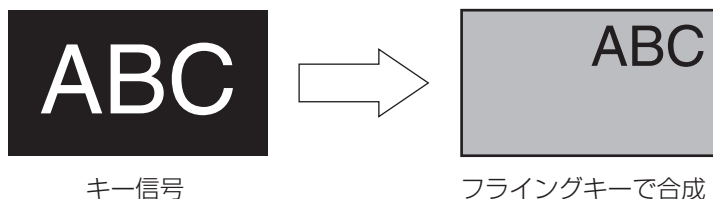
入力されたキー信号に対して、DVE 効果を利用して移動や拡大、縮小を行うことができます。フライングキーを有効にするためには、キートランジションで、SL の 5 番を選択します。キートランジションを実行すると、フライングキーのメニューで設定したキー信号でキー合成を行います。(トランジション効果は、MIX に固定です。)
フライングキーでは、DVE 効果を利用しているため、映像が 1 フレーム遅れます。

- ① [KEY] ボタンを押して点灯させ、KEY メニューを表示します。
⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照
- ② [F1] を回して FlyKEY サブメニューを表示させます。
(手順①の KEY メニューを表示させずに、SL の 5 番のボタンをダブルクリックしても、FlyKEY サブメニューを直接表示することができます。)

<メニュー表示>

KEY	8	X-Pos	Y-Pos	Size
FlyKEY		0.00	0.00	100.0
		-100.00	-100.00	0.0
		∫	∫	∫
		100.00	100.00	400.0

- ③ [F2] を回して X-Pos 項目で、キー信号の X 座標を設定します。
- ④ [F3] を回して Y-Pos 項目で、キー信号の Y 座標を設定します。
- ⑤ [F4] を回して Size 項目で、キー信号の変更サイズ (最大 400: 400 %) を設定します。



DVE 効果の前にキーのエッジを付加するため、サイズを変更するとエッジの太さも変化します。

フライングキーを利用した PinP 合成

「3-4-1. キータイプの選択」の Type 項目で “Full” を選択すると、フライングキーを利用して PinP 合成を行うことができます。
(このとき、Adjust サブメニューで Clip 項目と Gain 項目の設定ができません。)

フルキーは、全画面の映像がキーソース信号となるため、そのままではエッジが付加されません。エッジを付加する場合は、キーソース信号が全画面より小さくなるようにマスクを行ってください。⇒マスクのしかたは、「3-4-8. キーのマスク」を参照してください。

3. 基本操作

3-5. PinP (ピクチャーインピクチャー)

バックグラウンド映像に別の映像を合成します。
本機は、2チャンネルのPinPに対応しています。

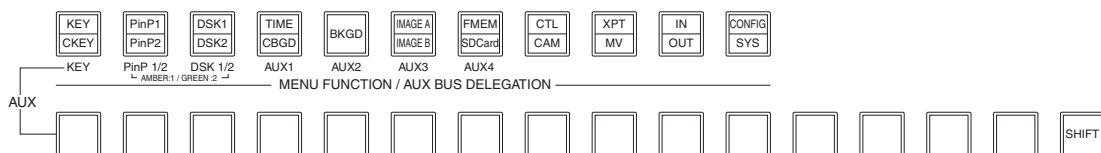
3-5-1. PinPチャンネルと素材の選択

AUXバス選択ボタンの [PinP 1/2] ボタンを押します。
アンバー色で点灯しているときは、LCDにはPinP1サブメニューが表示され、AUXバスクロスポイントボタンは、PinP1の素材が選択されている状態になります。
緑色で点灯しているときは、LCDにはPinP2サブメニューが表示され、AUXバスクロスポイントボタンは、PinP2の素材が選択されている状態になります。

選択されたAUXバスクロスポイントボタンは、アンバー色に点灯します。(選択された信号がPGM出力されている場合は、赤色に点灯します。)

<メニュー表示>

PinP1	1	Shape	Crc1Asp	Density	PVW
PinP1		Square	0.0	100.0	Off
		Circle	0.0	0.0	On
			}	}	
			100.0	100.0	



3. 基本操作

3-5-2. Shape の選択

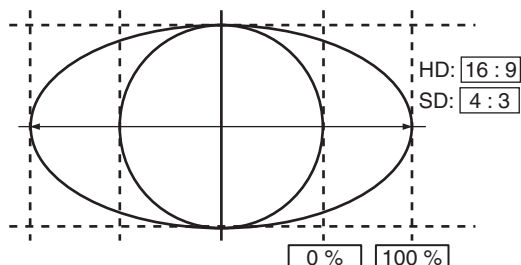
PinP1 の映像を合成するときの形には、四角形 (Square) と円形 (Circle) を選択することができます。
PinP2 の映像は、四角形 (Square) に固定されています。

① [PinP1/PinP2] ボタンを押して点灯させ、PinP1 メニューを表示します。

⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照

<メニュー表示>

PinP1	1	Shape	CrclAsp	Density	PVW
PinP1		Square	0.0	100.0	Off
		Circle	0.0	0.0	On
			}	}	
			100.0	100.0	



② [F2] を回して、Shape 項目で映像を合成するときの形を選択します。

Shape 項目で Circle を選択した場合は、[F3] を回して CrclAsp 項目で円形のアスペクト比を変更します。

Shape 項目で Square を選択したときは、CrclAsp 項目には、「-」が表示されます。

③ [F4] を回して、Density 項目で映像を合成するときの透過率（濃さ）を調整します。

3-5-3. PinP のプレビュー

プレビュー出力に PinP1 と PinP2 のプレビュー映像を出力するかどうかを選択します。
PinP1 メニュー（または PinP2 メニュー）より、[F5] を回して PVW 項目を設定します。
PVW 項目の設定は、PinP1 と PinP2 共通になります。

<メニュー表示>

PinP1	1	Shape	CrclAsp	Density	PVW
PinP1		Square	0.0	100.0	Off
		Circle	0.0	0.0	On
			}	}	
			100.0	100.0	

On : プレビュー出力に、PinP1 と PinP2 効果を付加した映像を出力します。

Off : プレビュー出力に、PinP1 と PinP2 効果を付加しない映像を出力します。

PVW の On/Off は、ユーザーボタンにアサインすることができます。

⇒ 「5-4-1. ユーザーボタンの設定」 参照

3. 基本操作

3-5-4. PinP のトランジション

- ① トランジションの時間を設定します。
TIME メニューより、[F1] を回して PinP1 サブメニュー（または PinP2 サブメニュー）を表示します。
バックグラウンドトランジションと同様に、トランジションタイムを設定します。
⇒ 「3-1-6. オートトランジション」 参照
- ② トランジション部の [PinP1 ON] ボタン（または [PinP2 ON] ボタン）を押すと、設定されたトランジションタイムで PinP1 映像（または PinP2 映像）がトランジション（フェードイン）します。
フェードイン中は、[PinP1 ON] ボタン（または [PinP2 ON] ボタン）が赤色に点滅し、トランジションが完了すると赤色に点灯します。
完全にフェードインした状態で [PinP1 ON] ボタン（または [PinP2 ON] ボタン）を押すと、PinP1 映像（または PinP2 映像）がトランジション（フェードアウト）します。
フェードアウト中は、[PinP1 ON] ボタン（または [PinP2 ON] ボタン）が赤色に点灯し、トランジションが終了すると消灯します。
トランジションの途中で、[PinP1 ON] ボタン（または [PinP2 ON] ボタン）を押すと、トランジションの方向が反転します。

3-5-5. PinP の調整

位置とサイズを調整する

PinP メニューが選択されているとき、ポジションナー部のポジションナーで X、Y 座標を調整し、ロータリーエンコーダー [Z] で大きさを調整します。またメニューでも設定することができます。

- ① [PinP1] ボタン（または [PinP2] ボタン）を押して点灯させ、PinP1 メニュー（または PinP2 メニュー）を表示します。
⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照
- ② [F1] を回して、Position サブメニューを表示させます。
- ③ ポジションナーとロータリーエンコーダー [Z] を操作するか、[F2]、[F3]、[F4] を回して、X-Pos 項目、Y-Pos 項目、Size 項目で X、Y 座標と大きさを設定します。

<メニュー表示>

PinP1 4	X-Pos	Y-Pos	Size
Position	0.00	0.00	25.00
	-50.00	-50.00	0.00
	∫	∫	∫
	50.00	50.00	100.00

3. 基本操作

回転角度を調整する

- ① PinP1 メニュー（または PinP2 メニュー）で [F1] を回して、Rotation サブメニューを表示します。
- ② ポジショナーとロータリーエンコーダー [Z] を操作するか、[F2]、[F3]、[F4] を回して、X 回転、Y 回転、Z 回転を設定します。

<メニュー表示>

PinP1 5 X	Y	Z
Rotation 0	0	0
-360	-360	-360
∫	∫	∫
+360	+360	+360

Dot by dot モードを選択する

システムが HD モードに設定され、かつ PinP の素材に SD フォーマットの映像を使用する場合、Dot by Dot モード（等倍の映像）で合成することができます。

このモードでは、SD フォーマットの映像をアップコンバートしないため、画像の劣化を防ぐことができます。

- Position サブメニューの Size 項目で「100.00」を設定した場合、合成するサイズが SD フォーマットの映像のライン数と同じになります。⇒「3-5-5. PinP の調整」参照

- ① [INPUT] ボタンを押して点灯させ、INPUT メニューを表示します。

⇒「2-1-5. LCD メニュー部」参照

- ② [F1] を回して INPUT XX サブメニューを表示します。

(X: IN1 ~ IN16, A1, A2, B1, B2)

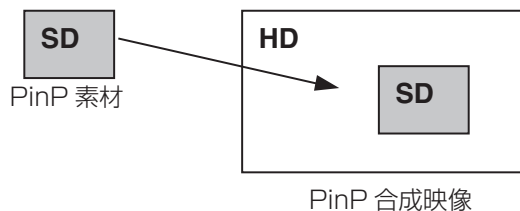
X は、PinP 素材の入力を選択します。

- ③ [F2] を回して、FS 第 3 メニューを表示します。

<メニュー表示>

INPUT XX FS	FS	Mode↓
1/16	On	*Normal
Off	DbyD	
	UC	
	Auto	

- ④ [F4] を回して、Mode 項目で DbyD を選択し、[F4] スイッチを押して確定します。



3. 基本操作

3-5-6. PinP1 と PinP2 の連動

座標および回転角度を設定した軸に対して、PinP1 と PinP2 の映像が対称な動作をします。
基準になる映像は、操作しているメニューの PinP 映像になります。

① PinP1 メニュー（または PinP2 メニュー）で [F1] を回して、Sync サブメニューを表示します。

<メニュー表示>

PinP1 8	Prior	Sym↓		CopyTo↓
Sync	1over2	Off		PinP2
	2over1		X	
			Y	
			Center	

プライオリティを設定する

② [F2] を回して、Prior 項目で PinP1 と PinP2 の映像が重なったときの位置関係を設定します。

1over2 : PinP1 の映像が PinP2 の映像の上

2over1 : PinP2 の映像が PinP1 の映像の上

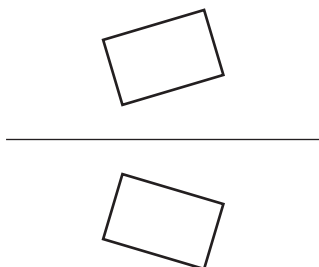
PinP1 と PinP2 を連動させる

③ [F3] を回して、Synm 項目で基準にする位置を選択し、[F3] スイッチを押します。

基準になる映像は、操作しているメニューの PinP 映像になります。

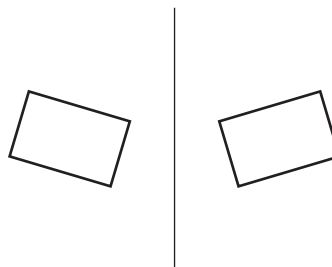
Sym : X の場合

座標および回転角度が X 軸に対して対称



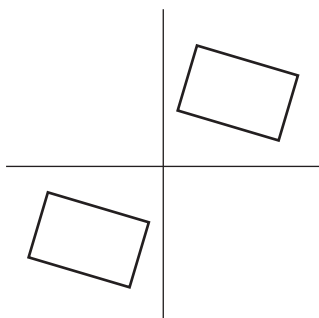
Sym : Y の場合

座標および回転角度が Y 軸に対して対称



Sym : Center の場合

座標および回転角度が中心に対して対称



3. 基本操作

設定値をコピーする

PinP1 の設定値を PinP2 へコピー、同様に PinP2 の設定値を PinP1 へコピーすることができます。

- ① PinP1 メニュー（または PinP2 メニュー）で [F1] を回して、Sync サブメニューを表示します。

<メニュー表示>

PinP1	8	Prior	Synm↓	CopyTo↓
Sync	lover2	Off		PinP2
	2over1		X	
			Y	
			Center	

- ② [F3] を回して、Synm 項目で Off を選択し、[F3] スイッチを押します。
他の設定 (X、Y、Center) のときは、コピーすることができません。
- ③ [F5] を押すと、PinP1（または PinP2）の設定値がコピーされ、PinP2（または PinP1）の値に設定されます。

注意

下記の設定値は、コピーされません。

- PinP1 サブメニュー（または PinP2 サブメニュー）の Shape 項目
- Trim サブメニュー

3. 基本操作

3-5-7. PinP の装飾

PinP にボーダーやソフト効果を付加します。

- ① [PinP1] ボタン (または [PinP2] ボタン) を押して点灯させ、PinP1 メニュー (または PinP2 メニュー) を表示します。

⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照

- ② [F1] を回して Border サブメニューを表示します。

<メニュー表示>

PinP1	2	Border	Width	Soft	Mode
Border		Off	5.0	0.0	Fix
		On	0.1 }	0.0 }	Var
			100.0	100.0	

- ③ [F2] を回して Border 項目で、ボーダーの On/Off を設定します。

- ④ [F3] を回して Width 項目で、ボーダーの幅を設定します。

- ⑤ [F4] を回して Soft 項目で、ソフト効果の量を設定します。0.0 はソフト効果 OFF となります。

Border 項目を “On” に設定したとき、ソフト効果の量は、ボーダーの幅に対するソフト効果の割合を示します。

ソフト効果のみを PinP に付加する場合は、Border 項目を “Off” に設定してください。

- ⑥ [F5] を回して Mode 項目で、ボーダー幅の変化を設定します。

Fix : ボーダー幅を一定に保ちます。

Var (Variable) : PinP のサイズに合わせてボーダー幅が変化します。

ボーダーの色を設定する

- ① PinP1 メニュー (または PinP2 メニュー) で [F1] を回して、BodrCol サブメニューを表示します。

<メニュー表示>

PinP1	3	Hue	Sat	Lum	Load↓
BodrCol		0.0	0.0	100.0	White
		0.0	0.0	0.0	Yellow
		}	}	}	Cyan
		359.9	100.0	108.0	Green
					Magenta
					Red
					Blue
					Black

- ② [F2] ~ [F4] を回して、ボーダーカラーの Hue、Sat、Lum を調整します。

■ プリセットカラーを呼び出す場合

[F5] を回して Load 項目でプリセットカラーを選択し、[F5] スイッチを押します。Hue、Sat、Lum の値がプリセットカラーの値に変更されます。

- プリセットカラーを呼び出す前に設定していた値を保存する場合は、「3-10. メモリー」を参照してください。

3. 基本操作

3-5-8. トリミングの設定

① [PinP1] ボタン（または [PinP2] ボタン）を押して点灯させ、PinP1 メニュー（または PinP2 メニュー）を表示します。

⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照

② [F1] を回して Trim サブメニューを表示します。

<メニュー表示>

PinP1 6	Trim	Manual		
Trim	Off	Free		
	Manual	Pair		
	4:3			

③ [F2] を回して Trim 項目で、トリミングの種類を選択します。

Off : トリミングをしません。

4:3 : アスペクト比が 4:3 になるように自動的にトリミングします。

Manual : TrimAdj サブメニューで設定されている値でトリミングします。

④ [F3] を回して Manual 項目で、マニュアル設定時の操作を選択します。

Free : Left、Right、Top、Bottom のパラメーターが独立して変化します。

ただし、Left と Right、Top と Bottom は、お互いを越えることはできません。

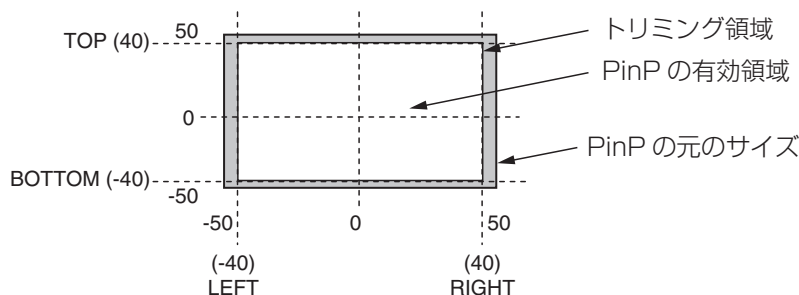
Pair : Left と Right、Top と Bottom のトリミング量が同じになるように変化します。

（上下、左右対称になります）

⑤ [F1] を回して TrimAdj サブメニューを表示し、[F2]、[F3]、[F4]、[F5] を回してトリミングの値を設定します。

操作	パラメーター	設定内容	設定範囲	初期値
F2	Left	左側のトリミング値	-50.00 ~ 50.00	-40.00
F3	Top	上部のトリミング値	-50.00 ~ 50.00	40.00
F4	Bottom	下部のトリミング値	-50.00 ~ 50.00	-40.00
F5	Right	右側のトリミング値	-50.00 ~ 50.00	40.00

<トリミングの設定>（図はデフォルト値の場合）



3. 基本操作

3-6. DSK（ダウンストリームキー）

バックグラウンド映像に文字や別の映像を合成します。
本機は、2チャンネルのDSKに対応しています。

3-6-1. DSK タイプの選択

- ① [DSK1] ボタン（または [DSK2] ボタン）を押して点灯させ、DSK1 メニュー（または DSK2 メニュー）を表示します。

⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照

- ② [F1] を回して DSK1 サブメニュー（または DSK2 サブメニュー）を表示します。

<メニュー表示>

DSK1	1	Type	LumKey	Fill	PVW
DSK1		Linear	ChrmOff	Bus	Off
		Lum	ChrmOn	Matte	On

- ③ [F2] を回して Type 項目を選択します。

Lum（ルミナンスキー / セルフキー）：

キーフィル信号の輝度成分からキー信号を作成します。

Linear（リニアキー / EXT キー）：

キーソース信号の輝度成分からキー信号を作成します。

キーソース信号とキーフィル信号が異なる場合に使用します。

ルミナンスキーは、セルフキーとして運用されるためキーフィル信号をキーソース信号として使用します。ダウンストリームキーのタイプとしてルミナンスキーを選択しているときは、キーソース信号を切り替えてもキー信号は変化しません。

リニアキーを使用する場合、キーソース信号は、背景が黒色でキー合成したい文字や形が白色の素材を用意してください。白黒以外の色の素材は、きれいに合成されない場合があります。

また、背景が白色で黒の文字などの素材は、キーインバート機能で反転させて使用することができます。

- ④ ルミナンスキーを選択した場合、セルフキー用途を考慮して、キー信号の生成にクロマ成分を含めることができます。（リニアキーには適用されません。）

[F3] を回して LumKey 項目で設定します。

ChrmOn：輝度成分に加えて、クロマ成分も考慮してキー信号を生成します。

キー信号に、輝度成分の低い色を用いた場合（例えば、青色の文字を抜きたい場合など）に設定します。

ChrmOff：輝度成分のみからキー信号を生成します。

- ⑤ [F4] を回して Fill 項目でフィルのタイプを選択します。

Bus：キーフィル信号にバスの信号を使用します。

Matte：キーフィル信号に内蔵のフィルマットを使用します。

3. 基本操作

フィルマットの色を設定する

① DSK1 メニュー（または DSK2 メニュー）より、[F1] を回して、FillMatt サブメニューを表示します。

<メニュー表示>

DSK1	3	Hue	Sat	Lum	Load↓
FillMatt		0.0	0.0	100.0	White
		0.0	0.0	0.0	Yellow
		∫	∫	∫	Cyan
		359.9	100.0	108.0	Green
					Magenta
					Red
					Blue
					Black

② [F2] ~ [F4] を回して、フィルマットの Hue、Sat、Lum を調整します。

■ プリセットカラーを呼び出す場合

[F5] を回して Load 項目でプリセットカラーを選択し、[F5] スイッチを押します。Hue、Sat、Lum の値がプリセットカラーの値に変更されます。

- プリセットカラーを呼び出す前に設定していた値を保存する場合は、「3-10. メモリー」を参照してください。

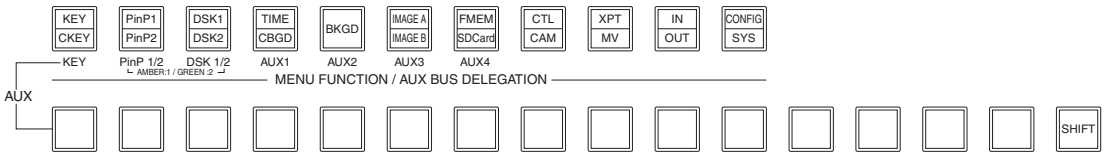
3. 基本操作

3-6-2. DSK チャンネルと DSK フィル素材の選択

AUX バス選択ボタンの [DSK 1/2] ボタンを押して、アンバー色で点灯した場合は、メニューは DSK1 の表示を行います。

このとき AUX バスクロスポイントボタンは、DSK1 のフィル素材が選択されている状態になります。緑色で点灯した場合は、メニューは DSK2 の表示を行い、AUX バスクロスポイントボタンは DSK2 のフィル素材が選択されている状態になります。

選択された AUX バスクロスポイントボタンは、アンバー色に点灯します。(選択された信号が PGM 出力されている場合は、赤色に点灯します。)



DSK ソース信号の選択

KEY ソース信号の選択と同様に、DSK フィルに対する DSK ソースを設定します。この設定は、KEY と DSK で共通になります。

■ AUX バスクロスポイントボタンでの設定

- ① AUX バス選択ボタンの [DSK 1/2] ボタン (または [KEY] ボタン) を押して点灯させ、選択した DSK フィル信号の AUX バスクロスポイントボタンを長押しします。

<メニュー表示>

XPTStats	FILL: INPUT1	SRC↓ INPUT1
	XPT : 1	

- ② [F5] を回して、DSK フィル信号 (FILL) に対する DSK ソース信号 (SRC) を選択し、[F5] スイッチを押します。

■ CONFIG メニューでの設定

- ① [CONFIG] ボタンを押して点灯させ、CONFIG メニューを表示します。
⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照
- ② [F1] を回して KSAsign サブメニューを表示します。
- ③ [F2] を回して、Fill 項目で DSK フィル素材を選択します。
- ④ [F3] を回して、Source 項目で DSK ソース素材を選択し、[F3] スイッチを押します。

<メニュー表示>

CONFIG11	Fill	Source↓		
KSAsign	-	-		
IN1~16	IN1~16			
IN-A1	IN-A1			
IN-A2	IN-A2			
IN-B1	IN-B1			
IN-B2	IN-B2			
CBGD	CBGD			
CBAR	CBAR			
FMEM1~4	FMEM1~4			
	NoAsign			

ルミナンスキーとクロマキーは、セルフキーとして運用されるため、メニューの設定に関わらず DSK フィル信号を DSK ソース信号として使用します。

3. 基本操作

3-6-3. DSK のトランジション

- ① トランジションの時間を設定します。
TIME メニューより、[F1] を回して DSK1 サブメニュー（または DSK2 サブメニュー）を表示します。
バックグラウンドトランジションと同様に、トランジションタイムを設定します。
⇒ 「3-1-6. オートトランジション」 参照

- ② トランジション部の [DSK1 ON] ボタン（または [DSK2 ON] ボタン）を押すと、設定されたトランジションタイムで DSK1 映像（または DSK2 映像）を合成（フェードイン）します。



フェードイン中は、[DSK1 ON] ボタン（または [DSK2 ON] ボタン）が赤色に点滅し、トランジション（フェードイン）が完了すると赤色に点灯します。
完全にフェードインした状態で [DSK1 ON] ボタン（または [DSK2 ON] ボタン）を押すと、DSK1 映像（または DSK2 映像）がトランジション（フェードアウト）します。
フェードアウト中は、[DSK1 ON] ボタン（または [DSK2 ON] ボタン）が赤色に点灯し、トランジション（フェードアウト）が終了すると消灯します。
トランジションの途中で、[DSK1 ON] ボタン（または [DSK2 ON] ボタン）を押すと、トランジションの方向が反転します。

3-6-4. DSK のプレビュー

プレビュー出力に DSK1（または DSK2）プレビュー映像を出力するかどうかを選択します。

- ① [DSK1] ボタン（または [DSK2] ボタン）を押して点灯させ、DSK1 メニュー（または DSK2 メニュー）を表示します。
⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照

<メニュー表示>

DSK1	1	Type	LumKey	Fill	PVW
DSK1		Linear	ChrmOff	Bus	Off
		Lum	ChrmOn	Matte	On

- ② [F5] を回して、PVW 項目を設定します。
On : プレビュー出力に、DSK1（または DSK2）効果を付加した映像を出力します。
Off : プレビュー出力に、DSK1（または DSK2）効果を付加しない映像を出力します。

PVW の On/Off は、ユーザーボタンにアサインすることができます。⇒ 「5-4-1. ユーザーボタンの設定」 参照

3. 基本操作

3-6-5. DSK の調整

DSK の抜け具合を調整します。

- ① [DSK1] ボタン (または [DSK2] ボタン) を押して点灯させ、DSK1 メニュー (または DSK2 メニュー) を表示します。

⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照

- ② [F1] を回して Adjust サブメニューを表示します。

<メニュー表示>

DSK1	2	Clip	Gain	Density	Invert
Adjust		0.0	100.0	100.0	Off

- ③ [F2]、[F3]、[F4] を回して DSK (ダウンストリームキー) の抜け具合を調整します。

- ④ [F5] を回してキーインバートの設定をします。

On の場合は、内部で生成するキー信号を反転させます。

操作	パラメーター	設定内容	設定範囲
F2	Clip	キー信号作成の基準レベル	0.0 ~ 108.0
F3	Gain	キーの増幅度	0.0 ~ 200.0
F4	Density	キーの濃さ	0.0 ~ 100.0
F5	Invert	キー信号の反転	On、Off

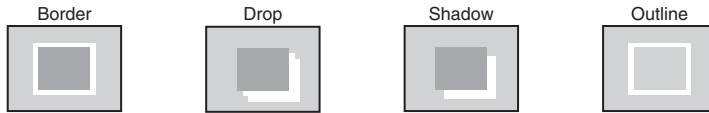
3. 基本操作

3-6-6. DSK の装飾

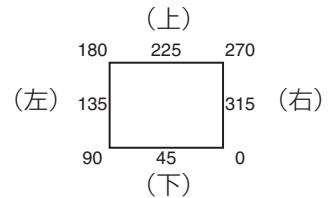
DSK に、ボーダーやシャドウなどのエッジを付加します。

エッジを設定する

- ① [DSK1] ボタン（または [DSK2] ボタン）を押して点灯させ、DSK1 メニュー（または DSK2 メニュー）を表示します。
⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照
- ② [F1] を回して Edge サブメニューを表示します。
- ③ [F2] を回してエッジのタイプを選択します。
 - Off** : エッジを付加しません。
 - Border** : 全縁にボーダーを付加します。
 - Drop** : 斜め方向のボーダーを付加します。
 - Shadow** : シャドウを付加します。
 - Outline** : アウトライン（フィルなしのボーダーのみ）を付加します。



- ④ [F3] を回してエッジの幅を設定します。
- ⑤ [F4] を回して「Drop」「Shadow」を付加する方向（45° 単位）を設定します。



エッジの色を設定する

- ① DSK1 メニュー（または DSK2 メニュー）より、[F1] を回して EdgeCol サブメニューを表示します。
- ② [F2] ~ [F4] を回して、エッジカラーの Hue、Sat、Lum を調整します。

■ プリセットカラーを呼び出す場合

[F5] を回して Load 項目でプリセットカラーを選択し、[F5] スイッチを押します。Hue、Sat、Lum の値がプリセットカラーの値に変更されます。

- プリセットカラーを呼び出す前に設定していた値を保存する場合は、「3-10. メモリー」を参照してください。

<メニュー表示>

DSK1	4	Type	Width	Dir	Rec
Edge		Off	2		0
		Border	0~4		45
		Drop			90
		Shadow			135
		Outline			180
					225
					270
					315

<メニュー表示>

DSK1	5	Hue	Sat	Lum	Load↓
EdgeCol		0.0	0.0	0.0	Black
		0.0	0.0	0.0	White
		}	}	}	Yellow
		359.9	100.0	108.0	Cyan
					Green
					Magenta
					Red
					Blue

3. 基本操作

3-6-7. DSK のマスク

BOX パターンのマスク信号で、DSK をマスクします。

- ① [DSK1] ボタン (または [DSK2] ボタン) を押して点灯させ、DSK1 メニュー (または DSK2 メニュー) を表示します。

⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照

- ② [F1] を回して Mask サブメニューを表示させます。

<メニュー表示>

DSK1	6	Mask	Invert		
Mask		Off	Off		
		Manual	On		
		4:3			

- ③ [F2] を回して Mask 項目で、マスクの方法を設定します。

Off : DSK をマスクしません。

Manual : MaskAdj サブメニューで設定する領域をマスクします。

4:3 : 4:3 のアスペクト比にマスクします。

- ④ [F3] を回して Invert 項目で、マスク信号を反転させるかどうかを設定します。

On : マスク信号を反転させます。

Off : マスク信号を反転させません。

- ⑤ [F1] を回して MaskAdj サブメニューを表示させます。

<メニュー表示>

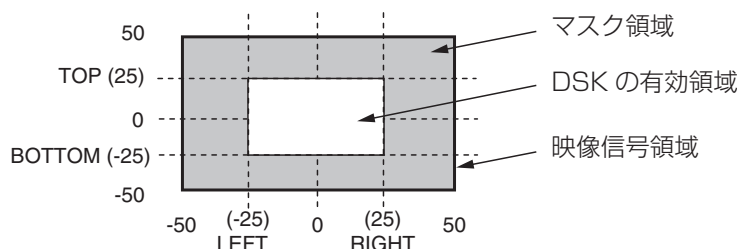
DSK1	7	Left	Top	Bottom	Right
MaskAdj		-25.00	25.00	-25.00	25.00

- ⑥ [F2] ~ [F5] を回して、マスクする領域を設定します。

操作	パラメーター	設定内容	設定範囲	初期値
F2	Left	DSK 左側の位置	-50.00 ~ 50.00	-25.00
F3	Top	DSK 上部の位置	-50.00 ~ 50.00	25.00
F4	Bottom	DSK 下部の位置	-50.00 ~ 50.00	-25.00
F5	Right	DSK 右側の位置	-50.00 ~ 50.00	25.00

Left と Right、Top と Bottom は、お互いを超えることはできません。

<DSK マスクの設定> (図はデフォルト値の場合)



3. 基本操作

3-7. FTB（フェードトゥブラック）

プログラム映像から黒画面へのフェードアウト、または黒画面からプログラム映像へのフェードインを実行します。

- ① トランジションの時間を設定します。
TIME メニューより、[F1] を回して FTB サブメニューを表示します。
バックグラウンドトランジションと同様に、トランジションタイムを設定します。
⇒ 「3-1-6. オートトランジション」 参照

- ② トランジション部の [FTB ON] ボタンを押すと、設定されたトランジションタイムで黒画面にフェードアウトします。
フェードアウト中は、[FTB ON] ボタンが赤色に点滅し、トランジション（フェードアウト）が完了して黒画面になると、赤色に点灯します。^{※1}
黒画面の状態から、[FTB ON] ボタンを押すと、プログラム映像にフェードインします。
フェードイン中は、[FTB ON] ボタンが赤色に点灯し、トランジション（フェードイン）が終了すると消灯します。
トランジションの途中で、[FTB ON] ボタンを押すと、トランジションの方向が反転します。



※ 1：FTB 状態では、通常赤色に点灯するクロスポイントボタンは、アンバー色に点灯します。

3. 基本操作

3-8. 内蔵カラー信号

3-8-1. カラーバックグラウンドの設定

バスで使用するカラーバックグラウンドの色を設定します。

Hue (色相)、Sat (色の濃さ)、Lum (明るさ) を設定して使用方法と、プリセットカラーの 8 色 (White、Yellow、Cyan、Green、Magenta、Red、Blue、Black) を呼び出して使用方法があります。

呼び出した色の Hue、Sat、Lum を調整することもできます。

色を調整する

① [CBGD] ボタンを押して、CBGD メニューを表示します。

⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照

<メニュー表示>

CBGD	1	Hue	Sat	Lum	Load↓
CBGD		0.0	0.0	100.0	White
		0.0	0.0	0.0	Yellow
		}	}	}	Cyan
		359.9	100.0	108.0	Green
					Magenta
					Red
					Blue
					Black

② [F2]、[F3]、[F4] を回して色の調整 (Hue、Sat、Lum) を行います。

プリセットカラーを呼び出す

[F5] を回して Load 項目でプリセットカラーを選択し、[F5] スイッチを押します。

Hue、Sat、Lum の値がプリセットカラーの値に変更されます。

- プリセットカラーを呼び出す前に設定していた値を保存する場合は、「3-10. メモリー」を参照してください。

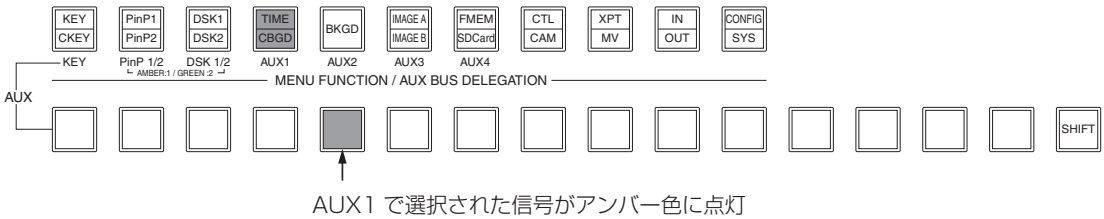
3. 基本操作

3-9. AUX 出力の切り替え

3-9-1. AUX 出力素材の選択

AUX1 ~ AUX4 の出力信号を選択します。

- ① AUX バス選択ボタンの [AUX1] ~ [AUX4] ボタンのいずれかを押します。
選択したボタンがアンバー色に点灯します。
- ② AUX バスクロスポイントボタンを押します。
[AUX1] ~ [AUX4] ボタンに対して、選択した信号が出力されます。



<AUX バスで選択できる信号>

信号名	信号
INPUT1 ~ 16	入力信号 1 ~ 16
INPUT A1、INPUT A2、 INPUT B1、INPUT B2	入力信号 A1、入力信号 A2、 入力信号 B1、入力信号 B2
PGM	プログラム映像信号
PVW	プレビュー映像信号
CLN	クリーン信号
MV1、MV2	マルチビューディスプレイ出力信号 1、2
KeyOut	キー出力信号
FMEM1 ~ FMEM4	フレームメモリー 1 ~ 4
CBGD	カラーバックグラウンド
CBAR	カラーバー

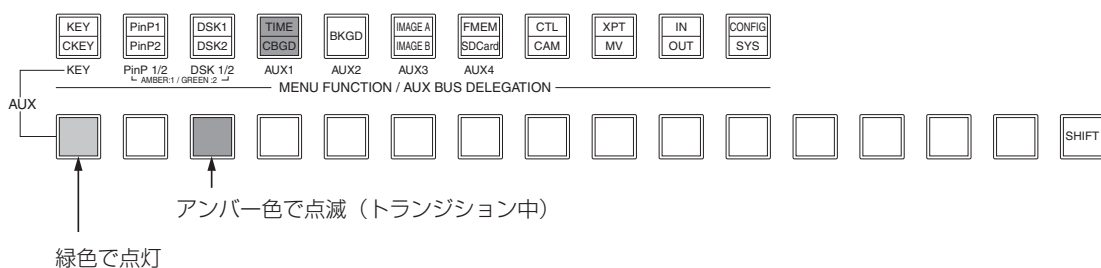
- マルチビューディスプレイの子画面に AUX バスを選択すると、2 枚の鏡を向かい合わせにしたときのように映像がループします。

3. 基本操作

3-9-2. AUX1 のトランジション

AUX1 に設定した出力信号を切り替えたときに、MIX トランジションを行います。

- ① AUX バス選択ボタンの [AUX1] ボタンを押します。
選択したボタンとそのボタンに対応している AUX バスクロスポイントボタンがアンバー色に点灯します。
- ② 切り替える出力信号の AUX バスクロスポイントボタンを押します。
このとき、TIME メニューで設定されているトランジションタイムで MIX トランジションを行います。
トランジション中は、トランジション元の AUX ボタンが緑色に点灯し、トランジション先の AUX ボタンがアンバー色で点滅します。
トランジションが完了した時点で、トランジション元の AUX ボタンが消灯し、トランジション先の AUX ボタンがアンバー色で点灯します。
また、トランジション中に別の信号に切り替えた場合、トランジションは、その途中から継続して処理が行われます。



3. 基本操作

3-9-3. AUX1 のトランジション有効／無効設定

AUX1 のトランジションタイムとトランジションの有効／無効を設定します。

- ① [TIME] ボタンを押して点灯させ、TIME メニューを表示します。
⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照
- ② [F1] を回して AUX1 サブメニューを表示します。
- ③ [F4] を回して Unit 項目で表示単位を切り替えます。
- ④ フレーム (Frame) の場合、[F2] または [F3] を回してトランジションタイムを設定します。
- ⑤ 秒 (Sec) の場合、[F2] を回して秒単位の設定、[F3] を回してフレーム単位の設定をします。

<メニュー表示>

TIME	7	TransTime	Unit	ENBL
AUX1		16s 39f	Sec	Enable

TIME	7	TransTime	Unit	ENBL
AUX1		999f	Frame	Enable

Disable

設定できる時間は 0 ~ 999f です。ビデオフォーマットにより、秒表示のときの設定可能時間が異なります。

59.94i : max 33s09f、**59.94p** : max 16s39f、**50i** : max 39s24f、**50p** : max 19s49f
24psf : max 41s15f、**23.98psf** : max 41s15f

- ⑥ [F5] を回して、ENBL 項目でトランジションの有効／無効を設定します。

Enable : 有効

Disable : 無効

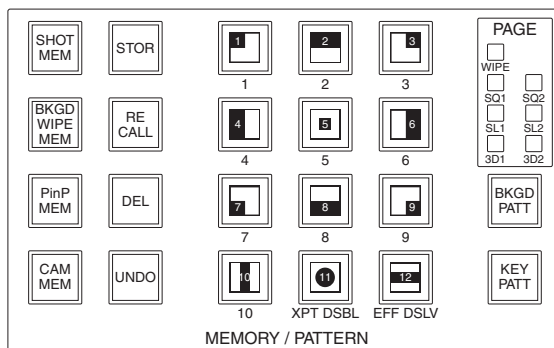
トランジションを無効にしたときは、AUX1 に設定した出力信号を切り替えたときに、トランジションを行わずに出力信号が切り替わります。

3. 基本操作

3-10. メモリー

バックグラウンドのトランジションパターンや PinP のサイズ、ボーダーの幅など映像の状態をメモリーに登録し、呼び出すことができます。

記憶する内容により、SHOT メモリー、BKGD/WIPE メモリー、PinP メモリー、CAM メモリーがあります。また、エフェクトディゾルブを設定することにより、現在の映像から SHOT メモリーに登録されている映像や動作への切り替えを、スムーズに変化させることができます。



また、メモリーの操作（登録、呼び出し、削除）を行ったときに、操作ボタンの点灯色をスイッチャー（AV）方式とカメラ（AW）方式に選択することができます。

- ① [CONFIG] ボタンを押して点灯させ、CONFIG メニューを表示します。
⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照

- ② [F1] を回して SHOT MEM サブメニューを表示します。

<メニュー表示>

CONFIG 2	LEDMode			
SHOT MEM	AV			
	AW			

- ③ [F2] を回して、LEDMode 項目で操作ボタンの点灯方法を切り替えます。

AV : スイッチャー方式（緑色に点灯します。）

AW : カメラ方式（アンバー色に点灯します。）

3. 基本操作

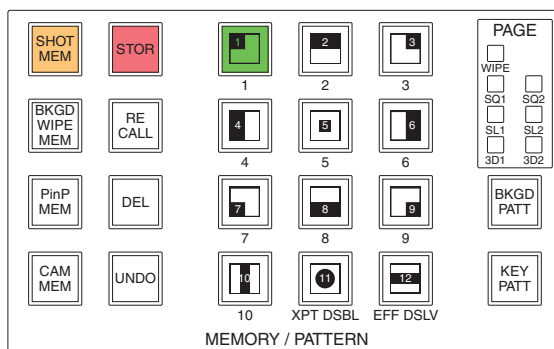
3-10-1. メモリーの登録、呼び出し項目

	素材選択	トランジション	パターン	メニュー
SHOT メモリー [SHOT MEM]	<ul style="list-style-type: none"> ● PGM/A バス ● PST/B バス ● PinP1 バス ● PinP2 バス ● KEY Fill バス ● DSK1 Fill バス ● DSK2 Fill バス 	<ul style="list-style-type: none"> ● フェーダー量 (BKGD、KEY) ● ワイプの方向 ● PinP1 の ON/OFF ● PinP2 の ON/OFF ● DSK1 の ON/OFF ● DSK2 の ON/OFF 	<ul style="list-style-type: none"> ● BKGD パターン (MIX、ワイプ) ● KEY パターン (MIX、ワイプ) 	<ul style="list-style-type: none"> ● KEY ● CHR KEY ● PinP1 ● PinP2 ● DSK1 ● DSK2 ● TIME (BKGD) ● TIME (KEY) ● TIME (PinP1、2) ● TIME (DSK1、2) ● TIME (EFF DSLV) ● TIME (FTB) ● TIME (AUX) ● IMAG A ● IMAG B ● CBGD ● BKGD
BKGD/WIPE メモリー [BKGD/WIPE MEM]	<ul style="list-style-type: none"> ● PGM/A バス ● PST/B バス 	<ul style="list-style-type: none"> ● フェーダー量 ● ワイプの方向 	<ul style="list-style-type: none"> ● BKGD パターン (MIX、ワイプ) 	<ul style="list-style-type: none"> ● TIME (BKGD) ● BKGD
PinP メモリー [PinP MEM]	<ul style="list-style-type: none"> ● PinP1 バス ● PinP2 バス 	<ul style="list-style-type: none"> ● PinP1 の ON/OFF ● PinP2 の ON/OFF 		<ul style="list-style-type: none"> ● PinP1 ● PinP2 ● TIME (PinP1、2)
CAM メモリー [CAM MEM]	<ul style="list-style-type: none"> ● 選択されている回転台に登録されているプリセット番号の登録、呼び出し、削除ができます。 			

3. 基本操作

3-10-2. メモリーの登録 (Store)

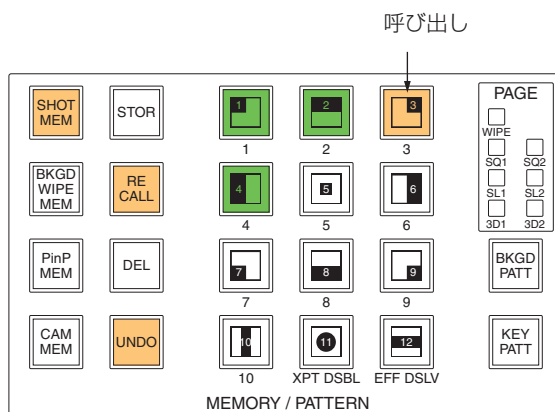
メモリーとして登録しておきたい映像や動作の設定を行い、テンキー（1～10）に登録しておきます。



- ① 登録しておきたい映像や動作を本機で設定します。
- ② 登録するメモリーのボタン [SHOT MEM]、[BKGD WIPE MEM]、[PinP MEM]、[CAM MEM] のいずれかを押しして選択します。
選択されたボタンがアンバー色に点灯します。
前回の操作に応じて、[STOR] ボタン、[RECALL] ボタン、[DEL] ボタンのいずれかが点灯します。
- ③ [STOR] ボタンを押します。
[STOR] ボタンが赤色に点灯します。
- ④ 登録するテンキー（1～10）を長押し（2秒程度）します。
長押ししたテンキーに登録が完了すると、押したテンキーが緑色（AW方式ではアンバー色）に点灯します。
- ⑤ 上記の手順を繰り返し行い、何種類かの設定をテンキーに登録します。
 - 1つのテンキーには、選択した種類のメモリー単位（SHOTメモリー、BKGD/WIPEメモリー、PinPメモリー、CAMメモリー）の項目すべてが登録されます。
⇒ 「3-10-1. メモリーの登録、呼び出し項目」参照
 - [CAM MEM] ボタンは、回転台に登録されているプリセット番号を使用します。メモリー部のテンキーで登録した番号が回転台のプリセット番号になります。
 - [STOR] ボタンを押したときに緑色（AW方式ではアンバー色）に点灯しているテンキーには、登録できません。メモリーの削除を行ってから登録し直してください。
 - [CAM MEM] ボタンで登録する場合は、強制的に回転台のプリセット番号に登録されますので注意してください。

3. 基本操作

3-10-3. メモリー動作の呼び出し (Recall)



- ① 呼び出すメモリーのボタン [SHOT MEM]、[BKGD WIPE MEM]、[PinP MEM]、[CAM MEM] のいずれかを押して選択します。
選択されたボタンがアンバー色に点灯します。
前回の操作に応じて、[STOR] ボタン、[RECALL] ボタン、[DEL] ボタンのいずれかが点灯します。
- ② [RECALL] ボタンを押します。[RECALL] ボタンがアンバー色に点灯します。
また、メモリーが登録されているテンキーのボタンが緑色 (AW 方式ではアンバー色) に点灯します。
 - ただし [CAM MEM] が選択されている場合は、テンキーのボタンは点灯しません。
- ③ メモリー動作を呼び出すテンキー (1 ~ 10) を押します。
 - メモリー動作が呼び出されるのは、選択したメモリー単位の項目が対象になります。
⇒ 「3-10-1. メモリーの登録、呼び出し項目」参照
他のテンキーのボタンを押すと、押したボタンに登録されているメモリーの項目が呼び出されます。
 - 項目により、メモリー動作を再生する時間が異なる場合があります。
- ④ 呼び出されたメモリー動作が再生した時点で [UNDO] ボタンが有効になり、[UNDO] ボタンがアンバー色に点灯します。
[UNDO] ボタンが点灯している状態で [UNDO] ボタンを押すと、メモリー動作が再生される前の状態に戻ります。
 - [CAM MEM] ボタンが選択されている場合は、[UNDO] ボタンは、無効になりますので点灯しません。
 - [CAM MEM] ボタンは、回転台に登録されているプリセット番号を使用します。
[CAM MEM] ボタンでプリセット番号を登録した後に、回転台側でそのプリセット内容を変更した場合、変更された内容が呼び出されますので、注意してください。
- ⑤ メモリーの呼び出しを終了するときは、[STOR] ボタン、または [SHOT MEM] ボタンを押します。

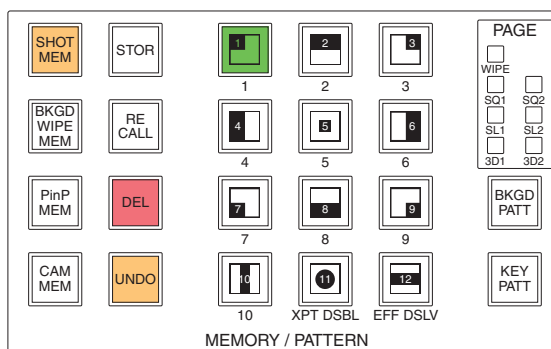
XPT DSBL

メモリー動作の再生中にテンキー No.11 [XPT DSBL] を押すとテンキー No.11 がアンバー色に点灯します。その状態で [RECALL] ボタンを押すと、PGM/A バス、PST/B バス、KEY バス、PinP1/2 バス、DSK1/2 バスの選択素材は、メモリー動作の対象外になります。

- [CAM MEM] ボタンが選択されている場合は、テンキー No.11 [XPT DSBL] の操作は無効になりますので、点灯しません。

3. 基本操作

3-10-4. メモリーの削除 (Delete)



- ① 削除するメモリーのボタン [SHOT MEM]、[BKGD WIPE MEM]、[PinP MEM]、[CAM MEM] のいずれかを押しして選択します。
選択されたボタンがアンバー色に点灯します。
前回の操作に応じて、[STOR] ボタン、[RECALL] ボタン、[DEL] ボタンのいずれかが点灯します。
- ② [DEL] ボタンを押します。
[DEL] ボタンが赤色に点灯します。
また、メモリーが登録されているテンキーのボタンが緑色 (AW 方式ではアンバー色) に点灯します。
 - ただし [CAM MEM] が選択されている場合は、テンキーのボタンは点灯しません。
- ③ 削除するテンキー (1 ~ 10) を長押し (2 秒程度) します。
押したテンキーのボタンが消灯します。
- ④ メモリーを削除した時点で [UNDO] ボタンが有効になり、[UNDO] ボタンがアンバー色に点灯します。
[UNDO] ボタンが点灯している状態で [UNDO] ボタンを押すと、メモリーを削除した前の状態に戻ります。
[CAM MEM] ボタンは、指定したプリセット番号を回転台の登録から削除します。
 - [CAM MEM] ボタンが選択されている場合は、[UNDO] ボタンは、無効になりますので点灯しません。
- ⑤ メモリーの削除を終了するときには、[DEL] ボタン、または [SHOT MEM] ボタンを押します。

3. 基本操作

3-10-5. エフェクトディゾルブ

現在の映像から SHOT メモリーに登録されている映像や動作への切り替えを、スムーズに変化させることができます。

エフェクトディゾルブの対象項目は、「3-10-1. メモリーの登録、呼び出し項目」の SHOT メモリーの項目を参照してください。

- ① [SHOT MEM] ボタンを押して [RECALL] ボタンを押します。
- ② テンキー No.12 [EFF DSLV] を押して、エフェクトディゾルブを有効にします。
有効になるとテンキー No.12 [EFF DSLV] がアンバー色に点灯します。
- ③ メモリー動作が登録されているテンキー（1～10）を押します。
現在の映像からテンキーを押して呼び出したメモリー動作への切り替えを、スムーズに変化させます。
変化させる時間は、TIME メニューの EFF DSLV サブメニューで設定します。
⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照

<メニュー表示>

TIME	8	TransTime	Unit	
EFF DSLV		1s	0f	Sec
	0~33S	0~999f	Frame	

動作の切り替え中は、押したテンキーが緑色（AW 方式ではアンバー色）に点滅します。
動作の切り替えが完了すると、押したテンキーがアンバー色（AW 方式では緑色）に点灯します。

- 動作の切り替え中にテンキー No.12 [EFF DSLV] を押した場合、動作の切り替えが解除され、瞬時に選択したテンキーの動作に切り替わります。
- 動作の切り替え中は、フェーダーの操作が無効になります。
- 動作の切り替え中に、他のメモリー動作を呼び出すことはできません。
- PinP1/2 と DSK1/2 のトランジションを行う場合、切り替わる過程はメモリーに記憶されません。
- [CAM MEM] ボタンが選択されている場合は、テンキー No.12 [EFF DSLV] の操作は無効になりますので、点灯しません。

3. 基本操作

3-11. フレームメモリー

本機に内蔵されている4枚のフレームメモリーに、静止画を保存して使用することができます。フレームメモリーへ静止画を転送する場合は、AUXバス、SDメモリーカード経由で行います。また、フレームメモリーの画像は、SDメモリーカードに転送することができます。フレームメモリーの画像は、クロスポイントアサイン機能で、FMEM1～FMEM4をアサインすることでバスの映像として使用することができます。フレームメモリーの画像をメインフレームに内蔵されているフラッシュメモリー領域に保存すると、電源を切ってもデータを保持することができます。

3-11-1. AUXバスからの転送

① [FMEM] ボタンを押して点灯させ、FMEMメニューを表示します。

⇒ 「2-1-5. LCDメニュー部」参照

② [F1] を回して AUX サブメニューを表示します。

<メニュー表示>

FMEM	1	FMEM	Select	Review	Exec↓
AUX		FMEM1	AUX1	Off	
		FMEM1~4	AUX1~4	On	

③ [F2] を回して、FMEM項目で保存するフレームメモリーを選択します。

④ [F3] を回して、Select項目で転送するAUXバスを選択します。

⑤ [F4] を回して、Review項目でレビュー表示を行う設定をします。

On : 画像を取り込んだ後、AUXバスに選択したフレームメモリー (FMEM1～FMEM4) の映像を表示 (2 秒間) します。

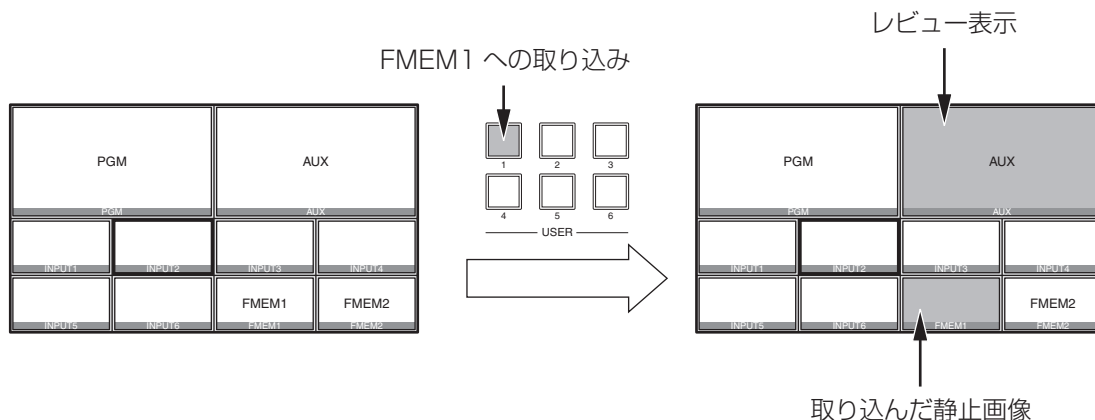
レビュー表示中でも、次の画像を取り込むことが可能です。

Off : レビュー表示を行いません。

⑥ [F5] スイッチ (Exec) を押してフレームメモリーに静止画像を取り込みます。

ユーザーボタンでも静止画像を取り込むことが可能です。

“StrFM1”～“StrFM4”をアサインしたユーザーボタン (⇒ 「5-4-1. ユーザーボタンの設定」参照) を押すと、押したボタンが一瞬点灯し、静止画像の取り込みを行います。



3. 基本操作

3-11-2. フラッシュメモリーへの保存

フレームメモリーの画像をメインフレームに内蔵されているフラッシュメモリー領域に保存すると、電源を切ってもデータを保持することができます。

AUXバスからデータを転送するときに、フレームメモリーの画像データを自動的に保存するか、手動で保存するかを設定します。

手動を選択した場合、保存の操作が完了しない間にメインフレームの電源を切ると、フレームメモリーの画像が消去されますので注意してください。

- ① [FMEM] ボタンを押して点灯させ、FMEM メニューを表示します。

⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照

- ② [F1] を回して Memory サブメニューを表示します。

<メニュー表示>

FMEM 2	Mode	Select		Exec↓
Memory	AUTO	ALL		
	Manual	FMEM1~4		

- ③ [F2] を回して、Mode 項目で保存方法を選択します。

AUTO :自動的に保存する

Manual :手動で保存する

- ④ [F3] を回して、Select 項目でフラッシュメモリー領域に保存するフレームメモリーを選択します。

「ALL」を選択した場合は FMEM1 ~ FMEM4 のフレームメモリーすべてを保存します。

- ⑤ [F5] スイッチ (Exec) を押してフラッシュメモリー領域に保存します。

- [F5] スイッチは、Mode 項目で「Manual」を選択したときに有効になります。

3. 基本操作

3-12. SD メモリーカード

SD メモリーカードには、本機のフレームメモリーデータやセットアップデータを保存することができます。また、SD メモリーカードから本機に、これらのデータを読み込むことも可能です。

フレームメモリーデータ（静止画データ）：

対応ファイル形式は、24bit BMP（ビットマップ、非圧縮）形式と JPEG（ベースライン）形式です。

JPEG 形式のファイルを読み込むことはできますが、本機から SD メモリーカードに保存するときは、BMP 形式のファイルになります。

また、本機では画像サイズを加工することができませんので、パーソナルコンピューターなどで適正なサイズに加工してから SD メモリーカードに保存してください。

< 適正なサイズ >

HD/1080i : 1920 × 1080、HD/1080psf : 1920 × 1080、HD/720p : 1280 × 720、
SD/NTSC : 720 × 487、SD/PAL : 720 × 576

BMP 形式のファイル：

画像のサイズが異なる場合は、画像の中心を合わせて配置します。

画像のサイズが大きい場合は、画像の周囲を切り取ります。

画像のサイズが小さい場合は、画像の周囲を黒の画像にします。

JPEG 形式のファイル：

上記の“適正なサイズ”と一致するサイズの画像のみ読み込むことができます。

SD フォーマットの画像は正方画素ではないので、パーソナルコンピューターに表示した画像とフレームメモリーに読み込んだ画像で、縦横比が変わります。（NTSC 方式では、縦長になります。）

忠実に映像を再現させるには、元の画像を 720 × 540 で作成して、NTSC 方式のときは、720 × 487 に縮小した画像を使用してください。PAL 方式のときは、720 × 576 に拡大した画像を使用してください。

セットアップデータ：

日付、時刻、ネットワーク設定、静止画データを除く、本機に保存されている全てのデータを指します。セットアップデータの拡張子は“h45”になります。

SD メモリーカード取扱時の注意

- SD メモリーカードアクセス LED が点灯している間は、絶対に SD メモリーカードを抜かないでください。SD メモリーカードアクセス LED が点灯している間に SD メモリーカードを抜くと、トランジションが一時停止する場合や SD メモリーカードに保存された内容が失われる場合があります。
- SD メモリーカードに保存した内容は、メモリーカードの紛失や誤操作などにより失われる可能性があります。大切なデータは、パーソナルコンピューターなどに保存されることをおすすめします。

3. 基本操作

3-12-1. SD メモリーカードのイニシャライズ

本機で SD メモリーカードを使用するためには、必ず、本機で SD メモリーカードのイニシャライズを実行してください。イニシャライズを実行することにより、SD メモリーカードのフォーマット（SD 規格に準拠）を行い、専用ディレクトリを作成します。（SD メモリーカードに保存されているファイルは、全て消去されます。）

- ① 本機の SD メモリーカードスロットに SD メモリーカードを挿入します。
- ② [SDCard] ボタンを押して点灯させ、SDCard メニューを表示します。
⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照
- ③ [F1] を回して File サブメニューを表示します。

<メニュー表示>

SDCard 1	Mode↓	Select		Init↓
File	*Init	-		No



SDCard 1	Mode↓	Select		Init↓
File	*Init	-		Yes

- ④ [F2] を回して Mode 項目で、“Init” を選択し、[F2] スイッチを押します。
“Init?” のメッセージが表示されます。
SD メモリーカードが挿入されていない場合は、Mode 項目に “No Card” と表示されます。
モードが確定すると、各モード（Init、Save、Load、Delete）の左側に「*」が表示されます。
「*」が表示されていない場合は、[F2] スイッチを押して、モードを確定してください。
- ⑤ [F5] を回して “Yes” を選択し、[F5] スイッチを押してイニシャライズを実行します。

SD 規格に準拠したフォーマットが行われていない SD メモリーカードを挿入した場合、Load、Save、Delete を選択して [F2] スイッチを押したときに、エラーメッセージ “This card is not usable Please initialize it” を表示します。

⇒ 「3-12-2. SD メモリーカードへの保存」 ～ 「3-12-4. SD メモリーカードのファイル削除」 参照

本機で使用するためには、SD メモリーカードのイニシャライズを行ってください。

また、本機は、SDHC メモリーカードにも対応しています。

SD メモリーカードと SDHC メモリーカードを区別することなく、イニシャライズすることができます。

3. 基本操作

3-12-2. SD メモリーカードへの保存

- ① 本機でイニシャライズを行った SD メモリーカードを SD メモリーカードスロットに挿入します。
- ② [SDCard] ボタンを押して点灯させ、SDCard メニューを表示します。
⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照
- ③ [F1] を回して File サブメニューを表示します。
- ④ [F2] を回して Mode 項目で、Save を選択し、[F2] スイッチを押します

< メニュー表示 >

SDCard 1	Mode↓	Select	SaveFile	Exec↓
File	*Save	-		

FMEM1~4
SetUp

- ⑤ [F3] を回して Select 項目で、SD メモリーカードに保存するデータを選択します。

FMEM1 ~ 4 : フレームメモリー 1 ~ 4 の静止画データ

SetUp : セットアップデータ

- ⑥ [F5] スイッチを押すと、SD メモリーカードにファイルを保存します。
ファイル名は、下記のように通し番号で自動的に付与されます。

HS001.bmp ~ HS999.bmp

< 保存先のフォルダーの構成 >

セットアップデータ : "HS400 ¥SYSTEM" フォルダ
静止画データ : "HS400 ¥IMAGE" フォルダ

ファイルの保存中は、下記のメッセージとファイル名が表示されます。

SDCard 1	...Saving File...
File	HS001

3. 基本操作

3-12-3. SD メモリーカードからの読み込み

- ① データが保存されている SD メモリーカードを SD メモリーカードスロットに挿入します。
データは、それぞれのフォルダーに保存してからファイルの読み込みを行ってください。
他のフォルダーに保存したデータは、本機では認識できません。

セットアップデータ	: "HS400 ¥SYSTEM" フォルダ
静止画データ	: "HS400 ¥IMAGE" フォルダ

- ② SDCard メニューより、[F1] を回して File サブメニューを表示します。
③ [F2] を回して Mode 項目で、Load を選択し、[F2] スイッチを押します

< メニュー表示 >

SDCard 1	Mode↓	Select	LoadFile	Exec↓
File	*Load	-		HS001

FMEM1~4
SetUp

- ④ [F3] を回して Select 項目で、転送先を選択します。
⑤ LoadFile 項目で、[F4] を回して読み込むファイル名を選択します。
読み込むファイル名が、8 文字を超えていた場合、短縮ファイル名で表示されます。
⑥ [F5] スイッチを押すと、SD メモリーカードからファイルを読み込み、本機の内蔵メモリーに保存します。
ファイルの保存中は、下記のメッセージとファイル名が表示されます。

SDCard 1	…Loading File…
File	HS001

- 読み込み可能なファイル数は、999 個です。
- ファイル名として使用できる文字は、半角英数字と半角記号です。(下記を参照)
他の文字を使用しているファイルは、本機では表示されません。

< 使用可能な文字 >

A~Z, a~z, 0~9
スペース, !# \$ % & ' () - . @ ^ _ ` { }

3. 基本操作

3-12-4. SD メモリーカードのファイル削除

- ① データが保存されている SD メモリーカードを SD メモリーカードスロットに挿入します。
- ② SDCard メニューより、[F1] を回して File サブメニューを表示します。
- ③ [F2] を回して Mode 項目で、Delete を選択し、[F2] スイッチを押します。

<メニュー表示>

SDCard 1	Mode↓	Select	DelFile?	No
File	*Delete	-	HS001	
		FMEM SetUp		Yes↓

- ④ [F3] を回して Select 項目で、FMEM（静止画データ）または、SetUp（セットアップデータ）を選択します。
読み込むファイル名が、8 文字を超えていた場合、短縮ファイル名で表示されます。
- ⑤ DelFile? 項目で、[F4] を回して削除するファイル名を選択します。
- ⑥ [F5] を回し、Yes を選択して [F5] スイッチを押すと、ファイルの削除を行います。

3-12-5. SD メモリーカードの情報表示

- ① データが保存されている SD メモリーカードを SD メモリーカードスロットに挿入します。
- ② SDCard メニューより、[F1] を回して CardInfo サブメニューを表示します。

<メニュー表示>

SDCard 2	Images	FreeSpace	GetInf↓
CardInfo	1	496MB/500MB	

- Images** : SD メモリーカードに保存されている静止画ファイルの数を表示します。
本機で読み込みができるファイル数は 999 です。
1000 以上保存されている場合は、Over999 を表示します。
- FreeSpace** : SD メモリーカードの容量と空き容量を MB 単位で表示します。
(空き容量 / カードの容量)

- ③ [F5] スイッチを押すと、Images 項目と FreeSpace 項目の情報表示を更新します。

4. 入出力信号の設定

4-1. 入力信号の設定

IN1 ～ IN16 は、SDI 信号の入力になります。

IN A1、IN A2、IN B1、IN B2 は、下記のオプションボードが接続されている場合のみ設定することができます。

- AV-HS04M1 (SDI 入力ボード)
- AV-HS04M2 (アナログ入力ボード)
- AV-HS04M3 (DVI 入力ボード)
- AV-HS04M6 (アナログコンポジット入力ボード)
- AV-HS04M8 (フル HD DVI 入力ボード)

< 入力信号別の設定一覧 >

入力端子		設定メニューと本書の項目				
		FS	Mode	Freeze	ColCor	UpConv
		4-1-1	4-1-2	4-1-3	4-1-4	4-1-5
IN1 ～ IN8	標準 SDI × 16	○	DbyD のみ 選択可能	○	—	—
IN9 ～ IN12		○		○	—	
IN13 ～ IN16		○	○	○	○	
オプション スロット IN A1、 IN A2、 IN B1、 IN B2	AV-HS04M1 SDI × 2	○	○	○	—	○
	AV-HS04M2 アナログコンポーネント × 2	○	○	○	—	○
	AV-HS04M3 DVI-I × 2	—	—	○	—	—
	AV-HS04M6 アナログコンポジット × 2	○	○	○	—	○
	AV-HS04M8 DVI-D × 2	—	—	○	—	—

入力端子		設定メニューと本書の項目			
		AnaGain	Setting	DVIIn (Dig)	DVIIn (Ana)
		4-1-6	4-1-7	4-2	4-2
IN1 ～ IN8	標準 SDI × 16	—	—	—	—
IN9 ～ IN12		—	—	—	—
IN13 ～ IN16		—	—	—	—
オプション スロット IN A1、 IN A2、 IN B1、 IN B2	AV-HS04M1 SDI × 2	—	—	—	—
	AV-HS04M2 アナログコンポーネント × 2	○	—	—	—
	AV-HS04M3 DVI-I × 2	—	—	○	○
	AV-HS04M6 アナログコンポジット × 2	○	○	—	—
	AV-HS04M8 DVI-D × 2	—	—	○	—

○：有効
—：無効

4. 入出力信号の設定

4-1-1. フレームシンクロナイザー設定

入力ごとにフレームシンクロナイザーの On/Off を設定することができます。

DVI 入力 (オプション) のフレームシンクロナイザーは常に On となり、On/Off の設定はできません。

① [INPUT] ボタンを押して点灯させ、INPUT メニューを表示します。

⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照

② [F1] を回して INPUT XX サブメニューを表示します。

(X: IN1 ~ IN16、A1、A2、B1、B2)

X は、フレームシンクロナイザーを設定する入力を選択します。

③ [F2] を回して、FS 第 3 メニューを表示します。

<メニュー表示>

INPUT XX	FS	FS	Mode↓	
	1/16	On	*Normal	
		Off	DbyD	
			UC	
			Auto	

④ [F3] を回して、FS 項目でフレームシンクロナイザーの On/Off を設定します。

- 出力信号の位相が OH に設定されている場合は、FS 項目を Off にすることができません。

フレームシンクロナイザー機能を Off に設定している間は、AVDL 機能が動作します。

AVDL 機能とは、水平同期基準信号の位相に合わせて入力映像信号の位相を自動調整する機能のことです。

詳細は、「4-7. 出力信号の位相調整」を参照してください。

4. 入出力信号の設定

4-1-2. 入力モードの設定

システムフォーマットが HD に設定されている場合にのみ、入力ごとにモードを設定します。
システムフォーマットが SD に設定されている場合、入力モードは常に Normal と同じになります。

Normal : システムフォーマットと合致した入力信号が有効になります。

DbyD : システムフォーマットと同じフレームレートの SD 信号が入力されたとき、アップコンバートを行わずにドットバイドット (等倍) で入力します。(システムフォーマットが 1080i の場合のみ、設定することが可能です。)

画質劣化がなく、SD フォーマットの素材を PinP 機能で合成する場合に使用します。

UC : システムフォーマットと同じフレームレートの SD 信号が入力されたとき、その信号をアップコンバートします。

Auto : システムフォーマットと合致した入力信号が有効になります。また、システムフォーマットが HD に設定されている場合は、システムフォーマットと同じフレームレートの SD 信号が入力されたとき、その信号をアップコンバートします。

- Auto モードでは、入力信号が切り替わるときに映像が乱れる場合があります。

① INPUT XX サブメニューより [F4] を回して、Mode 項目で入力モードを設定し、[F4] スイッチを押して確定します。

現在選択されている入力モードの左側に「*」が表示されます。

<入力モード対応一覧>

システム	Mode	入力							
		480 /59.94i	576 /50i	1080 /59.94i	1080 /50i	1080 /24psf	1080 /23.98psf	720 /59.94p	720 /50p
SD	480/59.94i	○	■	■	■	■	■	■	■
	576/50i	■	○	■	■	■	■	■	■
HD	1080/59.94i	Normal	■	■	○	■	■	■	■
		DbyD	○	■	■	■	■	■	■
		UC	○	■	■	■	■	■	■
		Auto	○ (UC)	■	○	■	■	■	■
	1080/50i	Normal	■	■	■	○	■	■	■
		DbyD	■	○	■	■	■	■	■
		UC	■	○	■	■	■	■	■
		Auto	■	○ (UC)	■	○	■	■	■
	1080/24psf	Normal	■	■	■	■	○	■	■
		DbyD	■	■	■	■	■	■	■
		UC	■	■	■	■	■	■	■
		Auto	■	■	■	■	■	■	■
1080 /23.98psf	Normal	■	■	■	■	■	○	■	
	DbyD	■	■	■	■	■	■	■	
	UC	■	■	■	■	■	■	■	
	Auto	■	■	■	■	■	■	■	
720/59.94p	Normal	■	■	■	■	■	■	○	
	UC	○	■	■	■	■	■	■	
	Auto	○ (UC)	■	■	■	■	■	○	
720/50p	Normal	■	■	■	■	■	■	○	
	UC	■	○	■	■	■	■	■	
	Auto	■	○ (UC)	■	■	■	■	○	

- ■は黒画面になります。
- 入力 1 ~ 12 は、UC モードと Auto モードを選択することができません。
- DbyD、UC、Auto の各モードを設定した場合、フレームシンクロナイザーが On の状態になります。
- フリーズの設定が On の状態のときは、入力モードを変更することができません。

4. 入出力信号の設定

4-1-3. 入力信号のフリーズ

入力信号をフリーズ（静止）させて使用することができます。
また、フリーズしている間はその入力のタリー信号を出力しません。

フリーズの設定

- ① [INPUT] ボタンを押して点灯させ、INPUT メニューを表示します。
⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照
- ② [F1] を回して INPUT XX サブメニューを表示します。
(X: IN1 ~ IN16、A1、A2、B1、B2)
X は、フリーズを設定する入力を選択します。
- ③ [F2] を回して、Freeze 第 3 メニューを表示します。

<メニュー表示>

INPUT XX	Freeze	Select	Freeze↓
	2/16	Frame	Off
		Field	On

- ④ [F3] を回して Select 項目で、フリーズ方法を選択します。

Frame : フレーム単位でフリーズさせます。

Field : フィールド単位でフリーズさせます。

動いている映像をフリーズさせるときに使用します。

ただし、インターレース信号では、斜め線や動きのある部分がギザギザに見えます。

映像がフリーズしている状態でも、選択することができます。

- ⑤ [F4] スイッチを押して、入力映像のフリーズおよび解除を行います。

表示が“Off” のときに [F4] スイッチを押すと、映像信号がフリーズして表示が“On” になります。

表示が“On” のときに [F4] スイッチを押すと、映像信号のフリーズを解除して表示が“Off” になります。

マルチビューディスプレイの出力に設定されている信号をフリーズすると、素材名の前に“F” マークが表示されます。

- フレームシンクロナイザー機能を OFF で使用する場合は、フリーズ実行時に出力映像が乱れることがありますが、フリーズ画像への影響はありません。
- フレームシンクロナイザー機能を OFF で使用しているときにフリーズの設定を“On” に設定した場合、自動的にフレームシンクロナイザー機能が ON に切り替わります。

4. 入出力信号の設定

4-1-4. カラーコレクター

カラーコレクターを有効にすると、入力ビデオ信号の色補正を行うことができます。
IN9～IN16に入力される信号に対して設定することができます。

カラーコレクターを有効にする

① [INPUT] ボタンを押して点灯させ、INPUT メニューを表示します。
⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照

② [F1] を回して INPUT XX サブメニューを表示します。
(X: IN9～IN16)
X は、カラーコレクターを有効にする入力を選択します。

③ [F2] を回して、CC 第 3 メニューを表示します。

<メニュー表示>

INPUT XX	CC	CC	CpyFrm↓	CLEAR↓
	6/16	On	IN9	ALL
		Off	IN10	Prc
			IN16	Trn
				MTX

④ [F3] を回して CC 項目で、On を選択します。

On : カラーコレクターが有効になります。

Off : カラーコレクターが無効になります。

⑤ [F2] を回して、CCLimit 第 3 メニューを表示します。

<メニュー表示>

INPUT XX	CCLimit	InLmit		
(SDI)	7/16	Off		
		108		
		104		
		100		

⑥ [F4] を回して InLimit 項目で、入力信号の色領域を選択します。

Off : 色領域を制限しません。

108 : 各色 (R、G、B) の振幅レベルを 0～108% に制限します。

104 : 各色 (R、G、B) の振幅レベルを 0～104% に制限します。

100 : 各色 (R、G、B) の振幅レベルを 0～100% に制限します。

4. 入出力信号の設定

カラーコレクターを初期化する

- ① [F2] を回して、CC 第 3 メニューを表示します。
- ② CC 第 3 メニューより [F5] を回して、CLEAR 項目で初期化するパラメーター（第 3 メニューの設定値）を選択します。
 - Prc** : CC Prc1 と 2 のパラメーターを初期値にします。
 - Trn** : CC Trn1 ~ 4 のパラメーターを初期値にします。
 - MTX**: CC MTX1 ~ 3 のパラメーターを初期値にします。
 - ALL** : 上記のパラメーターと CC 第 3 メニューの InLimit 項目を初期値にします。
- ③ [F5] スイッチを押して初期化します。

プロセスコントロール

■ Y 信号のゲイン調整とペダスタルレベル（黒レベル）の設定

- ① INPUT XX サブメニューより [F2] を回して、CC Prc1 第 3 メニューを表示します。

< メニュー表示 >

INPUT XX	CC Prc1	Y-Gain	Ped
	8/16	100.0	0.0
		0.0	-20.0
		}	}
		200.0	20.0

- ② [F3] を回して Y-Gain 項目で、Y 信号のゲインの値を設定します。
- ③ [F4] を回して Ped 項目で、ペダスタルレベル（黒レベル）の値を設定します。

■ C 信号のゲイン調整とヒュー調整

- ① INPUT XX サブメニューより [F2] を回して、CC Prc2 第 3 メニューを表示します。

< メニュー表示 >

INPUT XX	CC Prc2	C-Gain	Hue	ClorCnv
	9/16	100.0	0.0	On
		0.0	0.0	Off
		}	}	
		200.0	359.9	

- ② [F3] を回して C-Gain 項目で、彩度（Saturation）のゲイン値を設定します。
 - ③ [F4] を回して Hue 項目で、色相（Hue）の変化量を設定します。
 - ④ [F5] を回して ClorCnv 項目で、カラーリメトリー (Colorimetry) 変換を設定します。
 - On** : SD フォーマットから HD フォーマットへの変換を行います。
 - Off** : 変換を行いません。
- システムが HD モードに設定され、FS 第 3 メニューの Mode 項目が Normal 以外に設定されているときに有効になります。

4. 入出力信号の設定

トーンカーブ

入力映像の階調を補正します。

トーンカーブを設定して、画像の明るさ、コントラストなどを調整します。

R、G、Bそれぞれの色を別々に調整することにより、ホワイトバランスの調整や色調を調整することができます。

■ ブラックレベルの設定

- ① INPUT XX サブメニューより [F2] を回して、CC Trn1 第3メニューを表示します。

<メニュー表示>

INPUT XX	CC Trn1	BLv-R	BLv-G	BLv-B
	10/16	0.000	0.000	0.000
		-0.500	-0.500	-0.500
		}	}	}
		0.500	0.500	0.500

- ② [F3] を回して BLv-R 項目で、赤 (Red) のブラックレベルを設定します。
- ③ [F4] を回して BLv-G 項目で、緑 (Green) のブラックレベルを設定します。
- ④ [F5] を回して BLv-B 項目で、青 (Blue) のブラックレベルを設定します。

■ グレーレベルの位置設定

- ⑤ 同様に、CC Trn2 第3メニューを表示し、グレーレベルの位置 (GPos-R 項目、GPos-G 項目、GPos-B 項目) を設定します。

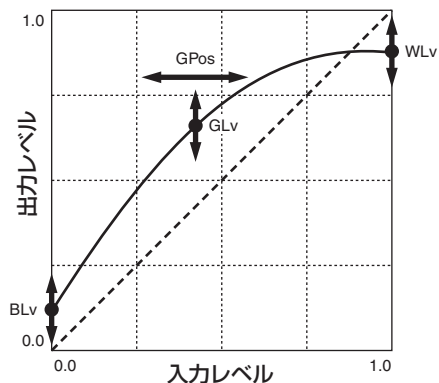
■ グレーレベルの設定

- ⑥ 同様に、CC Trn3 第3メニューを表示し、グレーレベル (GLv-R 項目、GLv-G 項目、GLv-B 項目) を設定します。

■ ホワイトレベルの設定

- ⑦ 同様に、CC Trn4 第3メニューを表示し、ホワイトレベル (WLv-R 項目、WLv-G 項目、WLv-B 項目) を設定します。

- 本機は、設定したブラックレベル、グレーレベル、ホワイトレベルを簡易的に曲線で結び、トーンカーブを作ります。
設定値によっては、希望するトーンカーブにならない場合があります。



4. 入出力信号の設定

カラーマトリクス項目のゲイン調整

① INPUT XX サブメニューより [F2] を回して、CC MTX1 第 3 メニューを表示します。

<メニュー表示>

INPUT XX	CC MTX1	R-G	R-B	
	14/16	0.000	0.000	
		-0.600	-0.600	
		∫	∫	
		0.600	0.600	

② [F3] を回して R-G 項目で、マトリクス項目 R-G のゲイン値を設定します。

③ [F4] を回して R-B 項目で、マトリクス項目 R-B のゲイン値を設定します。

④ 同様に、マトリクス項目 G-R と G-B のゲイン値を CC MTX2 第 3 メニューで設定し、マトリクス項目 B-R と B-G のゲイン値を CC MTX3 第 3 メニューで設定します。

設定値をコピーする

設定したカラーコレクターの値をコピーして、他の入力信号に設定することができます。

① INPUT XX サブメニューより [F2] を回して、CC 第 3 メニューを表示します。

<メニュー表示>

INPUT XX	CC	CC	CpyFrm↓	CLEAR↓
(SDI)	6/16	On	IN9	ALL
		Off	IN10	Prc
			∫	Trn
			IN16	MTX

② [F4] を回して、カラーコレクターの値をコピーする入力信号を選択し、[F4] を押します。

4. 入出力信号の設定

4-1-5. アップコンバーターの設定

INPUT13～16 と下記のオプションボードに内蔵されている、アップコンバーターの設定を行います。

- AV-HS04M1 (SDI 入力ボード)
- AV-HS04M2 (アナログ入力ボード)
- AV-HS04M6 (アナログコンポジット入力ボード)

① [INPUT] ボタンを押して点灯させ、INPUT メニューを表示します。

⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照

<メニュー表示>

INPUT XX	UpConv1	Scale	MovDet↓	Sharp↓
	4/16	*SQ	*3	*3
	EC	1~5	1~5	
	LB			

② [F1] を回して INPUT XX サブメニューを表示します。

(X: IN1～IN16、A1、A2、B1、B2)

X は、アップコンバーターを設定する入力を選択します。

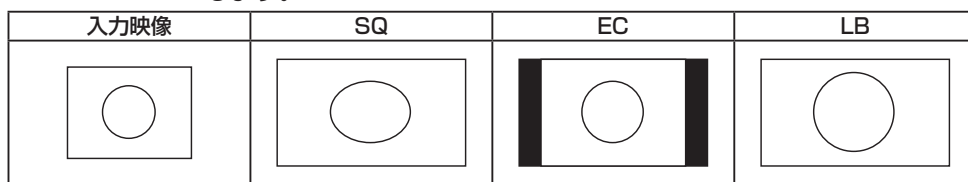
③ [F2] を回して、UpConv1 第3メニューを選択します。

④ [F3] を回して、Scale 項目でスケーリング方式を選択し、[F3] スイッチを押して確定します。

SQ (スクィーズ) : 上下左右ともに画面いっぱいに拡大します。

EC (エッジクロップ) : アスペクト比を維持して垂直解像度に合わせて拡大し、左右に黒の映像を付加します。

LB (レターボックス) : アスペクト比を維持して水平解像度に合わせて拡大し、上下の映像をカットします。



⑤ [F4] を回して、MovDet 項目で、映像の動き検出感度を設定し、[F4] スイッチを押して確定します。

1 : 静止画寄り ~ 3 : 標準 ~ 5 : 動画寄り

⑥ [F5] を回して、Sharp 項目で、映像へのエッジ強調の強弱を設定し、[F5] スイッチを押して確定します。

1 : エッジ強調弱め ~ 3 : 標準 ~ 5 : エッジ強調強め

4. 入出力信号の設定

映像位置の微調整

スケーリング方式で EC（エッジクロップ）を選択したときに、映像位置の微調整を行います。

- ① INPUT XX サブメニューで [F2] を回して、UpConv2 第 3 メニューを表示します。

<メニュー表示>

INPUT XX	UpConv2	EC-Pos↓	Size↓	
	5/16	*Center	*100	
		Right	100	
		Left	}	
			110	

- ② [F3] を回して、EC-Pos 項目で映像の位置を選択します。

Center : 映像を中央に配置し、左右に黒の映像を付加します。

Right : 映像を右側に配置し、左側に黒の映像を付加します。

Left : 映像を左側に配置し、右側に黒の映像を付加します。

映像サイズの調整

アップコンバートした入力映像のサイズを調整します。

- ① INPUT XX サブメニューで [F2] を回して、UpConv2 第 3 メニューを表示します。

<メニュー表示>

INPUT XX	UpConv2	EC-Pos↓	Size↓	
(SDI)	5/16	*Center	*100	
		Right	100	
		Left	}	
			110	

- ② [F4] を回して、入力映像のサイズ（100～110%）を調整します。

4. 入出力信号の設定

4-1-6. アナログ入力のゲイン設定（オプション）

アナログ入力ボード（オプション）が接続されている場合、入力信号のゲインを設定することができます。また、アナログコンポジット入力ボード（オプション）が接続されている場合、Y 信号のゲインを設定することができます。

設定範囲は± 30 ステップで、ゲインは約± 2 dB 変化します。1 ステップ変化させたときのゲインの変化量は一定ではありません。

- ① [INPUT] ボタンを押して点灯させ、INPUT メニューを表示します。

⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照

- ② [F1] を回して INPUT XX サブメニューを表示します。

(X: A1、A2、B1、B2)

X は、ゲインを設定する入力を選択します。

- ③ [F2] を回して、FS 第 3 メニューを表示します。

<メニュー表示>

INPUT XX	FS	FS	Mode↓	AnaGain
	1/4	On	*Normal	0
				-30
				↓
				+30

- ④ [F5] を回して、AnaGain 項目で入力信号のゲイン（Y 信号のゲイン）を設定します。

4. 入出力信号の設定

4-1-7. アナログコンポジット入力信号の設定（オプション）

アナログコンポジット入力ボード（オプション）が接続されている場合、アナログコンポジット入力信号の設定を行います。

- ① [INPUT] ボタンを押して点灯させ、INPUT メニューを表示します。

⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照

- ② [F1] を回して INPUT XX サブメニューを表示します。

(X: A1、A2、B1、B2)

X は、アナログコンポジット信号を設定する入力を選択します。

- ③ [F2] を回して、Setting 第 3 メニューを表示します。

<メニュー表示>

INPUT XX	Setting	Chroma	Ped	Hue
	5/5	0	0	0
		-8~+7	-100 ↓ +100	-30~+30

- ④ [F3] を回して、Chroma 項目でクロマレベルを調整します。（最大変化量：約 ±3 dB）

自動色調整機能が働き、クロマレベルが設定した値に保たれます。

- ⑤ [F4] を回して、Ped 項目でペダスタルレベルを調整します。（最大変化量：約 ±100 mV）

- ⑥ [F5] を回して、Hue 項目で Hue（色合い）を調整します。（最大変化量：約 ±20°）

Hue の調整は、システムフォーマットが 1080/59.94i、720/59.94p、480/59.94i のとき有効になります。

その他の設定は、オプションボードの取扱説明書を参照してください。

4. 入出力信号の設定

4-2. DVI 入力信号の設定 (オプション)

4-2-1. DVI 入力信号の設定

DVI 入力ボード (オプション)、またはフル HD DVI 入力ボード (オプション) が接続されている場合、DVI 入力信号の設定をします。

入力可能な解像度の信号は下記のとおりです。

DVI 入力ボード (デジタル/アナログ)	
・ XGA	(1024 × 768) /60 Hz
・ WXGA	(1280 × 768) /60 Hz
・ SXGA	(1280 × 1024) /60 Hz

フル HD DVI 入力ボード (デジタル)	
・ XGA	(1024 × 768) /60 Hz
・ WXGA	(1280 × 768) /60 Hz
・ SXGA	(1280 × 1024) /60 Hz
・ WSXGA+	(1680 × 1050) /60 Hz
・ UXGA	(1600 × 1200) /60 Hz
・ WUXGA	(1920 × 1200) /60 Hz
・ 1080/59.94P	(1920 × 1080) /59.94 Hz
・ 1080/50P	(1920 × 1080) /50 Hz

- 他の解像度の信号や他の周波数の信号が入力された場合は、入力された信号を正しく取り込むことができません。このとき出力される映像は、黒の映像や乱れた映像になる場合があります。
- HDCP (High-bandwidth Digital Content Protection) には対応していません。

① [INPUT] ボタンを押して点灯させ、INPUT メニューを表示します。

⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照

② [F1] を回して INPUT XX サブメニューを表示します。

(X: A1、A2、B1、B2)

X は、DVI 信号を設定する入力を選択します。

③ [F2] を回して、DVIIn 第 3 メニューを表示します。

<メニュー表示>

INPUT XX	DVIIn	Mode	Scale	Auto↓
	3/7	Dig	Fit-V	Black
	Ana	Fit-H	White	
		FULL	Init	

④ [F3] を回して、Mode 項目で信号方式を選択します。

- DVI 入力ボード (AV-HS04M3) が接続されている場合に設定してください。

Dig : DVI 端子のデジタル入力信号が有効になります。

Ana : DVI 端子のアナログ入力信号が有効になります。

4. 入出力信号の設定

⑤ [F4] を回して、スケーリング方法を選択します。

Fit-V : 入力映像のアスペクト比を維持して、垂直解像度に合わせて拡大または縮小します。

Fit-H : 入力映像のアスペクト比を維持して、水平解像度に合わせて拡大または縮小します。

FULL (フル) : 入力映像をシステムの解像度に合わせて、拡大または縮小します。

(アスペクト比は維持されません。上下左右の拡大縮小率は異なります。)

各フォーマットに対応するサイズについては、次ページの「DVI 入力のスケーリングサイズ一覧」を参照してください。

⑥ アナログ入力信号の黒レベル（オフセット）と白レベル（ゲイン）を自動調整します。

- DVI 入力ボード（AV-HS04M3）が接続されている場合に設定してください。

使用するパーソナルコンピュータによっては、黒レベルおよび白レベルがずれることがあります。

自動調整を行う場合、付属の CD-ROM に入っている黒白信号（BW.bmp）または、全画面黒の信号、全画面白の信号を DVI 入力端子に接続しているパーソナルコンピュータで表示させ、DVI 入力信号として入力します。

黒白信号を使用する場合は、黒と白の境界がモニター画面の中央になるように配置してください。

全画面黒の信号または全画面白の信号を使用する場合は、画面中央から 80 % 以上の領域に黒または白を表示してください。

調整を行う場合は、「黒レベルの自動調整」を先に行ってください。

黒レベルの自動調整

黒白信号（BW.bmp）または全画面黒の信号を入力します。

[F5] を回して Auto 項目で “Black” を選択して [F5] を押すと、黒レベルの自動調整を行います。

調整を行っているときは、LCD に「…During Auto Setting…」が表示されます。

白レベルの自動調整

黒白信号（BW.bmp）または全画面白の信号を入力します。

[F5] を回して Auto 項目で “White” を選択して [F5] を押すと、白レベルの自動調整を行います。

調整を行っているときは、LCD に「…During Auto Setting…」が表示されます。


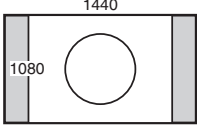

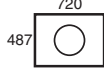
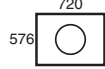
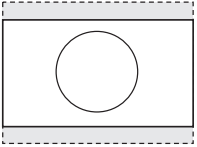
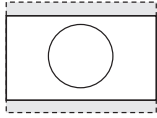
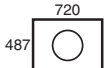
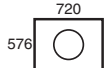
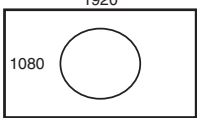
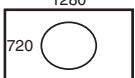
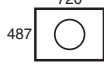
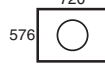
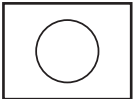
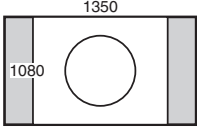
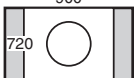
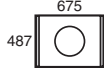
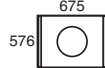
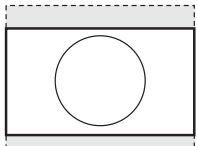
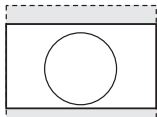


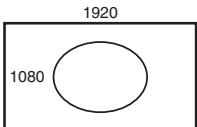
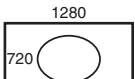
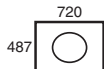
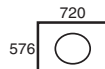
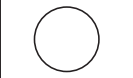
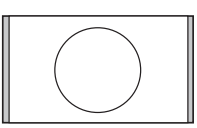
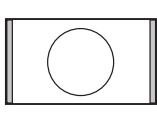


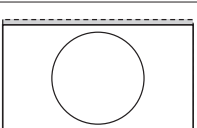
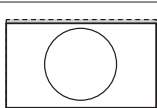


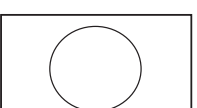
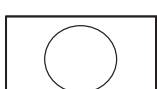


調整値の初期化



[F5] を回して Auto 項目で “Init” を選択して [F5] を押すと、調整値を工場出荷状態に戻します。

調整を行っているときは、LCD に「…During Auto Setting…」が表示されます。

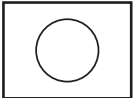
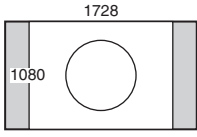
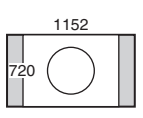


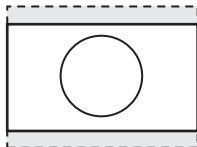
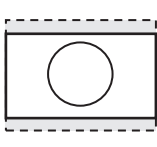


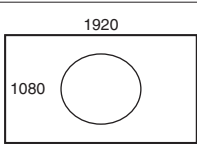
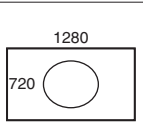


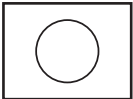
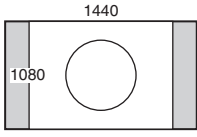
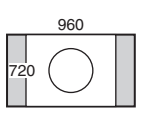


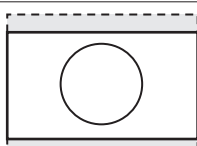
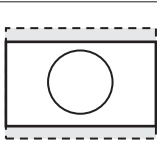


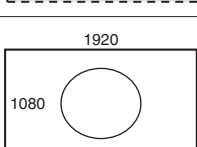
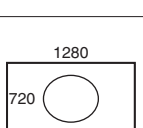


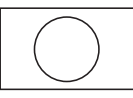
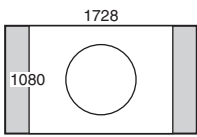
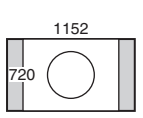


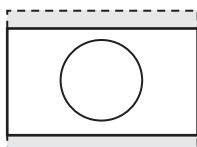
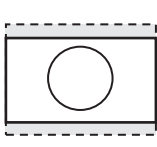


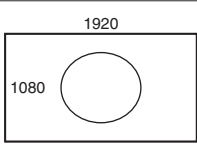
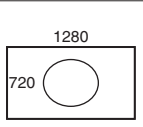


4. 入出力信号の設定



■ DVI 入力のスケーリングサイズ一覧

DVI フォーマット	モード	HD/1080i	HD/720P	SD/NTSC	SD/PAL
		1920 × 1080	1280 × 720	720 × 487	720 × 576
XGA 1024 × 768 	Fit-V				
	Fit-H				
	FULL				
SXGA 1280 × 1024 	Fit-V				
	Fit-H				
	FULL				
WXGA 1280 × 768 	Fit-V				
	Fit-H				
	FULL				

 : 黒の映像を挿入します。
 : はみ出した部分の映像は、切り取ります。

4. 入出力信号の設定

DVI フォーマット	モード	HD/1080i	HD/720P	SD/NTSC	SD/PAL
		1920 × 1080	1280 × 720	720 × 487	720 × 576
WSXGA+ 1680 × 1050 	Fit-V				
	Fit-H				
	FULL				
UXGA 1600 × 1200 	Fit-V				
	Fit-H				
	FULL				
WUXGA 1920 × 1200 	Fit-V				
	Fit-H				
	FULL				

 : 黒の映像を挿入します。
 : はみ出した部分の映像は、切り取ります。

4. 入出力信号の設定

4-2-2. DVI 入力信号の調整

DVI-I 入力信号のクロックフェーズ、位置を調整します。

- ① [INPUT] ボタンを押して点灯させ、INPUT メニューを表示します。

⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照

- ② [F1] を回して INPUT XX サブメニューを表示します。

(X: A1、A2、B1、B2)

X は、クロックフェーズや位置を設定する入力を選択します。

- ③ [F2] を回して DVIPhs 第 3 メニューを表示します。

<メニュー表示>

INPUT XX	DVIPhs	ClkPhs	H-Pos	V-Pos
	4/7	0	0	0
		-16	-100	-100
		}	}	}
		15	100	100

- ④ [F3] を回して、ClkPhs 項目で、アナログ入力信号のクロックフェーズを調整します。

画質を見ながら、最もノイズが少なくなるように値を設定します。

- ⑤ [F4] を回して H-Pos 項目で水平位置を調整します。

- ⑥ [F5] を回して V-Pos 項目で垂直位置を調整します。

4. 入出力信号の設定

4-2-3. DVI 入力信号の情報表示

DVI 入力信号の映像に関する情報を表示することができます。

- ① [INPUT] ボタンを押して点灯させ、INPUT メニューを表示します。

⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照

- ② [F1] を回して INPUT XX サブメニューを表示します。

(X: A1、A2、B1、B2)

X は、情報を表示する入力を選択します。

- ③ [F2] を回して Status1 第 3 メニューを表示します。

<メニュー表示>

INPUT XX (DVI)	Status1 5/7	H-Freq **.*kHz	V-Freq **.*Hz	
INPUT XX (F-DVI)	Status1 5/7	H-Freq **.*kHz	V-Freq **.*Hz	

H-Freq : 映像の水平周波数を表示します。

V-Freq : 映像の垂直周波数を表示します。

- ④ [F2] を回して Status2 第 3 メニューを表示します。

<メニュー表示>

INPUT XX (DVI)	Status2 6/7	Size **** x ****	
INPUT XX (F-DVI)	Status2 6/7	Size **** x ****	

Size : 映像の画素数を表示します。

(デジタル信号が入力されているときのみに表示します。)

- ⑤ [F2] を回して Status3 第 3 メニューを表示します。

<メニュー表示>

INPUT XX (DVI)	Status3 7/7	Dot Clock **.*MHz	
INPUT XX (F-DVI)	Status3 7/7	Dot Clock **.*MHz	

Dot Clock : 映像のドットクロック周波数を表示します。

(デジタル信号が入力されているときのみに表示します。)

4. 入出力信号の設定

4-3. 出力信号の設定

OUT1 ～ OUT4 は、SDI 信号の出力になります。

OUT5、OUT6 は、DVI-D 信号の出力になります。

OUT A1、OUT A2、OUT B1、OUT B2 は、下記のオプションボードが接続されている場合のみ設定することができます。

- AV-HS04M4 (アナログ出力ボード)
 - AV-HS04M5 (DVI/ アナログ出力ボード)
 - AV-HS04M7 (SDI 出力ボード)
 - AV-HS04M7D (3D SDI 出力ボード)
- AV-HS04M7D は、SLOT B (OUT B1 と OUT B2) のみに対応しています。

< 出力信号別の設定一覧 >

出力端子		設定メニューと本書の項目			
		Assign	DVIOut (Dig)	DVIOut (Ana)	DownCnv
		4-3-1	4-4	4-4	4-5
OUT1 ～ OUT4	標準 SDI × 4	○	—	—	—
OUT5、OUT6	標準 DVI-D × 2	○	○	—	—
オプション スロット OUT A1、 OUT A2、	AV-HS04M4 アナログコンポーネント × 2	○	—	—	—
	AV-HS04M5 DVI-I × 1、 アナログコンポーネント × 1	○	○	○	—
	AV-HS04M7 SDI × 2	○	—	—	○
	AV-HS04M7D SDI × 2	—	—	—	—
オプション スロット OUT B1、 OUT B2	AV-HS04M4 アナログコンポーネント × 2	○	—	—	—
	AV-HS04M5 DVI-I × 1、 アナログコンポーネント × 1	○	○	○	—
	AV-HS04M7 SDI × 2	○	—	—	○
	AV-HS04M7D SDI × 2	○	—	—	○

○：有効
—：無効

4. 入出力信号の設定

4-3-1. 出力信号のアサイン

OUTPUT1 ~ 10 に、出力信号をアサインします。

- ① [OUTPUT] ボタンを押して点灯させ、OUTPUT メニューを表示します。

⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照

- ② [F1] を回して OUTPUTYY サブメニューを表示します。

(Y: OUT1 ~ OUT6、A1、A2、B1、B2)

Y は、アサインする出力を選択します。

- ③ [F2] を回して、Asign サブメニューを表示します。

<メニュー表示>

OUTPUTYY	Asign	Source	Mode↓	
	1/2	PGM	*Normal	
		PVW	DC	
		CLN		
		AUX1~4		
		MV1,MV2		
		KeyOut		

- ④ [F3] を回して、Source 項目で出力信号の種類を設定します。

PGM :

スイッチャーの本線出力でワイプ、ミックス、キー、ダウンストリームキーなど効果がかかった映像を出力します。

PVW :

次の操作を事前に確認できるプレビュー出力です。

AUX1 ~ 4 :

1 ~ 4 系統ある AUX バスで選択された信号を出力します。

CLN :

クリーン信号 (PGM 信号からキー、ダウンストリームキーなどの効果を除いた映像) を出力します。

⇒ 「CLN のアサイン」 参照

MV1、MV2 :

2 系統あるマルチビューディスプレイ出力です。

複数の入力信号や出力信号を縮小して、1 画面に出力します。

KeyOut :

キー信号を出力します。

4. 入出力信号の設定

⑤ SDI 出力ボード（オプション：AV-HS04M7/AV-HS04M7D）が接続されている場合は、[F4] を回して Mode 項目で出力モードを設定し、[F4] スイッチを押して確定します。

現在選択されている出力モードの左側に「*」が表示されます。

Normal :

システムフォーマットと同一の信号を出力します。

DC（ダウンコンバーター）:

システムフォーマットが 1080/59.94i、720/59.94p のときは、480/59.94i のフォーマットで出力します。

システムフォーマットが 1080/50i、720/50p のときは、576/50i のフォーマットで出力します。

システムフォーマットが SD（480/59.94i、576/50i）のときは、選択することができません。

CLN のアサイン

CLN 出力を KEYCLN、DSK1CLN、DSK2CLN のいずれかに設定します。

① [CONFIG] ボタンを押して点灯させ、CONFIG メニューを表示します。

⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」参照

② [F1] を回して、CLNAsign サブメニューを表示します。

<メニュー表示>

CONFIG12	CLN			
CLNAsign	KEY			

DSK1
DSK2

③ [F2] を回して、CLN 項目で出力信号の種類を設定します。

4. 入出力信号の設定

4-4. DVI 出力の設定(標準出力の OUT5 と OUT6、およびオプション)

標準出力の OUT5 と OUT6 の DVI 出力信号、および DVI/ アナログ出力ボード (オプション) が接続されている場合の DVI 出力信号の設定をします。

- ① [OUTPUT] ボタンを押して点灯させ、OUTPUT メニューを表示します。

⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照

- ② [F1] を回して OUTPUTYY サブメニューを表示します。

(Y: OUT5、OUT6、A1、A2、B1、B2)

Y は、DVI 信号に対応する出力を選択します。

- ③ [F2] を回して、DVIOut 第 3 メニューを表示します。

- ④ [F3] を回して、Mode 項目で信号の方式を選択し、[F3] スイッチを押して確定します。

- DVI/ アナログ出力ボード (AV-HS04M5) が接続されている場合に設定してください。

Dig : DVI 端子より、DVI デジタル信号を出力します。

Ana : DVI 端子より、DVI アナログ信号 (RGB) を出力します。

“Ana” を選択したとき、接続するモニターによっては、映像の表示位置がずれる場合があります。

表示位置がずれている場合は、モニター側で表示位置の調整を行ってください。

調整の方法は、モニターの取扱説明書を参照してください。

- ⑤ [F4] を回して、出力する映像の解像度を選択し、[F4] スイッチを押して確定します。

Auto : DVI 信号により出力先の機器情報を取得し、最適な解像度で出力します。

垂直周波数は 60 Hz、アナログ出力の最大解像度は SXGA、デジタル出力の最大解像度は、WUXGA になります。

機器情報が取得できない場合や、機器情報に本機が出力可能な解像度および周波数が記述されていない場合は、XGA の設定で出力します。

XGA : 1024 × 768/60 Hz で出力します。

WXGA : 1280 × 768/60 Hz で出力します。

SXGA : 1280 × 1024/60 Hz で出力します。

WSXGA+ : 1680 × 1050/60 Hz で出力します。(デジタル出力の場合のみに選択できます。)

UXGA : 1600 × 1200/60 Hz で出力します。(デジタル出力の場合のみに選択できます。)

WUXGA : 1920 × 1200/60 Hz で出力します。(デジタル出力の場合のみに選択できます。)

1080P : 1920 × 1080/59.94 Hz、または 1920 × 1080/50 Hz で出力します。

垂直周波数は、システムフォーマットと同じになります。

OUT5 と OUT6 のみに選択できます。

システムフォーマットが 1080/23.98PsF、24PsF のときは、出力することができません。

<メニュー表示>

OUTPUTYY	DVIOut	Mode	Size↓	Scale↓
	2/2	*Dig	*Auto	*Fit-V
	Ana		XGA WXGA SXGA WSXGA+ UXGA WUXGA 1080P	Fit-H Full

4. 入出力信号の設定

⑥ [F5] を回して、スケーリング方法を選択し、[F5] スイッチを押して確定します。

- Fit-V** : 出力映像のアスペクト比を維持して、垂直解像度に合わせて拡大または縮小します。
(映像の無い部分には黒の映像を挿入します。はみ出した部分の映像は切り取ります。)
- Fit-H** : 出力映像のアスペクト比を維持して、水平解像度に合わせて拡大または縮小します。
(映像の無い部分には黒の映像を挿入します。はみ出した部分の映像は切り取ります。)
- Full (フル)** : 出力映像をシステムの解像度に合わせて拡大または縮小します。
(アスペクト比は維持されません。上下左右の拡大縮小率は異なります。)

■ DVI-D 信号 (OUT5 と OUT6) の場合に下記の設定を行ってください。

⑦ [F2] を回して、Assign サブメニューを表示します。

<メニュー表示>

OUTPUTYY	Assign	Source	MovDet↓
	1/2	PGM	*3
		PVW	1~5
		CLN	
		AUX1~4	
		MV1,MV2	
		KeyOut	

⑧ [F4] を回して、MovDet 項目で、映像の動き検出感度を設定し、[F4] スイッチを押して確定します。

1 : 静止画寄り ~ 3 : 標準 ~ 5 : 動画寄り

4. 入出力信号の設定

4-5. ダウンコンバーターの設定（オプション）

SDI 出力ボード（オプション：AV-HS04M7/AV-HS04M7D）に内蔵されている、ダウンコンバーターの設定を行います。

- ① [OUTPUT] ボタンを押して点灯させ、OUTPUT
メニューを表示します。

⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照

<メニュー表示>

OUTPUTYY	DownCnv	Scale↓	Delay↓	Sharp↓
	2/2	*SQ	*90H	*3
		EC LB	1F	1~5

- ② [F1] を回して OUTPUTYY サブメニューを表示
します。

(Y: Out1 ~ Out4, A1, A2, B1, B2)

Y は、コンバートする出力信号を選択します。

- ③ [F2] を回して DownConv 第 3 メニューを表示します。

- ④ [F3] を回して、Scale 項目でスケーリング方式を選択し、[F3] スイッチを押して確定します。

SQ (スクィーズ) : アスペクト比が 4:3 になるように、上下左右ともに縮小します。

EC (エッジクロップ) : アスペクト比を維持して垂直解像度に合わせて縮小し、左右の映像をカット
します。

LB (レターボックス) : アスペクト比を維持して水平解像度に合わせて縮小し、上下に黒の映像を付
加します。

システム映像 (HD)	出力映像 (SD)		
	SQ	EC	LB

- ⑤ [F4] を回して、Delay 項目で出力の遅延時間を設定し、[F4] スイッチを押して確定します。

90H (75H) :

システムフォーマットが 1080/59.94i のときは、システム映像 (HD) より 90H 遅れて出力
します。

システムフォーマットが 720/59.94p のときは、システム映像 (HD) より 90H+1F (フレーム)
遅れて出力します。

システムフォーマットが 1080/50i のときは、システム映像 (HD) より 75H 遅れて出力します。

システムフォーマットが 720/50p のときは、システム映像 (HD) より 75H+1F (フレーム)
遅れて出力します。

システムフォーマットが 1080/50i、720/50p のときは、“75H” がメニューに表示されます。

1F : システム映像 (HD) より 1 フレーム遅れの同相で出力します。

位相と遅延量については、「4-7. 出力信号の位相調整」を参照してください。

- ⑥ [F5] を回して、Sharp 項目で、映像へのエッジ強調の強弱を設定し、[F5] スイッチを押して確定します。

1 : 標準 ~ **5 :** エッジ強調強め

その他の設定は、オプションボードの取扱説明書を参照してください。

4. 入出力信号の設定

4-6. 同期信号の設定

システムで使用する同期信号を選択します。

外部同期：外部同期信号に同期します（ゲンロック）。リファレンス入力信号はループスルー出力します。

BBST：ブラックバースト信号（垂直位相 0H）

BBAD：ブラックバースト信号

59.94i または 59.94p 選択時	：垂直位相 90H
50i または 50p 選択時	：垂直位相 75H

TRI：3 値シンク信号（垂直位相 0H）

HD の場合に選択できます。

内部同期：内部基準信号（INT）に同期します。2 つのリファレンス端子から REFOUT 信号（ブラックバースト信号）を出力します。

① [SYSTEM] ボタンを押して点灯させ、SYSTEM メニューを表示します。

⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照

② [F1] を回して Ref サブメニューを表示します。

<メニュー表示>

SYS	4	Sync↓	BBSetup	GenLock
Ref		*BBST	7.5IRE	-
		BBAD	0IRE	Locked
		TRI		UnLock
		INT		

③ [F2] を回して Sync 項目で、同期信号を選択し、[F2] スイッチを押して選択内容を確定します。

現在選択されているリファレンス信号の左側に「*」が表示されます。

④ [F3] を回して、BBSetup 項目で内部同期モード時におけるブラックバースト信号のセットアップレベルを選択します。

この設定は、映像方式が 59.94i または 59.94p のときに有効になります。

50i または 50p のときは、0IRE 固定になります。

⑤ GenLock 項目には、ゲンロックの状態を表示します。

Locked：外部同期信号または内部基準信号に同期しています。

UnLock：外部同期信号または内部基準信号に同期していません。

- 1080/23.98PsF や 24PsF フォーマット時は、REF サブメニューの SYNC 項目で INT（内部同期）を選択できません。
- 本機は、システムフォーマットと同じフィールド周波数の同期信号に対応します。
ただし、1080/23.98PsF フォーマット時は、10F-ID 付きブラックバースト信号（SMPTE318M 準拠）にも対応します。

4. 入出力信号の設定

4-7. 出力信号の位相調整

出力ビデオ信号の位相を調整します。

① [SYSTEM] ボタンを押して点灯させ、SYSTEM メニューを表示します。

⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照

② [F1] を回して OutPhs サブメニューを表示します。

<メニュー表示>

SYS	3	System	H-Phase	V-Phase
OutPhs		1H	0	0
		0H	-1375	-100
			}	}
			+1374	+100

③ [F2] を回して System 項目で、OH または 1H を選択します。

OH：システムの REF 信号に対して同相で出力ビデオ信号を出力します。

すべての入力信号に対してフレームシンクロナイザー機能が ON 状態になります。

1H：システムの REF 信号に対して 1H 遅れで出力ビデオ信号を出力します。

フレームシンクロナイザー機能が ON のときは、1 フレーム + 1H 遅延したビデオ信号出力になります。

④ [F3] を回して H-Phase 項目で H 位相の調整をします。

H-Phase は、-0.5H ~ +0.5H の範囲で調整することができます。

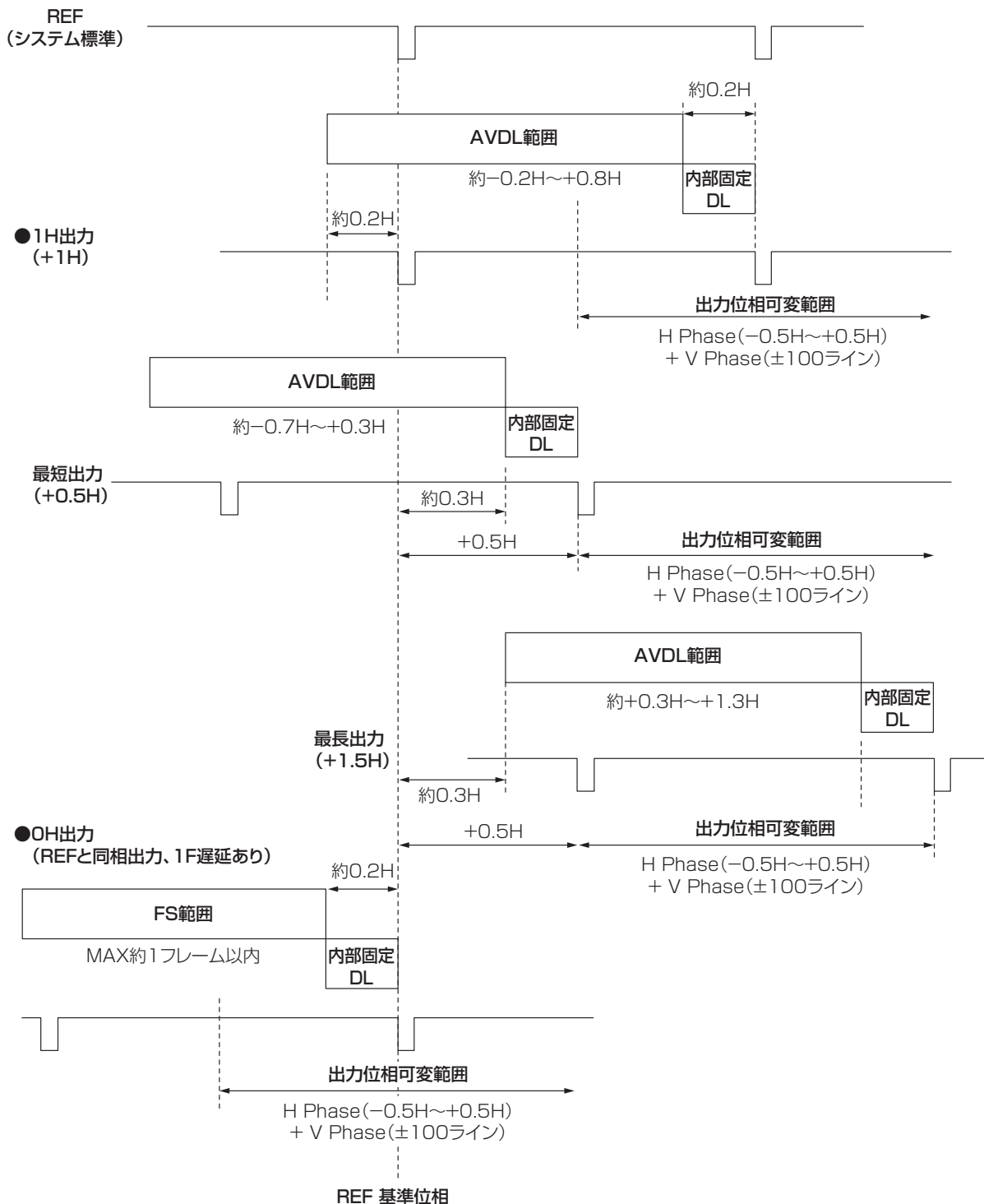
- ビデオフォーマットにより、メニューに表示される設定値が異なります。

⑤ [F4] を回して V-Phase 項目で V 位相の調整をします。

V-Phase は、-100H ~ +100H の範囲で調整することができます。

4. 入出力信号の設定

< 位相調整のしくみ >

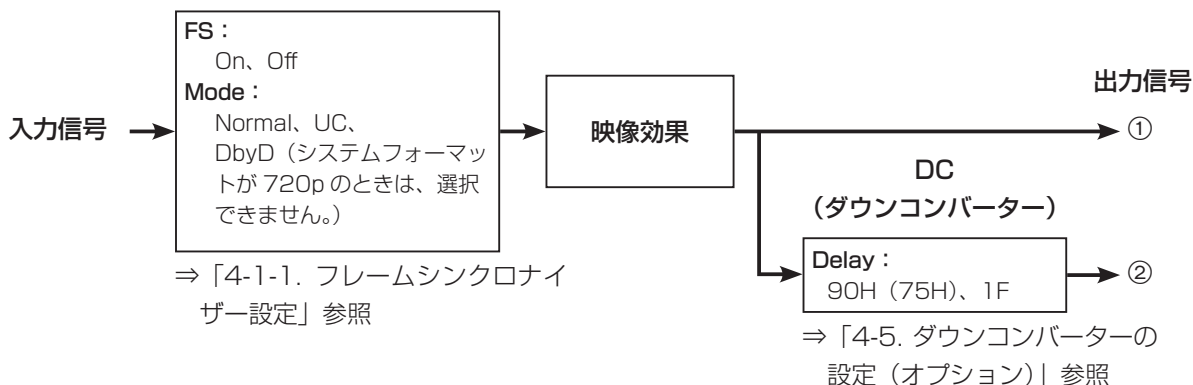


AVDL 範囲：自動位相調整可能な引き込み範囲です。

4. 入出力信号の設定

<HD フォーマット使用時における入出力信号の位相と遅延量>

フレームシンクロナイザー



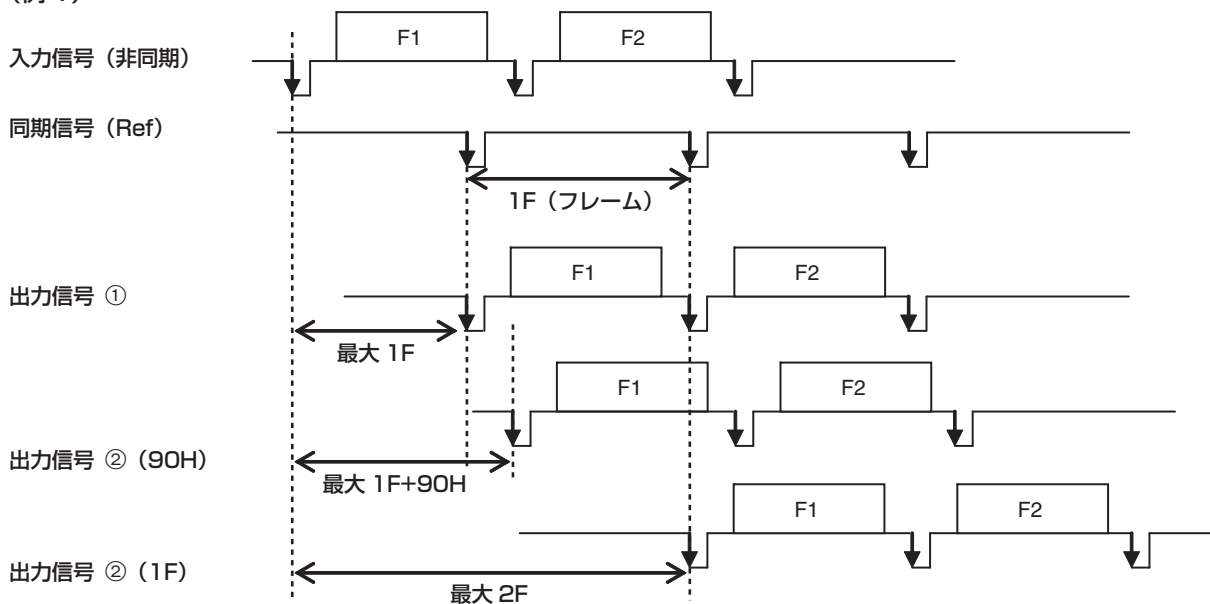
OutPhs	Input		非同期入力	出力信号①		出力信号②		出力信号②	
	System	Mode		FS	Normal	DC (90H)	DC (90H)	DC (1F)	DC (1F)
				位相	遅延量	位相	遅延量	位相	遅延量
同期信号 (Ref) : ブラックバースト信号 (BBST)、3 値シンク信号 (TRI)、内部基準信号 (INT)									
1H	Normal	Off	不可	Ref+1H	1H	①+90H	1H+90H	①と同相	1H+1F
	Normal	On	可能	Ref+1H	最大 1F+1H	①+90H	最大 1F+1H +90H	①と同相	最大 2F+1H
	UC/ DbyD	On (強制)	可能						
0H (例 1)	Normal/ UC/ DbyD	On (強制)	可能	Ref と 同相	最大 1F	①+90H	最大 1F+90H	①と同相	最大 2F
同期信号 (Ref) : ブラックバースト信号 (BBAD)									
1H	Normal	Off	不可	Ref-90H +1H	1H	①+90H	1H+90H	①と同相	1F+1H
	Normal	On	可能	Ref-90H +1H	最大 1F-90H +1H	①+90H	最大 1F+1H	①と同相	最大 2F-90H +1H
	UC/ DbyD	On (強制)	可能						
0H (例 2)	Normal/ UC/ DbyD	On (強制)	可能	Ref-90H	最大 1F-90H	①+90H (Ref と 同相)	最大 1F	①と同相	最大 2F-90H

- 1080/50i、720/50p の場合は、上記の 90H が 75H になります。
- 1H は、HD フォーマットでの換算です。
- 映像効果として DVE、IMAGE、PinP を使用した場合は、出力信号が +1F 遅延します。
- DVI 入力信号は、フレームシンクロナイザーが On の状態になるため、位相や遅延量が UC/DbyD 選択時と同様になります。
- DVI 出力信号は、+1F 遅延します。
- マルチビューディスプレイに出力する場合は、出力映像が +1F 遅延します。
- DVI 出力信号にマルチビューディスプレイの映像を出力する場合は、出力映像が +2F 遅延します。

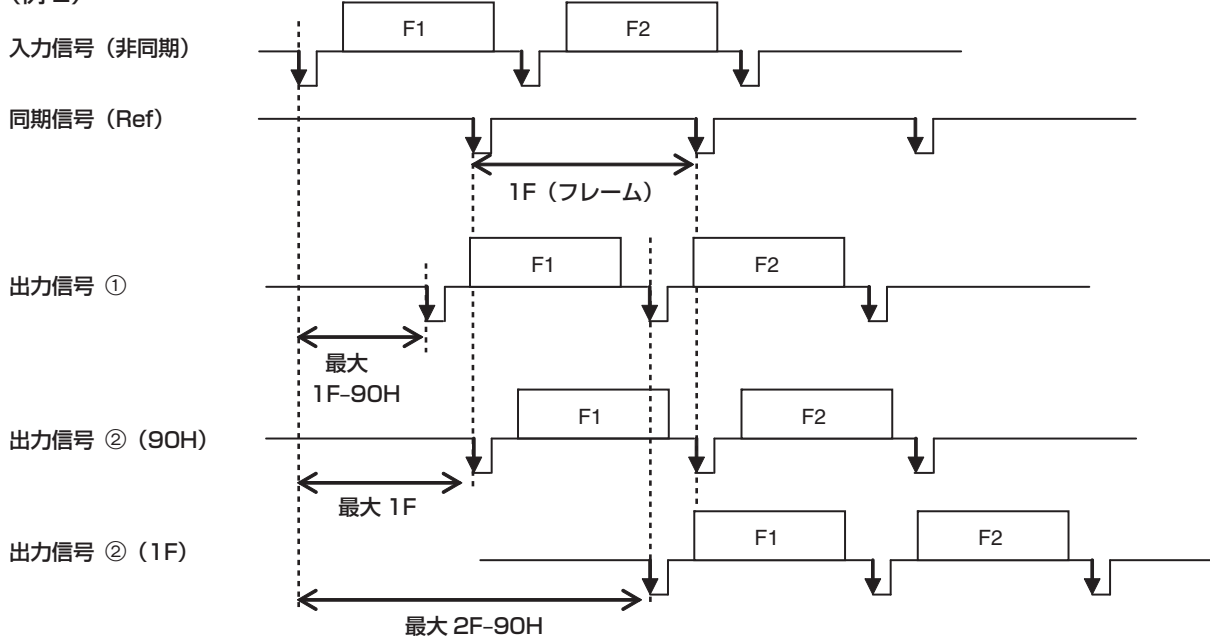
4. 入出力信号の設定

< 入力信号と出力信号の位相関係 > (1080/59.94i の場合)

(例 1)



(例 2)



4. 入出力信号の設定

4-8. マルチビューディスプレイの設定

外部モニターの1画面に、各入力映像、プログラム映像、プレビュー映像などを並べて2系統（MV1とMV2）に出力することができます。

4-8-1. 画面レイアウトの設定

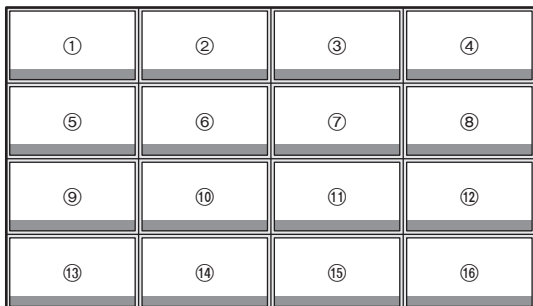
マルチビューディスプレイには、16分割、10分割、9分割、4分割の表示モードがあります。子画面①～⑩には、入力1～16、IN-A1、IN-A2、IN-B1、IN-B2、CBGD、FMEM1～4、PGM、PVW、AUX1～4、KeyOutをアサインすることが可能です。

MV1とMV2に設定できる分割表示は、子画面の数の合計が最大で20画面までです。

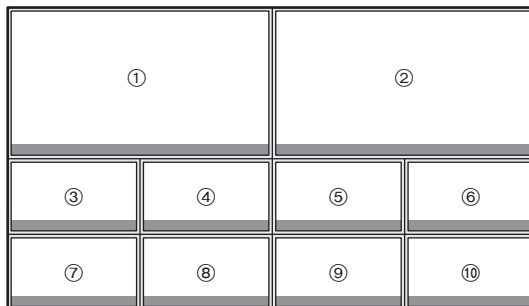
(MV1が16分割に設定されているときは、MV2は4分割になり、9分割以上の設定はできません。)

<表示モード>

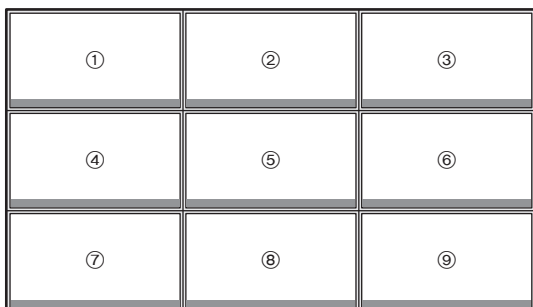
16分割 (16Split) :



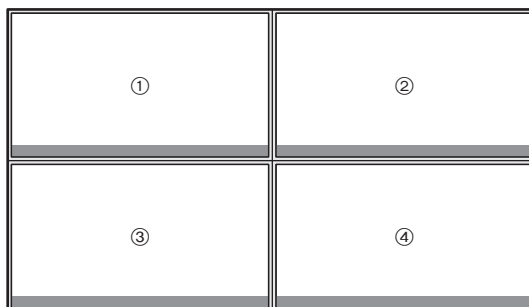
10分割 (10Split) :



9分割 (9Split) :



4分割 (4Split) :



4. 入出力信号の設定

① [MV] ボタンを押して点灯させ、MV メニューを表示します。

⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照

② [F1] を回して、設定したいマルチビューの出力信号に応じて MV1 PATT、または MV2 PATT サブメニューを選択します。

<メニュー表示>

MV	1	Split		Pos	Signal
MV1 PATT	10	Split		1	PGM
		16Split		1~10	IN1~16
		9Split			IN-A1
		4Split			IN-A2
					IN-B1
					IN-B2
					CBGD
					FMEM1~4
					PVW
					KeyOut
					AUX1~4

③ [F2] を回して Split 項目で、分割の表示モードを設定します。

④ [F4] を回して Pos 項目で、子画面 (① ~ ⑩) を設定します。

⑤ [F4] を回して Signal 項目で、子画面に表示する信号名を設定します。

- AUX1 ~ 4 を選択した場合、AUX 出力信号として選択されている信号は、下記のように信号名を LCD に表示します。⇒ 「3-9-1. AUX 出力素材の選択」 参照

信号名	LCD の表示	信号名	LCD の表示
IN1 ~ 16	[IN1] ~ [IN16]	MV1、MV2	[MV1]、[MV2]
IN-A1、IN-A2	[IN-A1]、[IN-A2]	KeyOut	[KeyOut]
IN-B1、IN-B2	[IN-B1]、[IN-B2]	FMEM1 ~ 4	[FM1] ~ [FM4]
PGM	[PGM]	CBGD	[CBG]
PVW	[PVW]	CBAR	[BAR]
CLN	[CLN]		

- AUX2 ~ AUX4 を選択した場合、AUX バス (AUX2、AUX3、AUX4) の出力信号としてマルチビューディスプレイの出力 (MV1 または MV2) を選択すると、マルチビューディスプレイの子画面に表示される AUX バスの映像は黒の映像になります。

4. 入出力信号の設定

4-8-2. 分割枠と文字の設定

マルチビューディスプレイに表示される分割画面の枠、文字の輝度と背景の設定を行います。

- ① [MV] ボタンを押して点灯させ、MV メニューを表示します。

⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照

- ② [F1] を回して、設定したいマルチビューの出力信号に応じて MV1Frame、または MV2Frame サブメニューを選択します。

<メニュー表示>

MV	2	Frame	Char	Label	Tally	MV	4	Frame	Char	Label	Tally
MV1Frame		LUM75%	LUM75%	On	Red+GRN	MV2Frame		LUM75%	LUM75%	On	Red+GRN
		LUM 0%	LUM 0%	Off	Red			LUM 0%	LUM 0%	Off	Red
		LUM25%	LUM25%		Off			LUM25%	LUM25%		Off
		LUM50%	LUM50%					LUM50%	LUM50%		
		LUM100%	LUM100%					LUM100%	LUM100%		
		Off	Off					Off	Off		

- ③ [F2] を回して Frame 項目で、分割枠の輝度および分割枠の表示を設定します。

LUM (0%、25%、50%、75%、100%) :

分割枠（グレースケール）の輝度を設定します。

Off : 分割枠を表示しません。

- ④ [F3] を回して Char 項目で、文字の輝度および文字の表示を設定します。

LUM (0%、25%、50%、75%、100%) :

文字（グレースケール）の輝度を設定します。

- 入力信号が無い場合やフォーマットの異なる信号が入力されている場合は、素材名の前に“！”マークを表示します。
- カメラ制御が可能な信号が入力されている場合は、素材名の前に“c”マークを表示します。
- 入力信号がフリーズされている場合は、素材名の前に“F”マークを表示します。
- “！”マークが表示されているときは、“c”マークは表示されません。
- “F”マークが表示されているときは、“！”マークと“c”マークは表示されません。

Off : 文字を表示しません。また、文字背景も表示しません。

- ⑤ [F4] を回して Label 項目で、文字背景（ハーフトーン）の表示を設定します。

On : 文字背景を表示します。

Off : 文字背景を表示しません。

4. 入出力信号の設定

4-8-3. タリー表示の設定

マルチビューディスプレイの分割枠に重ねるタリー表示の設定を行います。

レッドタリーは、プログラム出力を構成している素材を表示します。

グリーントアリーは、プリセットバスで選択されている素材を表示します。

MV1Frame、または MV2Frame サブメニューより [F5] を回して、Tally 項目でタリー表示の設定を行います。

<メニュー表示>

MV	2	Frame	Char	Label	Tally
MV1Frame	LUM75%	LUM75%		On	Red+GRN
	LUM 0%	LUM 0%		Off	Red
	LUM25%	LUM25%			Off
	LUM50%	LUM50%			
	LUM100%	LUM100%			
	Off	Off			

MV	4	Frame	Char	Label	Tally
MV2Frame	LUM75%	LUM75%		On	Red+GRN
	LUM 0%	LUM 0%		Off	Red
	LUM25%	LUM25%			Off
	LUM50%	LUM50%			
	LUM100%	LUM100%			
	Off	Off			

Red+GRN : レッドタリーとグリーントアリーの両方を表示します。

Red : レッドタリーのみを表示します。

Off : タリー表示を行いません。

- FTB の動作で、プログラム映像が完全に黒画面にフェードアウトした状態では、レッドタリーが表示されません。このときプログラム映像を構成している映像には、グリーントアリーを表示します。
- 背面のタリー出力端子からは、レッドタリーとグリーントアリーの信号が出力されます。
⇒ 「5-8-3. GPI の設定」参照

4. 入出力信号の設定

4-8-4. 素材名の変更

マルチビューディスプレイに設定する、INPUT1～INPUT16、INPUTA1、INPUTA2、INPUTB1、INPUTB2の素材名を変更します。

素材名は、デフォルト設定、プリセット設定、ユーザー設定から選択することができます。

プリセット設定とユーザー設定時は、素材名（CAM1など）を表示します。

- ① [INPUT] ボタンを押して点灯させ、INPUT メニューを表示します。

⇒「2-1-5. LCD メニュー部」参照

- ② [F1] を回して INPUT XX サブメニューを表示します。

(X: IN1～IN16、A1、A2、B1、B2)

Xは、素材名を変更する信号を選択します。

- ③ [F2] を回して、Name サブメニューを表示します。

- ④ [F3] を回して Type 項目で素材名の種類を選択し、[F3] スイッチを押して確定します。

現在選択されている素材名の種類の左側に「*」が表示されます。

Default : デフォルトの設定 INPUT1～INPUT16、INPUTA1、INPUTA2、INPUTB1、INPUTB2 を選びます。

Preset : あらかじめ用意されている素材名と番号を選びます。

User : 7文字で素材名を設定します。

Preset または User を選択しているときに Type 項目を変更すると、以前に付与されていた素材名は失われます。

<メニュー表示>

INPUT XX	Name	Type↓		
	3/16	*Default		
		Preset		
		User		

Preset タイプの設定方法

- ① Name サブメニューより、[F3] を回して Type 項目で“Preset”を選択します。
- ② [F4] を回して Name 項目で、素材名を選択します。
- ③ [F5] を回して NO. 項目で番号を選択し、[F5] スイッチを押して確定します。

<メニュー表示>

INPUT XX	Name	Type↓	Name	NO.(*)↓
	3/16	*Preset	CAM*	1
			C*	1~9
			CG*	
			CGV*	
			CGK*	
			PC*	
			V*	
			VTR*	
			VCR*	

User タイプの設定方法

- ① Name サブメニューより、[F3] を回して Type 項目で“User”を選択します。
- ② [F4] を回して Name 項目で、変更する文字の位置にカーソル“■”を移動します。
- ③ [F5] を回して文字を選択し、[F5] スイッチを押して確定します。
- ④ 上記②と③を繰り返して素材名を設定します。

<メニュー表示>

INPUT XX	Name	Type↓	Name	(■)↓
	3/16	*User	■AM8	C

4. 入出力信号の設定

4-8-5. ハイレゾリューションマルチビューモード

システムモードが SD の場合、DVI-D 出力に高解像度で出力することができます。

このとき OUT5 に MV1、OUT6 に MV2 が設定されます。

他の出力に MV1、MV2 を設定することはできません。

- システムモードが SD モードのときに設定が可能です。

① [SYSTEM] ボタンを押して点灯させ、SYSTEM メニューを表示します。

⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照

② [F1] を回して、Format サブメニューを表示します。

<メニュー表示>

SYS 1	Mode↓	HiRes↓	16:9SQ
Format	*1080/59.94i	* Off	Off
	1080/50i	On	On
	1080/24psf		
	1080/23.98psf		
	720/59.94p		
	720/50p		
	480/59.94i		
	576/50i		

③ [F4] を回して、HiRes 項目で On/Off を設定し、[F4] スイッチを押します。

4. 入出力信号の設定

4-9. OSD（オンスクリーンディスプレイ）の設定

メニュー画面をプレビュー出力、または、マルチビューディスプレイ 1、2 出力に重ねて表示します。

- ① [CONFIG] ボタンを押して点灯させ、CONFIG メニューを表示します。
⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照

<メニュー表示>

CONFIG10	OSD	Select		
OSD	On	PVW		
	Off	MV1		
		MV2		
		MV1+MV2		

- ② [F1] を回して OSD サブメニューを表示します。
- ③ [F2] を回して OSD 項目で、OSD を表示するかしないかを設定します。

On : OSD を表示します。
Off : OSD を表示しません。

この機能をユーザーボタンにアサインすることができます。 ⇒ 「5-4-1. ユーザーボタンの設定」 参照

- ④ [F3] を回して Select 項目で出力先を設定します。

PVW : プレビュー出力にメニュー画面を重ねて出力します。
MV1 : マルチビューディスプレイ出力 1 にメニュー画面を重ねて出力します。
MV2 : マルチビューディスプレイ出力 2 にメニュー画面を重ねて出力します。
MV1+MV2 : マルチビューディスプレイ出力 1 と 2 の両方にメニュー画面を重ねて出力します。

- OSD 項目が On に設定されているときは、マルチビューディスプレイの分割枠はモニターに表示されません。

■ OSD の表示例

選択されているメニューの左に “>” を表示します。

バックグラウンドトランジションのワイブパターンを表示します。

キートランジションのワイブパターンを表示します。

[KEY]	1 Type	LumKey	Fill	PVW
>	KEY	Chroma	Matte	Off
	Adjust	ChrmOff	Density	Invert
		Gain	100.0	Off
	2 Clip	0.0	100.0	Off
	3 Hue	Sat	Lum	Load!
	FillMatt	0.0	0.0	White
	4 Type	Width	Direc	
	Edge	Border	4	-
	5 Hue	Sat	Lum	Load!
	EdgeCol	0.0	100.0	White

4. 入出力信号の設定

4-10. アンシラリデータ、エンベデッドオーディオデータの設定

SDI 入力信号の V アンシラリデータ、およびエンベデッドオーディオデータを通過させる機能を設定します。

HD フォーマットの場合：

9 ライン以降のアンシラリデータを通過させます。

SD フォーマットの場合：

12 ライン以降のアンシラリデータを通過させます。

- 本機のビデオフォーマットが 1080/59.94i、720/59.94p、1080/50i、または 720/50p に設定されているときに、SD フォーマットの信号（480/59.94i、または 576/50i）を DbyD モードや UC モードで入力しても、アンシラリデータ、およびエンベデッドオーディオデータを通過させることができません。

⇒「4-1-2. 入力モードの設定」参照

① [SYSTEM] ボタンを押して点灯させ、SYSTEM メニューを表示します。

⇒「2-1-5. LCD メニュー部」参照

② [F1] を回して Ancil サブメニューを表示します。

<メニュー表示>

SYS	5	PGM	PVW	MV	AUX
Ancil		Off	Off	Off	Off
		On	On	PGM PVW	On

プログラム出力信号に対する設定

③ [F2] を回して、PGM 項目で On/Off を選択します。

On： PGM バスで選択された SDI 入力素材のアンシラリデータ、およびエンベデッドオーディオデータを通過させます。

Off： 通過させません。

プレビュー出力信号に対する設定

④ [F3] を回して、PVW 項目で On/Off を選択します。

On： PST バスで選択された SDI 入力素材のアンシラリデータ、およびエンベデッドオーディオデータを通過させます。

Off： 通過させません。

4. 入出力信号の設定

マルチビューディスプレイの出力信号に対する設定

⑤ [F4] を回して、MV 項目で PGM/PVW/Off を選択します。

PGM： PGM バスで選択された SDI 入力素材のアンシラリデータ、およびエンベデッドオーディオデータを通過させます。

PVW： PST バスで選択された SDI 入力素材のアンシラリデータ、およびエンベデッドオーディオデータを通過させます。

Off： 通過させません。

AUX (1 ~ 4) 出力信号に対する設定

⑥ [F5] を回して、AUX 項目で On/Off を選択します。

On： AUX バス (AUX1 ~ AUX4) で選択された SDI 入力素材のアンシラリデータ、およびエンベデッドオーディオデータを通過させます。

Off： 通過させません。

5. システムの設定

5-1. ビデオフォーマットの設定

システム（入出力信号）のビデオフォーマットを1つ選択します。

① [SYSTEM] ボタンを押して点灯させ、SYSTEM メニューを表示します。

⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照

② [F1] を回して Format サブメニューを表示します。

<メニュー表示>

SYS	1	Mode↓	HiRes↓	16:9SQ
Format		*1080/59.94i	* Off	Off

1080/50i	On	On
1080/24psf		
1080/23.98psf		
720/59.94p		
720/50p		
480/59.94i		
576/50i		

③ [F2] を回して Mode 項目で、フォーマットを選択し、[F2] スイッチを押して選択内容を確定します。
現在選択されているフォーマットの左側に「*」が表示されます。

16：9 スキーズモードの設定

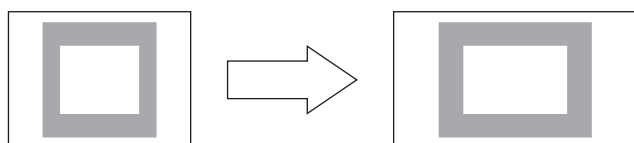
16：9 スキーズモードを選択すると、SD フォーマットの映像を、16：9 のアスペクトに変換して使用する場合を考慮したボーダー幅（ワイプ、PinP）になります。
システムフォーマットがSD のときに設定が可能です。

Format サブメニューより [F5] を回して、16:9SQ 項目でスキーズモードの対応を選択します。

On：スキーズモードに対応します。

Off：スキーズモードに対応しません。

スキーズモード対応時のボーダー幅（イメージ）



スキーズ（4：3）

16：9

5. システムの設定

5-2. 2D モードと 3D モードの切り替え

2D モードと 3D モードの切り替えを行います。

- 3D SDI 出力ボード（オプション：AV-HS04M7D）が取り付けられていないときは、3D モードを選択することができません。
- 3D モード選択時の操作のしかたについては、AV-HS04M7D の取扱説明書を参照してください。
- 2D モードと 3D モードのセットアップデータに互換性はありません。
- 2D モードと 3D モードの切り替えを行うと、本機に保存された設定が全て初期化されます。あらかじめ、SD メモリーカードにセットアップデータを保存してください。
⇒ 「3-12-2. SD メモリーカードへの保存」参照

① [SYSTEM] ボタンを押して点灯させ、SYSTEM メニューを表示します。

⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」参照

② [F1] を回して 3DFormat サブメニューを表示します。

<メニュー表示>

SYS	2	Mode↓			
3DFormat	*	2D			
		3D			

③ [F2] を回して Mode 項目で、映像のモード（2D または 3D）を選択して [F2] スイッチを押します。

④ 本機（コントロールパネルとメインフレームの両方）の電源を切った後、再度電源を入れてください。

5. システムの設定

5-3. クロスポイントの設定

5-3-1. クロスポイントのアサイン

クロスポイントボタン 1～32 には、外部映像入力信号および、内部発生信号をアサインすることができます。

アサイン状態の表示

- ① [XPT] ボタンを押して点灯させ、XPT メニューを表示します。
⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照
- ② [F1] を回して Stats1 ～ 4 のサブメニューを表示します。
アサイン状態が表示されます。アサインされている信号名は省略名で表示されます。

<メニュー表示>

XPT	1	XPT :	1	2	3	4	5	6	7	8
Stats1		SIG :	BK	1	2	3	4	5	6	7

クロスポイントボタン 1～32 を長押しすると、押ししている間、アサイン状態が LCD に表示されます。
例：クロスポイント 1 ボタンを押した場合（INPUT1 信号がアサインされている場合）

XPT	1	XPT :	1
Stats1		SIG :	IN1

ただし、クロスポイント 16 ボタンに SHIFT 機能がアサインされているときは、XPT16 には SHIFT が表示されます。

クロスポイントのアサイン

- ① [XPT] ボタンを押して点灯させ、XPT メニューを表示します。
⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照
- ② [F1] を回して XPTAssign サブメニューを表示します。
- ③ [F2] を回して、XPT 項目でクロスポイントボタンの番号を選択し、[F3] を回して、Signal 項目で入力信号を選択します。
現在クロスポイントボタンで選択されている信号のアサインを変更すると、変更に合わせてクロスポイントボタンの点灯位置が変わります。このとき出力されている映像は変わりません。

<メニュー表示>

XPT	XPT	Signal	Shift	Sf-Lock
XPTAssign	-	-	Right	Off
1~32	IN1~16		Off	On
	IN-A1		Left	
	IN-A2			
	IN-B1			
	IN-B2			
	Black			
	CBGD			
	CBAR			
	FMEM1~4			
	PGM			
	PVW			
	KeyOut			
	CLN			
	MV1,MV2			
	NoAssign			

5. システムの設定

アサインされる素材は下記のようになります。

ボタン	信号名	説明
XPT1 ~ 32	IN1 ~ IN16	SDI入力1 ~ 16
	IN-A1、IN-A2、 IN-B1、IN-B2	オプションスロット (SDI、アナログコンポーネント、アナログコンポジット、DVI)
	Black	内部発生信号 (黒信号)
	CBGD	内部発生信号 (カラーバックグラウンド)
	CBAR	内部発生信号 (カラーバー)
	FMEM1 ~ FMEM4	フレームメモリーの画像
	CLN	CLN (AUXのみ)
	PVW	PVW (AUXのみ)
	PGM	PGM (AUXのみ)
	KeyOut	KeyOut (AUXのみ)
	MV1	MV1 (AUXのみ)
	MV2	MV2 (AUXのみ)
	NoAsign	アサイン無し

- 「NoAsign」がアサインされているボタンを押しても、映像は切り替わりません。
- マルチビューディスプレイの出力 (MV1 または MV2) に AUX2 ~ AUX4 の出力信号がアサインされているときに、AUXバス (AUX2、AUX3、AUX4) の出力信号としてマルチビューディスプレイの出力 (MV1 または MV2) を選択すると、マルチビューディスプレイの子画面に表示される AUXバスの映像は黒の映像になります。

デフォルトは下記の設定になります。

ボタン	信号名	ボタン	信号名	ボタン	信号名	ボタン	信号名
XPT1	BLACK	XPT9	IN8	XPT17	IN15	XPT25	—
XPT2	IN1	XPT10	IN9	XPT18	IN16	XPT26	PGM
XPT3	IN2	XPT11	IN10	XPT19	IN-A1	XPT27	PVW
XPT4	IN3	XPT12	IN11	XPT20	IN-A2	XPT28	KeyOut
XPT5	IN4	XPT13	IN12	XPT21	IN-B1	XPT29	CLN
XPT6	IN5	XPT14	IN13	XPT22	IN-B2	XPT30	MV1
XPT7	IN6	XPT15	IN14	XPT23	—	XPT31	MV2
XPT8	IN7	XPT16	Shift	XPT24	—	XPT32	Shift

5. システムの設定

5-3-2. クロスポイント切り替えの設定

クロスポイント切り替えのタイミングを設定します。

- ① [XPT] ボタンを押して点灯させ、XPT メニューを表示します。

⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照

- ② [F1] を回して XPT Swch サブメニューを表示します。

<メニュー表示>

XPT	6	Timing			
XPT Swch		Any			

Field1
Field2

- ③ [F2] を回して Timing 項目で、切り替えタイミングを選択します。

Any : 最寄りのフィールドで切り替えます。ライブ用途向きです。

Field1 : フィールド 1 で切り替えます。編集用途向きです。

Field2 : フィールド 2 で切り替えます。編集用途向きです。

5. システムの設定

5-4. ボタンアサイン

5-4-1. ユーザーボタンの設定

メニュー項目で設定できないいくつかの機能を、6つのユーザーボタン（USER1～6）にアサインすることができます。

各ユーザーボタンは、アサインされた機能が ON の状態のときはアンバー色に点灯し、OFF の状態のときは消灯します。ユーザーボタンを押すごとに機能の ON/OFF が切り替わります。

ユーザーボタン（USER1～6）にアサインされる機能は下記のとおりです。

No.	名称	機能
1	PinPPVW	PinP1、2 をプレビューに出力します
2	DSK1PVW	DSK1 をプレビューに出力します
3	DSK2PVW	DSK2 をプレビューに出力します
4	Edit-EN	編集機の制御 ON/OFF
5	COM-EN	COM 端子を使用した外部制御 ON/OFF
6	GPIM-In-EN	GPI-In の有効/無効（メインフレーム側）
7	GPIM-Out-EN	GPI-Out の有効/無効（メインフレーム側）
8	GIPI-In-EN	GPI-In の有効/無効（コントロールパネル側）
9	GIPI-Out-EN	GPI- Out の有効/無効（コントロールパネル側）
10	OSD	オンスクリーンディスプレイの表示/非表示
11	StrFM1	フレームメモリー（FMEM1）へ FMEM メニューで設定された AUX1～4 バスの映像を取り込む
12	StrFM2	フレームメモリー（FMEM2）へ FMEM メニューで設定された AUX1～4 バスの映像を取り込む
13	StrFM3	フレームメモリー（FMEM3）へ FMEM メニューで設定された AUX1～4 バスの映像を取り込む
14	StrFM4	フレームメモリー（FMEM4）へ FMEM メニューで設定された AUX1～4 バスの映像を取り込む
15	SHIFT	A/B バスと AUX バスのクロスポイントを一括で表/裏を切り替えます。
16	AUX TRAN	AUX トランジションの有効/無効
17	NoAsign	アサイン無し

5. システムの設定

< 設定方法 >

① [CONFIG] ボタンを押して点灯させ、CONFIG メニューを表示します。

⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照

② [F1] を回して Button1 サブメニューと Button2 サブメニューを表示します。

< メニュー表示 >

CONFIG 8	USER1	USER2	USER3		CONFIG 9	USER4	USER5	USER6	
Button1	PinPPVW	DSK1PVW	DSK2PVW		Button2	NoAssign	NoAssign	NoAssign	
	DSK1PVW	PinPPVW	PinPPVW			PinPPVW	PinPPVW	PinPPVW	
	DSK2PVW	DSK2PVW	DSK1PVW			DSK1PVW	DSK1PVW	DSK1PVW	
	Edit-EN	Edit-EN	Edit-EN			DSK2PVW	DSK2PVW	DSK2PVW	
	COM-EN	COM-EN	COM-EN			Edit-EN	Edit-EN	Edit-EN	
	GPIMIEN	GPIMIEN	GPIMIEN			COM-EN	COM-EN	COM-EN	
	GPIMOEN	GPIMOEN	GPIMOEN			GPIMIEN	GPIMIEN	GPIMIEN	
	GPIPIEN	GPIPIEN	GPIPIEN			GPIMOEN	GPIMOEN	GPIMOEN	
	GPIPOEN	GPIPOEN	GPIPOEN			GPIPIEN	GPIPIEN	GPIPIEN	
	OSD	OSD	OSD			GPIPOEN	GPIPOEN	GPIPOEN	
	StrFM1	StrFM1	StrFM1			OSD	OSD	OSD	
	StrFM2	StrFM2	StrFM2			StrFM1	StrFM1	StrFM1	
	StrFM3	StrFM3	StrFM3			StrFM2	StrFM2	StrFM2	
	StrFM4	StrFM4	StrFM4			StrFM3	StrFM3	StrFM3	
	SHIFT	SHIFT	SHIFT			StrFM4	StrFM4	StrFM4	
	AUXTRAN	AUXTRAN	AUXTRAN			SHIFT	SHIFT	SHIFT	
	NoAssign	NoAssign	NoAssign			AUXTRAN	AUXTRAN	AUXTRAN	

● Button1 サブメニュー

③ [F2] を回して USER1 項目で、USER 1 ボタンにアサインする機能を選択します。

④ [F3] を回して USER2 項目で、USER 2 ボタンにアサインする機能を選択します。

⑤ [F4] を回して USER3 項目で、USER 3 ボタンにアサインする機能を選択します。

● Button2 サブメニュー

⑥ [F2] を回して USER4 項目で、USER 4 ボタンにアサインする機能を選択します。

⑦ [F3] を回して USER5 項目で、USER 5 ボタンにアサインする機能を選択します。

⑧ [F4] を回して USER6 項目で、USER 6 ボタンにアサインする機能を選択します。

5. システムの設定

5-5. 日付と時刻の設定

SD メモリーカードのタイムスタンプに使用する日付と時刻を設定します。
SD メモリーカードを使用する際は、必ず設定をしてください。

日付を設定する

- ① [SYSTEM] ボタンを押して点灯させ、SYSTEM メニューを表示します。
⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照
- ② [F1] を回して Date サブメニューを表示します。
- ③ [F2] を回して、Year 項目で年を設定します。
- ④ [F3] を回して、Month 項目で月を設定します。
- ⑤ [F4] を回して、Date 項目で日を設定します。
- ⑥ [F5] スイッチを押して、年・月・日を確定します。

<メニュー表示>

SYS	11	Year	Month	Date	Set↓
Date		-	-	-	-
	2000	1~12	1~31		
	↓				
	2099				

時刻を設定する

- ① [SYSTEM] ボタンを押して点灯させ、SYSTEM メニューを表示します。
⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照
- ② [F1] を回して Time サブメニューを表示します。
- ③ [F2] を回して、Hour 項目で時を設定します。
- ④ [F3] を回して、Minute 項目で分を設定します。
- ⑤ [F4] を回して、Second 項目で秒を設定します。
- ⑥ [F5] スイッチを押して、時・分・秒を確定させます。

<メニュー表示>

SYS	12	Hour	Minute	Second	Set↓
Time		-	-	-	-
	0~23	0~59	0~59		

5. システムの設定

5-6. ネットワークの設定

LAN 経由でソフトウェアバージョンアップなどを行うためのネットワークの設定を行います。

初期設定は、IP アドレス：192.168.0.10、サブネットマスク：255.255.255.0 です。

ホストコンピューター側の設定を初期設定に合わせてご使用になる場合は、メニューでの設定は必要ありません。

設定を有効にするためには、システムの再起動が必要です。いったん電源を OFF にして、再度電源を ON してください。

IP アドレスの設定

① [SYSTEM] ボタンを押して点灯させ、SYSTEM メニューを表示します。

⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照

② [F1] を回して NetWork1 サブメニューを表示します。

③ [F2] ~ [F5] を回して IP アドレスを設定し、[F5] スイッチ (Save) を押して確定します。

<メニュー表示>

SYS	8	IP Address		Save↓
NetWork1		192	168	0
		0~255	0~255	0~255

サブネットマスクの設定

① SYSTEM メニューから、[F1] を回して NetWork2 サブメニューを表示します。

② [F2] ~ [F5] を回してサブネットマスクを設定し、[F5] スイッチ (Save) を押して確定します。

<メニュー表示>

SYS	9	Subnet Mask		Save↓
NetWork2		255	255	255
		0~255	0~255	0~255

MAC アドレスを表示する

① SYSTEM メニューから、[F1] を回して NetWork3 サブメニューを表示します。

MAC アドレスが表示されます。

<メニュー表示> (MAC アドレスが "008045448000" の場合)

SYS	10	MAC Address	
NetWork3		008045448000	

5. システムの設定

5-7. その他の設定

LCDのバックライトの設定

LCDのバックライトのON/OFFを設定します。

また、設定した時間内にコントロールパネルの操作が行われないと、自動的にLCDのバックライトを消灯させることもできます。

① [CONFIG] ボタンを押して点灯させ、CONFIGメニューを表示します。

⇒ 「2-1-5. LCDメニュー部」参照

② [F1] を回して Operate サブメニューを表示します。

<メニュー表示>

CONFIG 1	BusMode	LCD-BL	MENU DLG
Operate	PGM/PST	On	On
A/B	Off	Off	
	60		
	120		
	180		

③ [F3] を回して LCD-BL 項目で、バックライトの設定を行います。

On : 常にバックライトを点灯します。

Off : 常にバックライトを消灯します。

60、120、180 :

設定した時間内（60分、120分、180分）にコントロールパネルの操作が行われないと、自動的にLCDのバックライトを消灯します。

時間が経過してバックライトが消灯しても、コントロールパネルの操作を行うとバックライトが点灯します。

メニューデリゲーションの設定

メニューデリゲーション機能の有効/無効を設定します。

④ [F4] を回して、MENU DLG 項目でメニューデリゲーション機能の有効/無効を設定します。

On : 有効、**Off** : 無効

5. システムの設定

5-8. 外部機器制御

5-8-1. 外部機器制御有効／無効の設定

RS-422 端子 (EDITOR、COM) に接続した外部機器 (編集機、回転台、コントローラー) の制御を設定します。

① [CTL] ボタンを押して点灯させ、CTL メニューを表示します。

⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照

② [F1] を回して RS422 サブメニューを表示します。

<メニュー表示>

CTL	1	Edit-EN	COM-EN		
RS422		Enable	Enable		
		Disable	Disable		

③ [F2] を回して Edit-EN 項目で、EDITOR 端子に接続した外部機器 (編集機) から本機の制御を行う設定をします。

Enable : 制御を有効にします。

Disable : 制御を無効にします。

④ [F3] を回して COM-EN 項目で、COM 端子に接続した外部機器 (回転台、コントローラー) の制御を本機で行う設定をします。

Enable : 制御を有効にします。

Disable : 制御を無効にします。

● Edit-EN 項目と COM-EN 項目の設定は、ユーザーボタンにアサインすることができます。

⇒ 「5-4-1. ユーザーボタンの設定」 参照

5. システムの設定

5-8-2. 編集機制御

エディティングコントローラー AG-A850 から制御できる機能は下記の通りです。(GVG プロトコル準拠)

- ・リードコマンド
- ・クロスポイントの切り替え
- ・ワイプパターンの選択 (BKGD)
- ・トランジションモード (MIX/WIPE) の選択
- ・オートトランジション時間の設定
- ・オートトランジションの実行

<ワイプパターン対応一覧>

GVG プロトコル	AV-HS450N	GVG プロトコル	AV-HS450N	GVG プロトコル	AV-HS450N	GVG プロトコル	AV-HS450N
1	WIPE の 1 番	22	SQ1 の 10 番	43	3D1 の 7 番	64	SL2 の 4 番
2	WIPE の 2 番	23	—	44	3D1 の 8 番	65	—
3	WIPE の 3 番	24	SQ1 の 12 番	45	3D1 の 9 番	66	SL2 の 6 番
4	WIPE の 4 番	25	SL1 の 1 番	46	3D1 の 10 番	67	—
5	WIPE の 5 番	26	SL1 の 2 番	47	3D1 の 11 番	68	SL2 の 8 番
6	WIPE の 6 番	27	SL1 の 3 番	48	3D1 の 12 番	69	—
7	WIPE の 7 番	28	SL1 の 4 番	49	—	70	—
8	WIPE の 8 番	29	SL1 の 5 番	50	SQ2 の 2 番	71	—
9	WIPE の 9 番	30	SL1 の 6 番	51	—	72	—
10	WIPE の 10 番	31	SL1 の 7 番	52	SQ2 の 4 番	73	—
11	WIPE の 11 番	32	SL1 の 8 番	53	—	74	3D2 の 2 番
12	WIPE の 12 番	33	SL1 の 9 番	54	SQ2 の 6 番	75	—
13	SQ1 の 1 番	34	—	55	—	76	3D2 の 4 番
14	SQ1 の 2 番	35	—	56	SQ2 の 8 番	77	—
15	SQ1 の 3 番	36	—	57	—	78	3D2 の 6 番
16	SQ1 の 4 番	37	3D1 の 1 番	58	—	79	—
17	SQ1 の 5 番	38	3D1 の 2 番	59	—	80	3D2 の 8 番
18	SQ1 の 6 番	39	3D1 の 3 番	60	—	81	—
19	SQ1 の 7 番	40	3D1 の 4 番	61	—	82	—
20	SQ1 の 8 番	41	3D1 の 5 番	62	SL2 の 2 番	83	—
21	SQ1 の 9 番	42	3D1 の 6 番	63	—	84	—

CTL メニュー /RS422 サブメニューより、EDITOR 端子に接続した外部機器（編集機）からの制御の有効／無効を設定します。

設定の方法は、「5-8-1. 外部機器制御有効／無効の設定」を参照してください。

5. システムの設定

5-8-3. GPI の設定

GPI ポートから制御を行う機能と、制御を有効にするかどうかの設定をします。

⇒ 「6-2-4. TALLY/GPI」と「6-3-1. TALLY/GPI」を参照

① [CONFIG] ボタンを押して点灯させ、CONFIG メニューを表示します。

⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」参照

② [F1] を回して、各 TALLY/GPI 端子に対応しているサブメニューを表示し、GPI ポートで制御する機能を設定します。

メインフレームの TALLY/GPI 端子：

GPIM-In サブメニューと GPIM-Out サブメニュー

<メニュー表示>

CONFIG 4	Port	Assign		GPIEN
GPIM-In	-	NoAssign		Enable
	1~8			Disable

CONFIG 5	Port	Assign		GPIEN
GPIM-Out	-	NoAssign		Enable
	1~31			Disable

コントロールパネルの TALLY/GPI 端子：

GPIP-In サブメニューと GPIP-Out サブメニュー

<メニュー表示>

CONFIG 6	Port	Assign		GPIEN
GPIP-In	-	NoAssign		Enable
	1~8			Disable

CONFIG 7	Port	Assign		GPIEN
GPIP-Out	-	NoAssign		Enable
	1~8			Disable

③ [F2] を回して Port 項目で、制御するポートを選択します。

④ [F3] を回して Assign 項目で、アサインする機能を選択します。

⇒ 「GPI Input ポートでの制御」と「GPI Output ポートからの出力」を参照

⑤ [F5] を回して GPIEN 項目で、各ポートから行う制御の有効／無効を設定します。

Enable：制御を有効にします。

Disable：制御を無効にします。

● GPIEN 項目の設定は、ユーザーボタンにアサインすることができます。

⇒ 「5-4-1. ユーザーボタンの設定」参照

5. システムの設定

■ GPI Input ポートでの制御

Assign 項目	アサインする機能	制御方法
AUTO	トランジション部の AUTO ボタン	接点入力で動作します。 (30 ms 以上)
CUT	トランジション部の CUT ボタン	
DSK1	トランジション部の DSK1 ボタン	
DSK2	トランジション部の DSK2 ボタン	
PinP1	トランジション部の PinP1 ボタン	
PinP2	トランジション部の PinP2 ボタン	
FTB	トランジション部の FTB ボタン	
BGDAUTO	バックグラウンドが選択されているときの AUTO ボタン	
BGDCUT	バックグラウンドが選択されているときの CUT ボタン	
KEYAUTO	キーが選択されているときの AUTO ボタン	
KEYCUT	キーが選択されているときの CUT ボタン	
RTlyDBL	レッドタリー信号を出力しない	接点入力で有効になります。 (オープン状態で無効)
GTlyDBL	グリーンタリー信号を出力しない	
NoAssign	アサインなし	

■ GPI Output ポートからの出力

Assign 項目	アサインする機能	出力
CUT	カットトランジションを行ったとき	Low パルスを出力します。 (約 50 ~ 60 ms)
KEYON	キーのトランジションの開始	
DSK1ON	DSK1 のトランジションの開始	
DSK2ON	DSK2 のトランジションの開始	
PinP1ON	PinP1 のトランジションの開始	
PinP2ON	PinP2 のトランジションの開始	
FTBON	FTB のトランジションの開始	
BGDCUT	バックグラウンドのカットトランジションを行ったとき	Low レベルを出力します。
KEYCUT	キーのカットトランジションを行ったとき	
AUTO	オートトランジションの実行中	
BGDAUTO	バックグラウンドのオートトランジションの実行中	
KEYAUTO	キーのオートトランジションの実行中	
KEYTRN	キーのトランジションの実行中	
DSK1TRN	DSK1 のトランジションの実行中	
DSK2TRN	DSK2 のトランジションの実行中	
PinP1TRN	PinP1 のトランジションの実行中	
PinP2TRN	PinP2 のトランジションの実行中	タリー出力時に Low レベルを出力 します。
FTBTRN	FTB のトランジションの実行中	
R-Tly1 ~ 20	INPUT1 ~ 20 のレッドタリー	
G-Tly1 ~ 20	INPUT1 ~ 20 のグリーンタリー	
NoAssign	アサインなし	

5. システムの設定

5-8-4. カメラの制御

本機からカメラや回転台の制御を行います。

COM 端子に接続したコントローラー (AW-RP655N、AW-RP555N) を経由して、最大 5 台のカメラを制御することが可能です。

また、回転台と直接接続して、カメラや回転台の制御をすることが可能です。

このようにカメラの制御をする場合は、プロトコルを「P/TCont」または、「P/TDir」に設定してください。ケーブルの接続は、必ず各機器の電源を切った状態で行ってください。

本機から制御できる機能

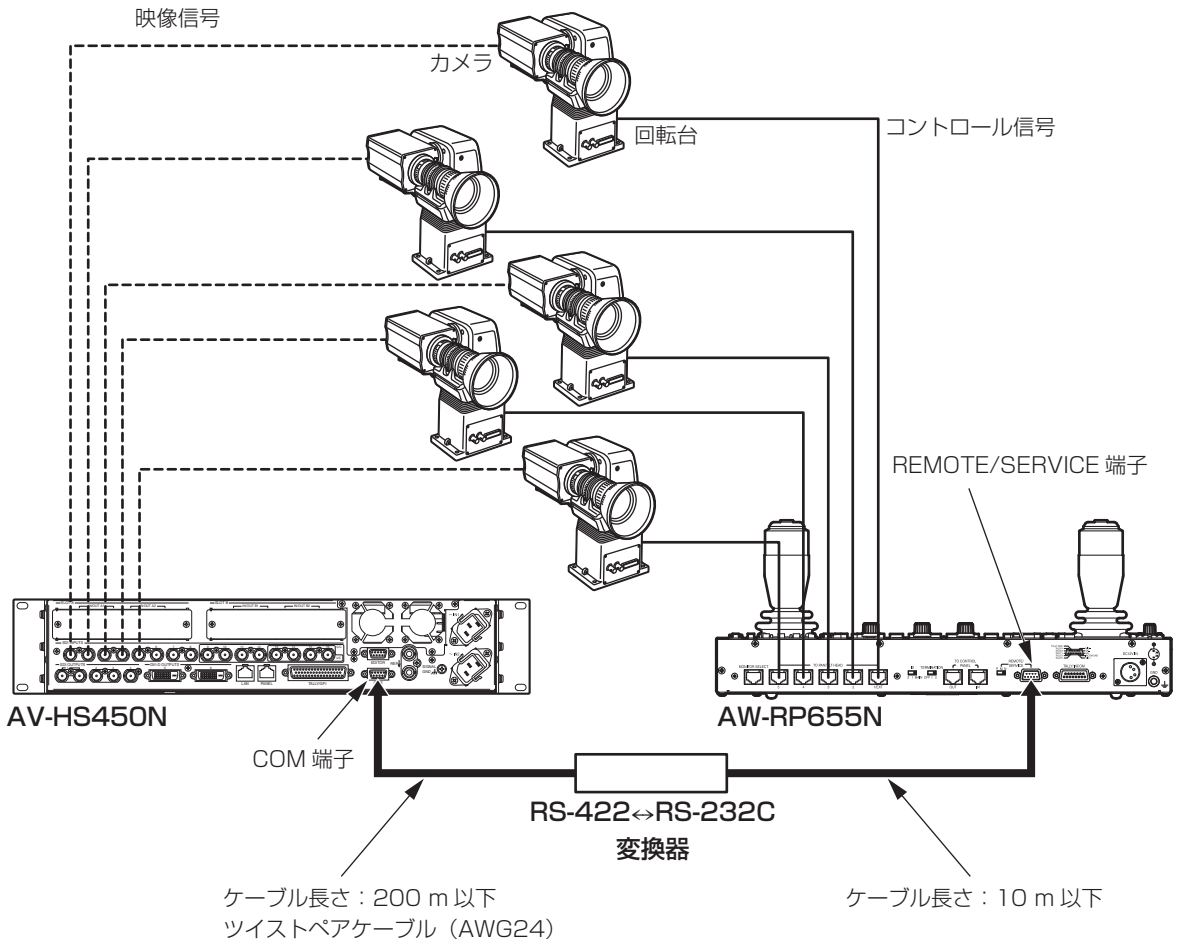
- クロスポイントボタン (PGM/A の 1 ~ 32、PST/B の 1 ~ 32) の選択に合わせて、制御するカメラを切り替えます。
- カメラや回転台のパンチルト動作、ズーム動作、フォーカス動作を制御します。
- カメラの設定メニューを操作します。
- 1 台の回転台と直接接続した場合、COM 端子からレッドタリーの信号と電源 On/Off を制御します。

5. システムの設定

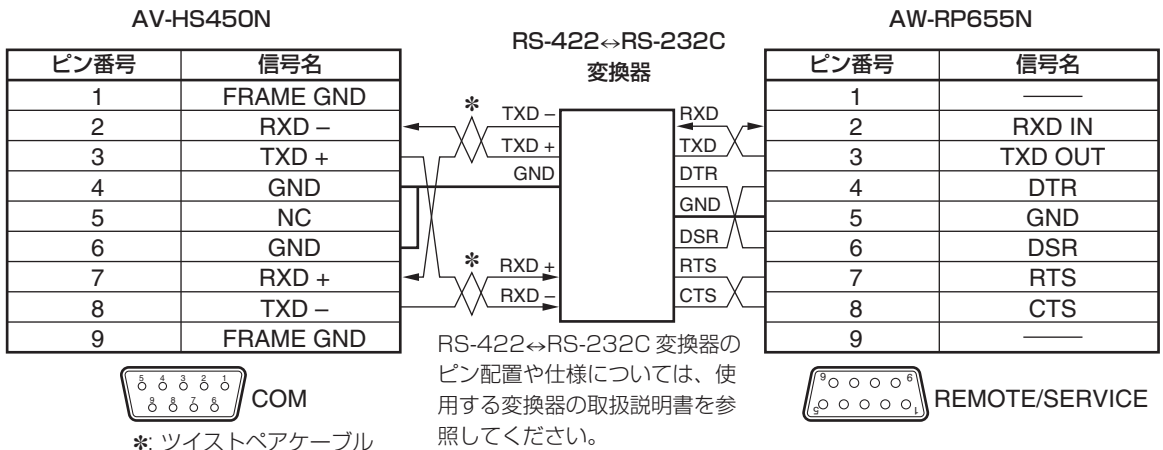
接続例（本機とコントローラーを接続する場合）

接続可能なコントローラー：AW-RP655N、AW-RP555N

コントローラーと回転台の接続、および回転台とカメラの接続は、各機器の取扱説明書を参照してください。



< 接続仕様 >

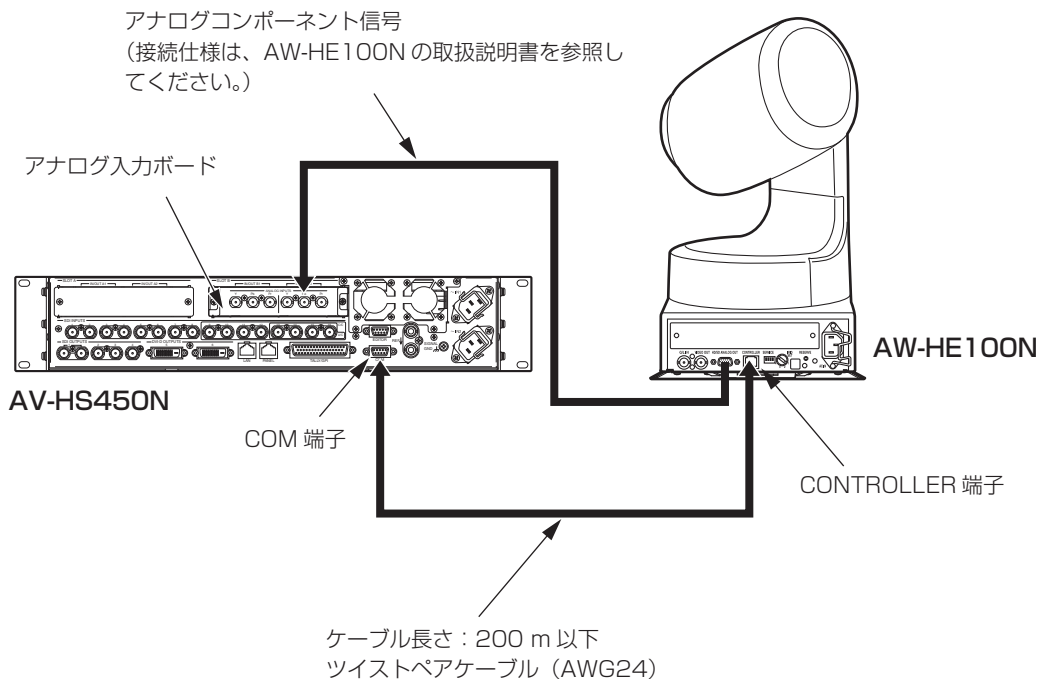


5. システムの設定

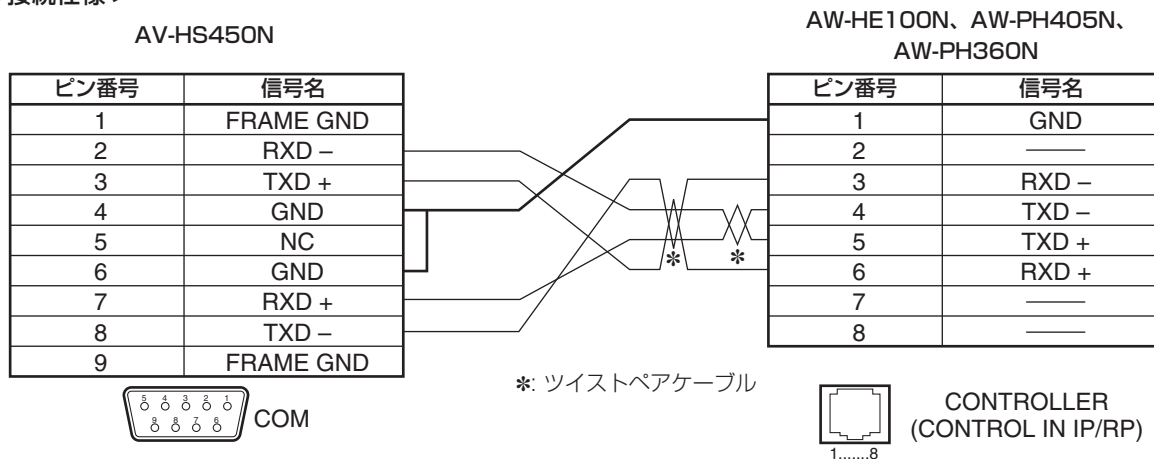
接続例（本機と回転台を接続する場合）

接続可能な回転台：AW-HE100N、AW-PH400、AW-PH405N、AW-PH360N

■ AW-HE100N、AW-PH405N、AW-PH360N の接続



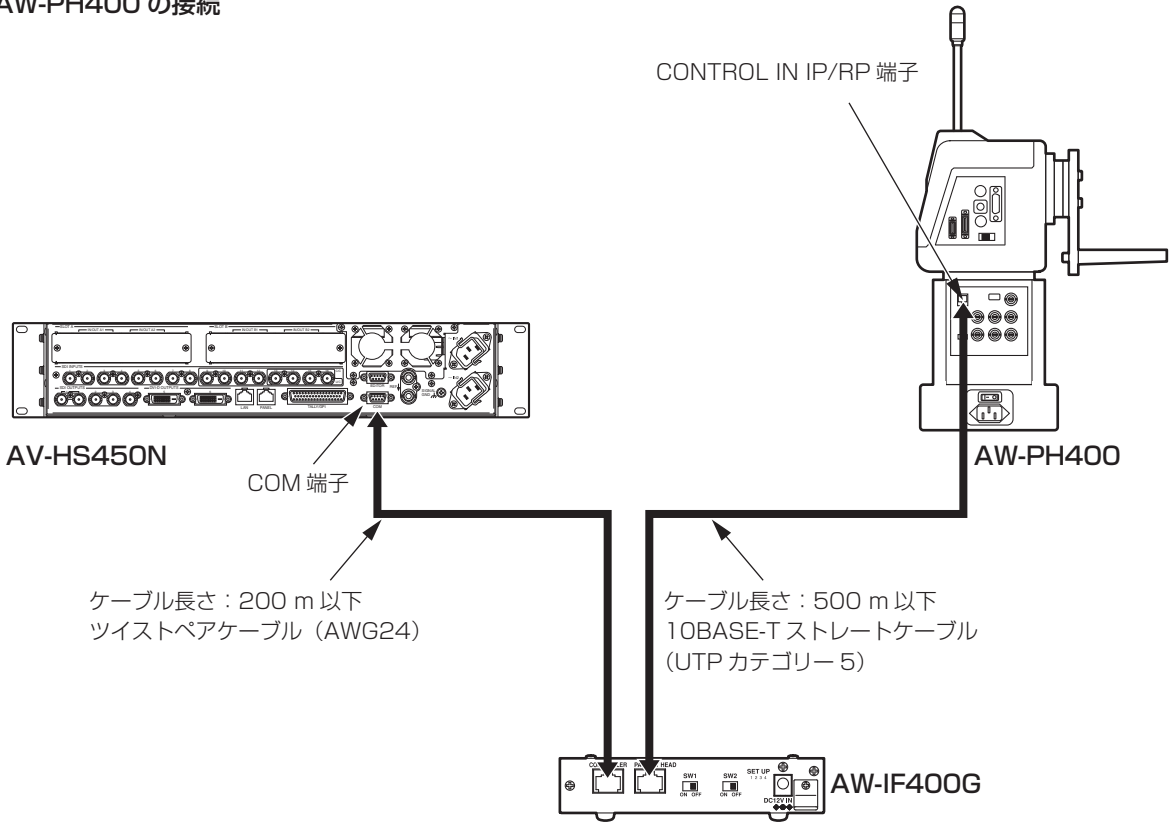
< 接続仕様 >



本機と AW-HE100N を接続する場合は、AW-HE100N の回転台設定メニュー (** Pan Tilt Head Setting **) で「Controller」項目を、コントローラーで制御を行うことができる設定にしてください。詳しくは、AW-HE100N の取扱説明書を参照してください。

5. システムの設定

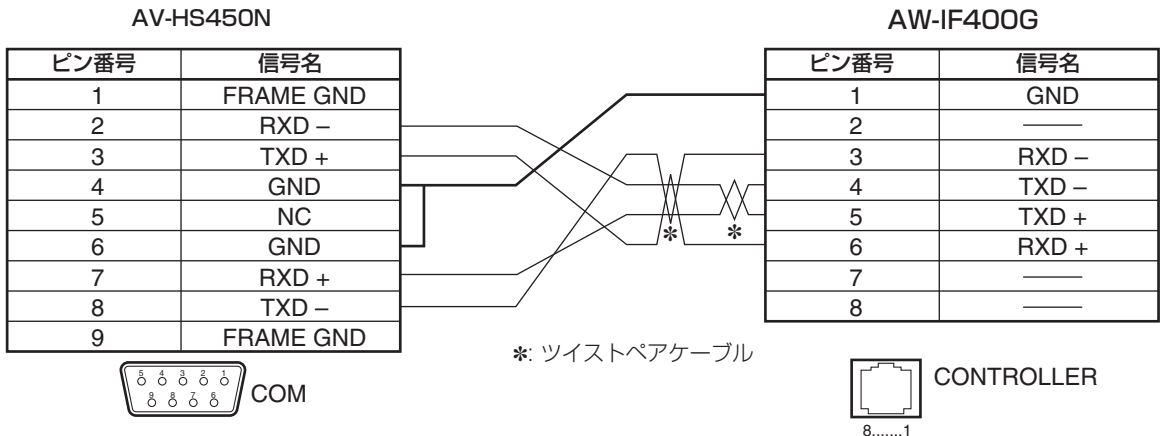
■ AW-PH400 の接続



スイッチ設定

SW1	SW2	SET UP				
		1	2	3	4	
OFF	OFF	ON	OFF	ON (300度)	OFF (190度)	OFF

< 接続仕様 >



5. システムの設定

カメラ制御の設定

COM 端子に接続したカメラ用のコントローラー (AW-RP555N、AW-RP655N)、または回転台用のコントローラーを経由して 5 台のカメラを制御することができます。

① [CAM] ボタンを押して点灯させ、CAM メニューを表示します。

⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照

② [F1] を回して CamCTL1 サブメニューを表示させます。

<メニュー表示>

CAM	1	CTL	Signal	Tally	Protocol
CamCTL1		1	None	Disable	P/TCont
	1~5	IN1~16	Enable	P/TDirt	
		IN-A1			
		IN-A2			
		IN-B1			
		IN-B2			

③ [F2] を回して CTL 項目で、入力信号に対応するコントロール信号 (カメラ用) を設定します。

クロスポイントボタン (PGM/A の 1 ~ 32、PST/B の 1 ~ 32) の選択に連動したカメラの切り替えと、タリー制御の関連付けを行います。

- カメラの制御が可能となった場合に、マルチビューディスプレイの表示では、制御の対象となるカメラの素材名の前に “c” マークが表示されます。
- Protocol 項目を 「P/TDirt」 に設定したときは、「1」のみ表示されます。

④ [F3] を回して Signal 項目で、入力信号を設定します。

⑤ [F4] を回して Tally 項目で、タリー制御の有効/無効を設定します。

Protocol 項目を 「P/TDirt」 に設定したときに、この設定ができます。

Enable : タリーの制御を有効にします。

COM 端子からレッドタリーの信号 On/Off を制御します。

Disable : タリーの制御を無効にします。

⑥ [F5] を回して、Protocol 項目で制御する機器を設定します。

P/TCont : カメラ用のコントローラーまたは、回転台用のコントローラーの制御を行います。

本機にコントローラーを接続して、複数のカメラや回転台を制御する場合に選択します。

P/TDirt : 本機に回転台を直接接続して、カメラや回転台の制御をする場合に選択します。

5. システムの設定

⑦ [F1] を回して CamCTL2 サブメニューを表示させます。

<メニュー表示>

CAM	2	CTL	PosCont	PTSpeed	Power↓
CamCTL2		1	PanTilt	Fast	On
	1~5	Zm/Focs	Middle		Off
			Slow		

⑧ [F2] を回して CTL 項目で、制御するカメラを設定します。

⑨ [F3] を回して PosCont 項目で、ポジショナーの操作で行う制御を選択します。

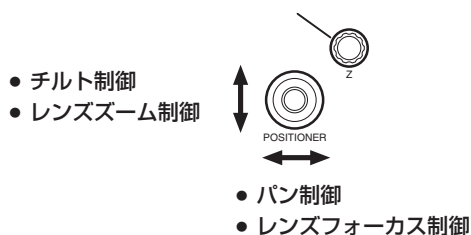
PanTilt : 左右 (X) 操作でパンの制御、上下 (Y) 操作でチルトの制御を行います。

Zm/Focs : 左右 (X) 操作でレンズフォーカスの制御、上下 (Y) 操作でレンズズームの制御を行います。

ロータリーエンコーダー [Z] を押すごとに、PanTilt と Zm/Focs の設定を切り替えることができます。

- レンズフォーカスの制御は、カメラのレンズフォーカスが手動に設定されているときに可能です。
- プロトコルを「P/TCont」、または「P/TDirt」に設定しているときは、クロスポイントボタン (PGM/A の 1 ~ 32、PST/B の 1 ~ 32) を長押しすると、CamCTL2 メニューへデリゲーションします。

PanTilt と Zm/Focs の切り替え



⑩ [F4] を回して PTSpeed 項目で、制御 (パン、チルト、レンズフォーカス、レンズズーム) の速度を設定します。

Fast : 最も速くします。

Middle : 中間の速さにします。

(レンズフォーカスとレンズズームの制御では、選択することができません。)

Slow : 最も遅くします。

⑪ 回転台の電源を On に制御する場合は、[F5] を回して On を選択し、[F5] スイッチを押します。

Off に制御する場合は、[F5] を回して Off を選択し、[F5] スイッチを押します。

回転台の電源を On にした後、必ず、この操作で On に制御してください。

CamCTL1 サブメニューの Protcol 項目を「P/TDirt」に設定したときにこの設定ができます。

- メニューの表示 (On、Off) は、カメラの状態を表しているものではありません。

5. システムの設定

カメラのメニュー操作

カメラのメニュー表示とメニューに表示されるカーソルの移動、変更内容の確定操作を本機から行うことができます。

① [CAM] ボタンを押して点灯させ、CAM メニューを表示します。

⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照

② [F1] を回して CamMenu サブメニューを表示させます。

<メニュー表示>

CAM	3	CTL	C-Menu↓	Item	Val/Y/N
CamMenu		1	-	-	-
		1~5	On	Cursor	Cursor
			Off		

③ [F2] を回して CTL 項目で、制御するカメラを設定します。

④ カメラのメニューを表示する場合は、[F3] を回して On を選択し、[F3] スイッチを押します。

表示しない場合は、[F3] を回して Off を選択し、[F3] スイッチを押します。

⑤ [F4] を回して、カメラのメニューに表示されるカーソルを移動させることができます。

右回転でカーソルが下に移動し、左回転で上に移動します。

⑥ [F5] を右に回すとカメラの設定画面に移動します。

設定画面での [F5] の動作

Yes/No の選択：

右に回して「Yes (決定)」、左に回して「No (未決定)」を選択します。

数値の変更：

右に回すと増加し、左に回すと減少します。

5. システムの設定

5-9. ステータス表示

5-9-1. アラーム状態の表示

本機の電源および、冷却ファンの異常状態（アラーム）を LCD に表示します。

① [SYSTEM] ボタンを押して点灯させ、SYSTEM メニューを表示します。

⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照

② [F1] を回して Alarm サブメニューを表示します。

<メニュー表示>

SYS	6	Power	Fan		
Alarm		NoAlarm	NoAlarm		
		Alarm	Alarm		

Power 項目には、電源（メインフレームおよび、コントロールパネル）の異常状態を表示します。

Fan 項目には、冷却ファン（メインフレーム）の異常状態を表示します。

NoAlarm : 異常なし

Alarm : 異常あり

5-9-2. アラームメッセージ

アラームが発生した場合、LCD にメッセージを表示します。

アラームメッセージ	異常の内容	動作
ALARM ! FAN STOP	冷却ファンの停止（メインフレーム）	メニューの操作を行ったときにアラームメッセージが消えます。 ● 直ちに販売店に連絡してください。
ALARM ! MF POWER FAILURE	電源電圧の低下（メインフレーム）※ ¹	
ALARM ! MF POWER FAILURE & FAN STOP	電源電圧の低下と冷却ファンの停止（メインフレーム）	
ALARM ! PANEL POWER FAILURE	電源電圧の低下（コントロールパネル）※ ²	
ALARM ! PANEL POWER FAILURE & FAN STOP	電源電圧の低下（コントロールパネル）と冷却ファンの停止（メインフレーム）	
ALARM ! PANEL & MF POWER FAILURE	電源電圧の低下（コントロールパネルとメインフレーム）	
ALARM ! PANEL & MF POWER FAILURE & FAN STOP	電源電圧の低下（コントロールパネルとメインフレーム）と冷却ファンの停止（メインフレーム）	
ALARM ! VER IS DISAGREEMENT PANEL-Ver[xxxxxxx] MF-Ver[xxxxxxx]	メインフレームとコントロールパネルのバージョンが不一致	[F1] を長押しすることにより操作を続けることができますが、不具合が生じる場合がありますので、直ちに販売店に連絡してください。
ALARM ! LAN CONNECTION ERROR	メインフレーム／コントロールパネル間の LAN 通信異常	復旧するまでメッセージが表示され、コントロールパネルからの操作ができません。

※¹ : メインフレームは、1 系電源と 2 系電源の両方を動作させて使用してください。

1 系電源と 2 系電源に AC 電源の入力がない場合や電源スイッチが OFF の場合、アラームが表示されます。

※² : コントロールパネルに接続した 2 つの AC アダプターのうち、どちらか一方が正常な場合アラームが表示されません。

5. システムの設定

5-9-3. バージョン情報／オプション情報の表示

本機のソフトウェアおよびハードウェアのバージョン情報、およびオプションのステータスを表示します。

<メニュー表示>

SYS 13	Select	Version		SysVer
MainVer	MFSOFT	1.00		1.00.00

Pn1Soft
Pn1FPGA
CntFPGA
In1FPGA
In2FPGA
M/EFPGA
OutFPGA

- ① [SYSTEM] ボタンを押して点灯させ、SYSTEM メニューを表示します。
⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照
- ② [F1] を回して MainVer サブメニューを表示します。
- ③ [F2] を回して Select 項目で、バージョン表示をする項目を選択します。
- ④ Version 項目にバージョン情報が表示されます。
SysVer 項目には、システムのバージョン情報が表示されます。

MFSOFT	メインフレームのソフトウェアバージョン	In1FPGA	入力基板 1 のハードウェアバージョン (メインフレーム)
Pn1Soft	コントロールパネルのソフトウェアバージョン	In2FPGA	入力基板 2 のハードウェアバージョン (メインフレーム)
Pn1FPGA	コントロールパネルのハードウェアバージョン	M/EFPGA	M/E 基板のハードウェアバージョン (メインフレーム)
CntFPGA	制御基板のハードウェアバージョン (メインフレーム)	OutFPGA	出力基板のハードウェアバージョン (メインフレーム)

- ⑤ [F1] を回して OptVer サブメニューを表示します。

<メニュー表示>

SYS 14	Select	Board	Version
OptVer	SLOTA	SDI-IN	0001

SLOTB

- ⑥ [F2] を回して Select 項目で、オプションスロットを選択します。

SLOTA : オプションスロット A

SLOTB : オプションスロット B

- ⑦ Board 項目に、接続されているオプションボードの種類が表示されます。

SDI-IN	SDI 入力ボード	SDI-OUT	SDI 出力ボード
Ana-IN	アナログ入力ボード	Ana-OUT	アナログ出力ボード
DVI-IN	DVI 入力ボード	D/A-OUT	DVI/ アナログ出力ボード
DVID-IN	フル HD DVI 入力ボード	3D-OUT	3D SDI 出力ボード
Csit-IN	アナログコンポジット入力ボード	None	オプションボードなし

- ⑧ Version 項目にオプションボードのバージョン情報が表示されます。

5. システムの設定

5-10. 初期化

5-10-1. 設定データの初期化

設定データを工場出荷状態に戻します。

(日付と時刻、ネットワークの設定データは初期化されません。)

- ① [SYSTEM] ボタンを押して点灯させ、SYSTEM メニューを表示します。

⇒ 「2-1-5. LCD メニュー部」 参照

- ② [F1] を回して Initial サブメニューを表示します。

<メニュー表示>

SYS	7	Init↓	F Init↓		
Initial					

- ③ [F2] を押して、初期化を実行します。「InIt?」メッセージが表示されます。

- ④ 初期化する場合は、[F2] を回して Yes を選択し、[F2] スイッチを押します。
初期化しない場合は、[F2] を回して No を選択し、[F2] スイッチを押します。

<メニュー表示>

SYS	7	Init↓	F Init↓		
Initial		No			

Yes

5-10-2. フェーダーの初期化

フェーダーレバーを操作してトランジションを行う範囲を初期化します。

フェーダーレバーを最後まで倒しているのに、トランジションが最後まで完了しない場合に初期化を行ってください。

- ① Initial サブメニューより [F3] を押して、初期化を実行します。

「F InIt?」メッセージが表示されます。

<メニュー表示>

SYS	7	Init↓	F InIt↓		
Initial			No		

Yes

- ② 初期化する場合は、[F3] を回して Yes を選択し、[F3] スイッチを押します。
初期化しない場合は、[F3] を回して No を選択し、[F3] スイッチを押します。

6. 外部インターフェース

6-1. コントロールパネルとメインフレームの接続

コントロールパネルの MAINFRAME 端子とメインフレームの PANEL 端子を、付属の CAT5E ケーブルで接続します。

CAT5E、ストレートケーブル、STP (Shielded Twisted Pair)、10 m

付属の CAT5E ケーブルの長さ (10 m) では届かない場所に設置する場合は、下記のケーブルをご用意ください。

CAT5E、ストレートケーブルまたはクロスケーブル、STP (Shielded Twisted Pair)、最大 100 m

6-2. メインフレーム

6-2-1. LAN

画像転送機能を使用するときに、メインフレームの LAN 端子にホストコンピューターを接続します。ホストコンピューターを接続する場合は、下記のケーブルをご用意ください。

CAT5E、ストレートケーブルまたはクロスケーブル、STP (Shielded Twisted Pair)、最大 100 m

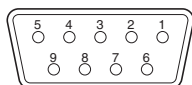
画像転送の設定方法は、「7. 画像転送機能」を参照してください。

6. 外部インターフェース

6-2-2. EDITOR

外部機器を EDITOR 端子に接続して、本機を制御することができます。
下記の設定で使用してください。

ボーレート : 38400 bps
パリティ : ODD
ストップビット : 1 bit

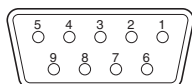


RS-422、D-sub 9 ピン、メス、インチねじ

ピン番号	信号名	信号内容
1	FRAME GROUND	フレームグラウンド
2	TXD-	送信データ (-)
3	RXD+	受信データ (+)
4	GROUND	グラウンド
5	NC	未使用
6	GROUND	グラウンド
7	TXD+	送信データ (+)
8	RXD-	受信データ (-)
9	FRAME GROUND	フレームグラウンド

6-2-3. COM

Panasonic 回転台システムを COM 端子に接続して、本機で制御することができます。
接続の方法は、「5-8-4. カメラの制御」を参照してください。



RS-422、D-sub 9 ピン、メス、インチねじ

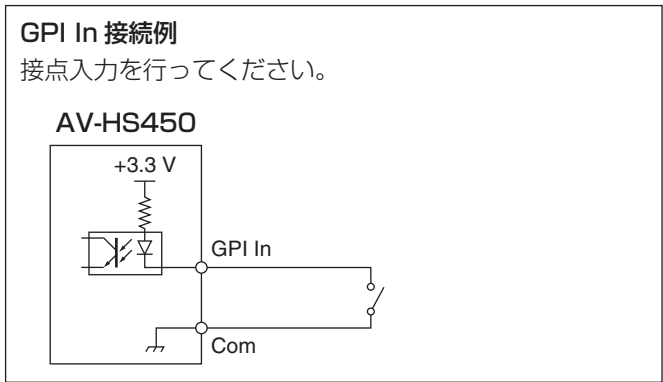
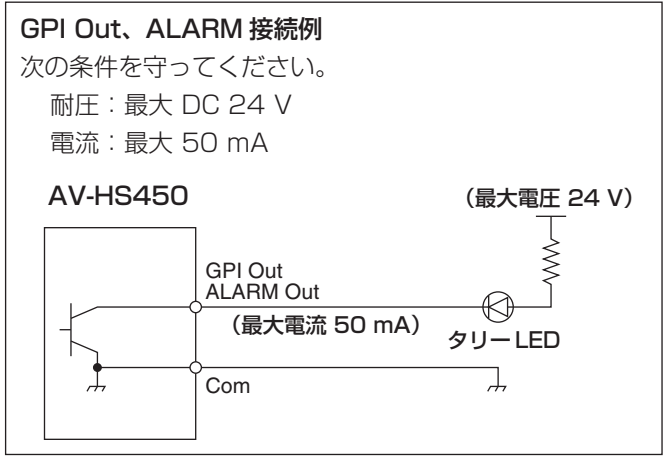
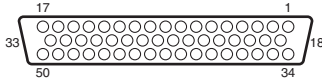
ピン番号	信号名	信号内容
1	FRAME GROUND	フレームグラウンド
2	RXD-	受信データ (-)
3	TXD+	送信データ (+)
4	GROUND	グラウンド
5	NC	未使用
6	GROUND	グラウンド
7	RXD+	受信データ (+)
8	TXD-	送信データ (-)
9	FRAME GROUND	フレームグラウンド

- EDITOR 端子とはピンアサインが異なります。

6. 外部インターフェース

6-2-4. TALLY/GPI

外部から本機の制御を行う接点入力ポート (GPI In) を 8 個、本機からタリーやステータス情報を外部に出力するポート (GPI Out) を 31 個、アラーム出力専用ポート (ALARM Out) を 1 個装備しています。設定の方法は、「5-8-3. GPI の設定」を参照してください。



D-sub 50 ピン、メス、インチねじ

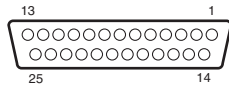
ピン番号		信号名	
1			GPI In Com
	34		GPI In Com
	18		GPI In 1
2			GPI In 2
	35		GPI In 3
	19		GPI In 4
3			GPI In 5
	36		GPI In 6
	20		GPI In 7
4			GPI In 8
	37		GPI Out Com
	21		GPI Out 1
5			GPI Out 2
	38		GPI Out 3
	22		GPI Out 4
6			GPI Out Com
	39		GPI Out 5
	23		GPI Out 6
7			GPI Out 7
	40		GPI Out 8
	24		GPI Out Com
8			GPI Out 9
	41		GPI Out 10
	25		GPI Out 11
9			GPI Out 12
	42		GPI Out Com
	26		GPI Out 13
10			GPI Out 14
	43		GPI Out 15
	27		GPI Out 16
11			GPI Out Com
	44		GPI Out 17
	28		GPI Out 18
12			GPI Out 19
	45		GPI Out 20
	29		GPI Out Com
13			GPI Out 21
	46		GPI Out 22
	30		GPI Out 23
14			GPI Out 24
	47		GPI Out Com
	31		GPI Out 25
15			GPI Out 26
	48		GPI Out 27
	32		GPI Out 28
16			GPI Out Com
	49		GPI Out 29
	33		GPI Out 30
17			GPI Out 31
	50		ALARM Out

6. 外部インターフェース

6-3. コントロールパネル

6-3-1. TALLY/GPI

外部から本機の制御を行う接点入力ポート (GPI In) を 8 個、本機からタリーやステータス情報を外部に出
力するポート (GPI Out) を 8 個、アラーム出力専用ポート (ALARM Out) を 1 個装備しています。
設定の方法は、「5-8-3. GPI の設定」を参照してください。



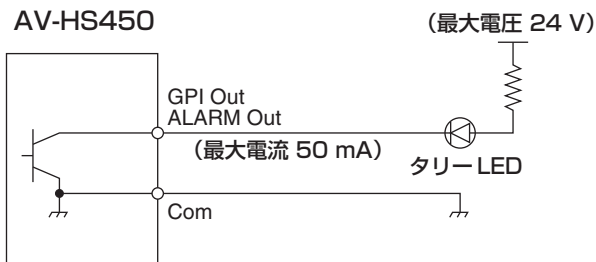
GPI Out, ALARM 接続例

次の条件を守ってください。

耐圧：最大 DC 24 V

電流：最大 50 mA

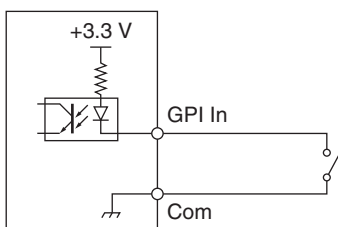
AV-HS450



GPI In 接続例

接点入力を行ってください。

AV-HS450



D-sub 25 ピン、メス、インチねじ

ピン番号	信号名	
1	GPI In Com	IN
14	GPI In Com	
2	GPI In 1	
15	GPI In 2	
3	GPI In 3	
16	GPI In 4	
4	GPI In 5	
17	GPI In 6	
5	GPI In 7	A
18	GPI In 8	
6	GPI Out Com	
19	GPI Out 1	
7	GPI Out 2	
20	GPI Out 3	
8	GPI Out 4	
21	GPI Out Com	
9	GPI Out 5	B
22	GPI Out 6	
10	GPI Out 7	
23	GPI Out 8	
11	DC 5 V	
24	DC 5 V	
12	NC	
25	ALARM Com	
13	ALARM Out	

7. 画像転送機能

本機では、LAN 経由でホストコンピューターから本機へ静止画を転送する機能、および本機からホストコンピューターへ静止画を取り込む機能を備えています。この機能をお使いいただくためには、付属の CD から画像転送ソフトウェアをホストコンピューターにインストールする必要があります。
インストールの方法については、「ソフトウェアのインストール方法」を参照してください。

仕 様

画像転送ソフトウェア (HS450 Tool) は、下記の条件を満たすホストコンピューターでご使用ください。

- ・ OS Windows2000、WindowsXP
- ・ プロセッサ Pentium III 1 GHz 以上推奨
- ・ RAM 256 MB 以上推奨
- ・ ハードディスク 50 MB 以上の空き容量
- ・ LAN 100BASE-TX/10BASE-T
- ・ ディスプレイ TrueColor (24 bit、32 bit)、800×600 ドット以上

対応画像フォーマットは、ビットマップ形式 (bmp)、JPEG 形式 (jpg)、TIFF 形式 (tif)、GIF 形式 (gif)、PNG 形式 (png) です。

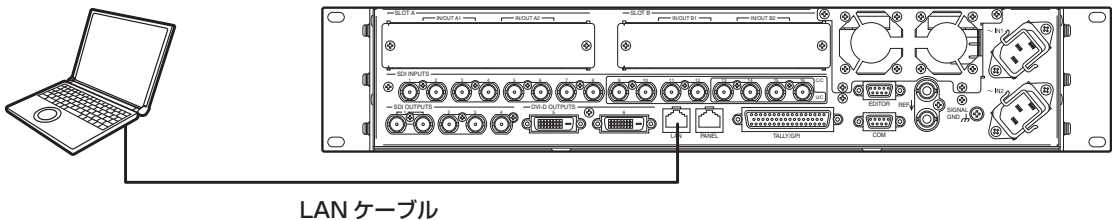
画像転送ソフトウェアには、指定した映像フォーマットのサイズに自動的に変換する機能が備わっています。

接 続

メインフレームの LAN 端子を、LAN ケーブルでホストコンピューターに接続します。

LAN 端子は Auto-MDI/MDI-X 機能付きです。LAN ストレートケーブルまたは LAN クロスケーブルで接続できます。

IP アドレス等のネットワークの設定に関しては、「5-6. ネットワークの設定」を参照してください。

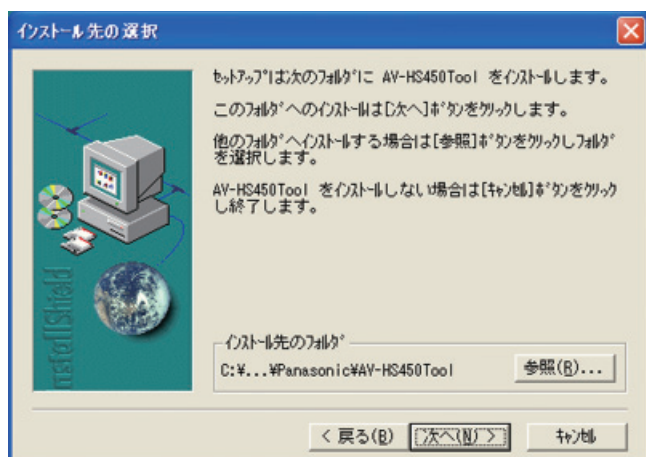


7. 画像転送機能

ソフトウェアのインストール方法

画像転送ソフトウェア（HS450 Tool）のインストール方法について説明します。
ここでは WindowsXP の場合を例に説明します。

1. 本機に付属している CD-ROM を、インストールするホストコンピューターの CD-ROM ドライブに入れます。（ここでは例として E：ドライブに入れます。）
2. セットアッププログラム（E:\¥HS450TOOL¥JPN¥SETUP.EXE¥）を実行します。
3. インストーラープログラムが開始されますので、インストーラーの指示に従ってインストールを行います。



4. インストール完了画面が表示され、インストールは完了です。
[完了]をクリックしてインストール画面を閉じます。



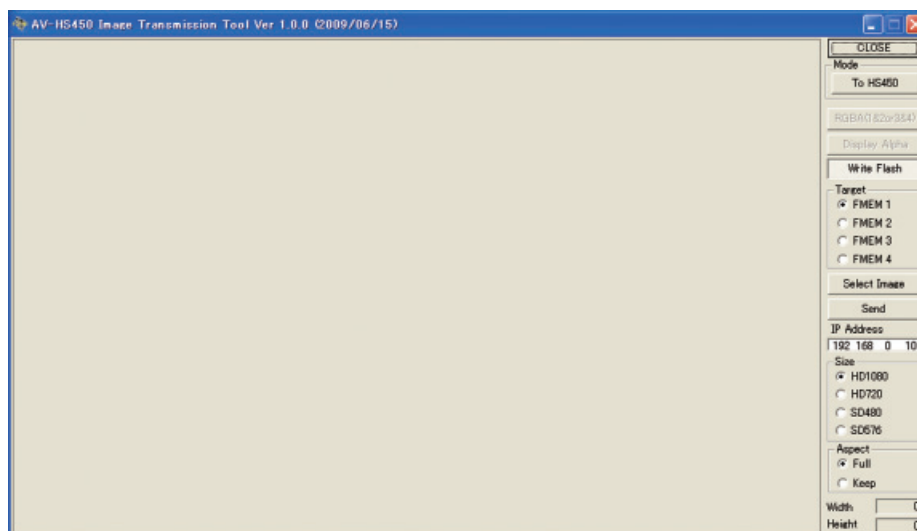
7. 画像転送機能

操作方法

画像転送ソフトウェア（HS450 Tool）の操作方法について説明します。

< 起動 >

Windows のスタートメニューから、[プログラム] → [Panasonic] → [AV-HS450Tool] → [HS450Tool] を選択します。メイン画面が表示されます。



< 終了 >

[CLOSE] ボタンをクリックします。

< IP アドレスの設定 >

IP Address 設定ボックスで、本機の IP アドレスを設定します。

7. 画像転送機能

< 本機への画像転送 >

1. モードを選択します。
[Mode] 欄に [To HS450] が表示されていることを確認します。
[From HS450] が表示されている場合は、[From HS450] ボタンをクリックすると、[To HS450] ボタンが表示されます。
2. [Target] 欄で画像の転送先を選択します。
FMEM1 : 本機のフレームメモリー 1
FMEM2 : 本機のフレームメモリー 2
FMEM3 : 本機のフレームメモリー 3
FMEM4 : 本機のフレームメモリー 4
3. [Select Image] ボタンをクリックすると、ファイル選択ダイアログが表示されますので、転送する画像ファイルを選択し、[OK] をクリックします。画像表示エリアに画像が表示され、右下の Width、Height に画像の縦横サイズが表示されます。
4. [Size] 欄で本機に転送する画像サイズを選択します。画像サイズは HD1080 : 1920×1080、HD720 : 1280×720、SD480 : 720×487、SD576 : 720×576 から選択します。本機の映像フォーマットと異なる場合、本機の出力は正しく表示されません。
5. [Aspect] 欄で、スケーリングの方法を選択します。選択された画像と転送する画像のサイズが異なる場合に、下記のいずれかの方法で自動的にスケーリングします。
Full : [Size] 欄で選択したサイズに合うように拡大または縮小します。選択された画像と転送する画像のアスペクト比が異なる場合は、縦横の比率が変わります。
Keep : アスペクト比を維持したまま、拡大または縮小します。画像の空きスペースは黒になります。
6. アルファチャンネルが含まれている画像を転送するときは、[RGBA(1&2or3&4)] ボタンを選択することができます。
[RGBA(1&2or3&4)] ボタンをクリックして [Target] 欄で FMEM1 を選択すると、フレームメモリー 1 (FMEM1) に RGB 画像が転送され、フレームメモリー 2 (FMEM2) にアルファチャンネルの画像が転送されます。
[Target] 欄で FMEM3 を選択すると、フレームメモリー 3 (FMEM3) に RGB 画像が転送され、フレームメモリー 4 (FMEM4) にアルファチャンネルの画像が転送されます。
また、[Display Alpha] ボタンをクリックすると、アルファチャンネルの画像をプレビュー表示します。
7. [Send] ボタンをクリックすると、本機へ画像を転送し、フレームメモリーとフラッシュメモリーに画像を保存します。
 - [Write Flash] ボタンは、常に選択された状態になっています。
フラッシュメモリーに画像を保存しない場合は、[Write Flash] ボタンをクリックして、[Write Flash] ボタンの選択を解除した状態にしてください。

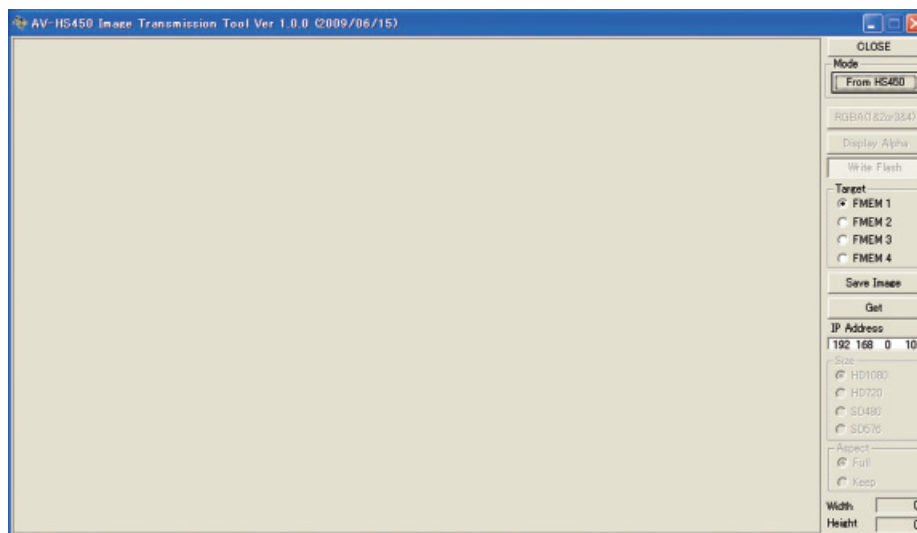
7. 画像転送機能

< 本機からの画像転送 >

1. モードを選択します。

[Mode] 欄に [From HS450] が表示されていることを確認します。

[To HS450] が表示されている場合は、[To HS450] ボタンをクリックすると、[From HS450] ボタンが表示されます。



2. [Target] 欄でホストコンピュータに取り込む画像を選択します。

FMEM1 : 本機のフレームメモリー 1 の画像

FMEM2 : 本機のフレームメモリー 2 の画像

FMEM3 : 本機のフレームメモリー 3 の画像

FMEM4 : 本機のフレームメモリー 4 の画像

3. [Get] ボタンをクリックすると、本機から画像を取り込みます。画像表示エリアに画像が表示され、右下の Width、Height に画像の縦横サイズが表示されます。
4. [Save Image] ボタンをクリックすると、ファイル保存ダイアログが表示されますので、転送する画像ファイルを選択し、[保存] をクリックします。

8. セッティングメニュー一覧

- 2D モードと 3D モードではメニュー構成が異なります。
3D モードのメニュー構成は、AV-HSO4M7D の取扱説明書を参照してください。
- (↓) の表示されている項目は、項目を選択して [F1] ~ [F5] のスイッチを押すと確定されます。
(押さないと確定されません)

メニュー	サブメニュー		パラメーター 1	パラメーター 2	パラメーター 3	パラメーター 4
	F1 を回して選択		F2 を回して選択	F3 を回して選択	F4 を回して選択	F5 を回して選択
KEY	KEY 1	パラメーター	Type	LumKey	Fill	PVW
	KEY	設定範囲	Lum、Linear、Chroma、Full	ChrmOn、ChrmOff	Bus、Matte	Auto、Off、On
		初期値	Linear	ChrmOff	Bus	Auto
	KEY 2	パラメーター	Clip	Gain	Density	Invert
	Adjust	設定範囲	0.0 ~ 108.0	0.0 ~ 200.0	0.0 ~ 100.0	On、Off
		初期値	0.0	100.0	100.0	Off
	KEY 3	パラメーター	Hue	Sat	Lum	Load ↓
	FillMatt	設定範囲	0.0 ~ 359.9	0.0 ~ 100.0	0.0 ~ 108.0	White、Yellow、Cyan、Green、Magenta、Red、Blue、Black
		初期値	0.0	0.0	100.0	White
	KEY 4	パラメーター	Type	Width	Direc	
	Edge	設定範囲	Off、Border、Drop、Shadow、Outline	0 ~ 4	0、45、90、135、180、225、270、315	
		初期値	Off	2	0	
	KEY 5	パラメーター	Hue	Sat	Lum	Load ↓
	EdgeCol	設定範囲	0.0 ~ 359.9	0.0 ~ 100.0	0.0 ~ 108.0	White、Yellow、Cyan、Green、Magenta、Red、Blue、Black
		初期値	0.0	0.0	0.0	Black
	KEY 6	パラメーター	X-Pos	Y-Pos		CopyTo ↓
	WIPEPos	設定範囲	-100.00 ~ 100.00	-100.00 ~ 100.00		コピー先を表示
		初期値	0.00	0.00		
	KEY 7	パラメーター	X-Pos	Y-Pos		CopyTo ↓
	SQPos	設定範囲	-100.00 ~ 100.00	-100.00 ~ 100.00		コピー先を表示
	初期値	0.00	0.00			
KEY 8	パラメーター	X-Pos	Y-Pos	Size		
FlyKEY	設定範囲	-100.00 ~ 100.00	-100.00 ~ 100.00	0.0 ~ 400.0		
	初期値	0.00	0.00	100.0		
KEY 9	パラメーター	Light				
Modify	設定範囲	On、Off				
	初期値	Off				
KEY 10	パラメーター	Mask	Invert			
Mask	設定範囲	Off、Manual、4:3	On、Off			
	初期値	Off	Off			

8. セッティングメニュー一覧

メニュー	サブメニュー		パラメーター 1	パラメーター 2	パラメーター 3	パラメーター 4	
	F1 を回して選択		F2 を回して選択	F3 を回して選択	F4 を回して選択	F5 を回して選択	
KEY	KEY 11	パラメーター	Left	Top	Bottom	Right	
	MaskAdj	設定範囲	-50.00 ~	-50.00 ~	-50.00 ~	-50.00 ~	
		初期値	50.00	50.00	50.00	50.00	
	KEY 12	パラメーター	OutPatt				
		Trans	設定範囲	Nor、Rev			
		初期値	Nor				
CHR KEY	CHRKEY 1	パラメーター	AutCmp ↓			RESET ↓	
	AutoCmp	設定範囲					
		初期値					
	CHRKEY 2	パラメーター	Narrow	Phase			
	KeyAdj	設定範囲	Off、0.5、1.0、1.5	-4.0 ~ 4.0			
		初期値	Off	0.0			
	CHRKEY 3	パラメーター	View	Mode		UNDO ↓	
	Sample 1	設定範囲	Cmpsit、Matte、Proc.FG、FG	SelBG、Cln.BG、Cln.FG、Spl.Spgr			
		初期値	Cmpsit	SelBG			
	CHRKEY 4	パラメーター	View	Mode		UNDO ↓	
Sample2	設定範囲	Cmpsit、Matte、Proc.FG、FG	Spill-、Spill+、Matte-、Matte+、Detail-、Detail+、MatSpng、MkFGTrn、RstrDtl				
	初期値	Cmpsit	Spill-				
CHRKEY 5	パラメーター	View	Spill	Trans	Detail		
FineTun	設定範囲	Cmpsit、Matte、Proc.FG、FG	-1000 ~ 1000	-1000 ~ 1000	-1000 ~ 1000		
	初期値	Cmpsit	0	0	0		
PinP1	PinP1 1	パラメーター	Shape	CrclAsp	Density	PVW	
	PinP1	設定範囲	Square、Circle	0.0 ~ 100.0	0.0 ~ 100.0	On、Off	
		初期値	Square	0.0	100.0	Off	
	PinP1 2	パラメーター	Border	Width	Soft	Mode	
	Border	設定範囲	Off、On	0.1 ~ 100.0	0.0 ~ 100.0	Fix、Var	
		初期値	Off	5.0	0.0	Fix	
	PinP1 3	パラメーター	Hue	Sat	Lum	Load ↓	
	BodrCol	設定範囲	0.0 ~ 359.9	0.0 ~ 100.0	0.0 ~ 108.0	White、Yellow、Cyan、Green、Magenta、Red、Blue、Black	
初期値		0.0	0.0	100.0	White		
PinP1 4	パラメーター	X-Pos	Y-Pos	Size			
Position	設定範囲	-50.00 ~	-50.00 ~	0.00 ~ 100.00			
	初期値	50.00	50.00	25.00			

8. セッティングメニュー一覧

メニュー	サブメニュー		パラメーター 1	パラメーター 2	パラメーター 3	パラメーター 4
	F1 を回して選択		F2 を回して選択	F3 を回して選択	F4 を回して選択	F5 を回して選択
PinP1	PinP1 5	パラメーター	X	Y	Z	
	Rotation	設定範囲	-360 ~ 360	-360 ~ 360	-360 ~ 360	
		初期値	0	0	0	
	PinP1 6	パラメーター	Trim	Manual		
	Trim	設定範囲	Manual, Off, 4:3 (PinP1 サブメニューの Shape 項目を Circle に設定したときは Off に固定されま す。)	Free, Pair		
		初期値	Off	Free		
	PinP1 7	パラメーター	Left	Top	Bottom	Right
	TrimAdj	設定範囲	-50.00 ~ 50.00	-50.00 ~ 50.00	-50.00 ~ 50.00	-50.00 ~ 50.00
		初期値	-40.00	40.00	-40.00	40.00
	PinP1 8	パラメーター	Prior	Sym ↓		CopyTo ↓
Sync	設定範囲	1over2, 2over1	Off, X, Y, Center		コピー先を表示	
	初期値	1over2	Off			
PinP2	PinP2 1	パラメーター	Shape		Density	PVW
	PinP2	設定範囲	Square		0.0 ~ 100.0	On, Off
		初期値	Square (固定)		100.0	Off
	PinP2 2	パラメーター	Border	Width	Soft	Mode
	Border	設定範囲	Off, On	0.1 ~ 100.0	0.0 ~ 100.0	Fix, Var
		初期値	Off	5.0	0.0	Fix
	PinP2 3	パラメーター	Hue	Sat	Lum	Load ↓
	BoDrCol	設定範囲	0.0 ~ 359.9	0.0 ~ 100.0	0.0 ~ 108.0	White, Yellow, Cyan, Green, Magenta, Red, Blue, Black
		初期値	0.0	0.0	100.0	White
	PinP2 4	パラメーター	X-Pos	Y-Pos	Size	
	Position	設定範囲	-50.00 ~ 50.00	-50.00 ~ 50.00	0.00 ~ 100.00	
		初期値	0.00	0.00	25.00	
	PinP2 5	パラメーター	X	Y	Z	
	Rotation	設定範囲	-360 ~ 360	-360 ~ 360	-360 ~ 360	
		初期値	0	0	0	
PinP2 6	パラメーター	Trim	Manual			
Trim	設定範囲	Manual, Off, 4:3	Free, Pair			
	初期値	Off	Free			
PinP2 7	パラメーター	Left	Top	Bottom	Right	
TrimAdj	設定範囲	-50.00 ~ 50.00	-50.00 ~ 50.00	-50.00 ~ 50.00	-50.00 ~ 50.00	
	初期値	-40.00	40.00	-40.00	40.00	

8. セッティングメニュー一覧

メニュー	サブメニュー		パラメーター 1	パラメーター 2	パラメーター 3	パラメーター 4
	F1 を回して選択		F2 を回して選択	F3 を回して選択	F4 を回して選択	F5 を回して選択
PinP2	PinP2 8	パラメーター	Prior	Sym ↓		CopyTo ↓
	Sync	設定範囲	1over2、2over1	Off、X、Y、Center		コピー先を表示
		初期値	1over2	Off		
DSK1	DSK1 1	パラメーター	Type	LumKey	Fill	PVW
	DSK1	設定範囲	Lum、Linear	ChrmOn、ChrmOff	Bus、Matte	On、Off
		初期値	Linear	ChrmOff	Bus	Off
	DSK1 2	パラメーター	Clip	Gain	Density	Invert
	Adjust	設定範囲	0.0 ~ 108.0	0.0 ~ 200.0	0.0 ~ 100.0	On、Off
		初期値	0.0	100.0	100.0	Off
	DSK1 3	パラメーター	Hue	Sat	Lum	Load ↓
	FillMatt	設定範囲	0.0 ~ 359.9	0.0 ~ 100.0	0.0 ~ 108.0	White、Yellow、Cyan、Green、Magenta、Red、Blue、Black
		初期値	0.0	0.0	100.0	White
	DSK1 4	パラメーター	Type	Width	Direc	
	Edge	設定範囲	Off、Border、Drop、Shadow、Outline	0 ~ 4	0、45、90、135、180、225、270、315	
		初期値	Off	2	0	
	DSK1 5	パラメーター	Hue	Sat	Lum	Load ↓
	EdgeCol	設定範囲	0.0 ~ 359.9	0.0 ~ 100.0	0.0 ~ 108.0	White、Yellow、Cyan、Green、Magenta、Red、Blue、Black
		初期値	0.0	0.0	0.0	Black
DSK1 6	パラメーター	Mask	Invert			
Mask	設定範囲	Off、Manual、4:3	On、Off			
	初期値	Off	Off			
DSK1 7	パラメーター	Left	Top	Bottom	Right	
MaskAdj	設定範囲	-50.00 ~ 50.00	-50.00 ~ 50.00	-50.00 ~ 50.00	-50.00 ~ 50.00	
	初期値	-25.00	25.00	-25.00	25.00	
DSK2	DSK2 1	パラメーター	Type	LumKey	Fill	PVW
	DSK2	設定範囲	Lum、Linear	ChrmOn、ChrmOff	Bus、Matte	On、Off
		初期値	Linear	ChrmOff	Bus	Off
	DSK2 2	パラメーター	Clip	Gain	Density	Invert
	Adjust	設定範囲	0.0 ~ 108.0	0.0 ~ 200.0	0.0 ~ 100.0	On、Off
		初期値	0.0	100.0	100.0	Off
DSK2 3	パラメーター	Hue	Sat	Lum	Load ↓	
FillMatt	設定範囲	0.0 ~ 359.9	0.0 ~ 100.0	0.0 ~ 108.0	White、Yellow、Cyan、Green、Magenta、Red、Blue、Black	
	初期値	0.0	0.0	100.0	White	

8. セッティングメニュー一覧

メニュー	サブメニュー		パラメーター 1	パラメーター 2	パラメーター 3	パラメーター 4
	F1 を回して選択		F2 を回して選択	F3 を回して選択	F4 を回して選択	F5 を回して選択
DSK2	DSK2 4	パラメーター	Type	Width	Dirac	
	Edge	設定範囲	Off、Border、Drop、Shadow、Outline	0 ~ 4	0、45、90、135、180、225、270、315	
		初期値	Off	2	0	
	DSK2 5	パラメーター	Hue	Sat	Lum	Load ↓
	EdgeCol	設定範囲	0.0 ~ 359.9	0.0 ~ 100.0	0.0 ~ 108.0	White、Yellow、Cyan、Green、Magenta、Red、Blue、Black
		初期値	0.0	0.0	0.0	Black
	DSK2 6	パラメーター	Mask	Invert		
	Mask	設定範囲	Off、Manual、4:3	On、Off		
		初期値	Off	Off		
	DSK2 7	パラメーター	Left	Top	Bottom	Right
MaskAdj	設定範囲	-50.00 ~ 50.00	-50.00 ~ 50.00	-50.00 ~ 50.00	-50.00 ~ 50.00	
	初期値	-25.00	25.00	-25.00	25.00	
TIME	TIME 1	パラメーター	TransTime		Unit	
	BKGD	設定範囲	0 ~ 33s (59.94 Hz 時)	0 ~ 999f	Frame、Sec	
		初期値	1s	0f	Sec	
	TIME 2	パラメーター	TransTime		Unit	
	KEY	設定範囲	0 ~ 33s (59.94 Hz 時)	0 ~ 999f	Frame、Sec	
		初期値	1s	0f	Sec	
	TIME 3	パラメーター	TransTime		Unit	
	PinP1	設定範囲	0 ~ 33s (59.94 Hz 時)	0 ~ 999f	Frame、Sec	
		初期値	1s	0f	Sec	
	TIME 4	パラメーター	TransTime		Unit	
	PinP2	設定範囲	0 ~ 33s (59.94 Hz 時)	0 ~ 999f	Frame、Sec	
		初期値	1s	0f	Sec	
	TIME 5	パラメーター	TransTime		Unit	
	DSK1	設定範囲	0 ~ 33s (59.94 Hz 時)	0 ~ 999f	Frame、Sec	
		初期値	1s	0f	Sec	
	TIME 6	パラメーター	TransTime		Unit	
	DSK2	設定範囲	0 ~ 33s (59.94 Hz 時)	0 ~ 999f	Frame、Sec	
		初期値	1s	0f	Sec	
	TIME 7	パラメーター	TransTime		Unit	ENBL
	AUX1	設定範囲	0 ~ 33s (59.94 Hz 時)	0 ~ 999f	Frame、Sec	Enable、Disable
初期値		1s	0f	Sec	Enable	
TIME 8	パラメーター	TransTime		Unit		
EFF DSLV	設定範囲	0 ~ 33s (59.94 Hz 時)	0 ~ 999f	Frame、Sec		
	初期値	1s	0f	Sec		

8. セッティングメニュー一覧

メニュー	サブメニュー		パラメーター 1	パラメーター 2	パラメーター 3	パラメーター 4
	F1 を回して選択		F2 を回して選択	F3 を回して選択	F4 を回して選択	F5 を回して選択
TIME	TIME 9	パラメーター	TransTime		Unit	
	FTB	設定範囲	0 ~ 33s (59.94 Hz 時)	0 ~ 999f	Frame、Sec	
		初期値	1s	Of	Sec	
CBGD	CBGD 1	パラメーター	Hue	Sat	Lum	Load ↓
	CBGD	設定範囲	0.0 ~ 359.9	0.0 ~ 100.0	0.0 ~ 108.0	White、Yellow、Cyan、Green、Magenta、Red、Blue、Black
		初期値	0.0	0.0	100.0	White
BKGD	BKGD 1	パラメーター	Border	Width	Soft	
	Border	設定範囲	On、Off	0.1 ~ 100.0	0.0 ~ 100.0 ● [BKGD PATT] ボタンで、バックグラウンドトランジションのワイプパターンのSQ2/SL2/3D2を選択したときは「-」を表示します。	
		初期値	Off	5.0	0.0	
	BKGD 2	パラメーター	Hue	Sat	Lum	Load ↓
	BoDrCol	設定範囲	0.0 ~ 359.9	0.0 ~ 100.0	0.0 ~ 108.0	White、Yellow、Cyan、Green、Magenta、Red、Blue、Black
		初期値	0.0	0.0	100.0	White
	BKGD 3	パラメーター	X-Pos	Y-Pos		CopyTo ↓
	WIPEPos	設定範囲	-100.00 ~ 100.00	-100.00 ~ 100.00		コピー先を表示
		初期値	0.00	0.00		
	BKGD 4	パラメーター	X-Pos	Y-Pos		CopyTo ↓
	SQPos	設定範囲	-100.00 ~ 100.00	-100.00 ~ 100.00		コピー先を表示
		初期値	0.00	0.00		
BKGD 5	パラメーター	Light	Trim	4:3Auto		
Modify	設定範囲	On、Off	Off、16:9 (On)、4:3、4:3Smth	On、Off (システムフォーマットがHDフォーマットのと きに有効)		
	初期値	Off	Off	Off		
BKGD 6	パラメーター	Type				
Base	設定範囲	FMEM1 ~ 4、Black、CBGD				
	初期値	Black				

8. セッティングメニュー一覧

メニュー	サブメニュー		パラメーター 1	パラメーター 2	パラメーター 3	パラメーター 4
	F1 を回して選択		F2 を回して選択	F3 を回して選択	F4 を回して選択	F5 を回して選択
IMAG A	IMG A 1	パラメーター	On/Off			
	IMG A	設定範囲 初期値	On、 Off Off			
	IMG A 2	パラメーター	On/Off	Y-Level	C-Level	
	Paint	設定範囲 初期値	On、 Off Off	0 ~ 7 0	0 ~ 7 0	
	IMG A 3	パラメーター	On/Off	Hue	Sat	
	Mono	設定範囲 初期値	On、 Off Off	0.0 ~ 359.9 0.0	0.0 ~ 100.0 0.0	
	IMG A 4	パラメーター	On/Off	Mode	Effect	
	Mosa/Def	設定範囲 初期値	On、 Off Off	Mosaic、 Defocus Mosaic	0.0 ~ 100.0 20.0	
IMAG B	IMG B 1	パラメーター	On/Off			
	IMG B	設定範囲 初期値	On、 Off Off			
	IMG B 2	パラメーター	On/Off	Y-Level	C-Level	
	Paint	設定範囲 初期値	On、 Off Off	0 ~ 7 0	0 ~ 7 0	
	IMG B 3	パラメーター	On/Off	Hue	Sat	
	Mono	設定範囲 初期値	On、 Off Off	0.0 ~ 359.9 0.0	0.0 ~ 100.0 0.0	
	IMG B 4	パラメーター	On/Off	Mode	Effect	
	Mosa/Def	設定範囲 初期値	On、 Off Off	Mosaic、 Defocus Mosaic	0.0 ~ 100.0 20.0	
FMEM	FMEM 1	パラメーター	FMEM	Select	Review	Exec ↓
	AUX	設定範囲 初期値	FMEM1 ~ 4 FMEM1	AUX1 ~ 4 AUX1	On、 Off Off	
	FMEM 2	パラメーター	Mode	Select		Exec ↓
	Memory	設定範囲 初期値	AUTO、 Manual AUTO	FMEM1 ~ 4、 ALL ALL		
SDCard	SDCard 1	パラメーター	Mode ↓	Select	SaveFile	Exec ↓
	File	設定範囲 初期値	*Load、 Save、 Init、 Delete、 No Card -	FMEM1 ~ 4、 SetUp -	HS001 -	
	SDCard 2	パラメーター	Images	FreeSpace		GetInf ↓
	CardInfo	設定範囲 初期値		MB/ MB		
CTL	CTL 1	パラメーター	Edit-EN	COM-EN		
	RS422	設定範囲 初期値	Enable、 Disable Enable	Enable、 Disable Enable		

8. セッティングメニュー一覧

メニュー	サブメニュー		パラメーター 1	パラメーター 2	パラメーター 3	パラメーター 4
	F1 を回して選択		F2 を回して選択	F3 を回して選択	F4 を回して選択	F5 を回して選択
CAM	CAM 1	パラメーター	CTL	Signal	Tally	Protocol
	CamCTL1	設定範囲	1 ~ 5	IN1 ~ 16、 IN-A1、IN-A2、 IN-B1、IN-B2、 None	Enable、Disable	P/TCont、 P/TDirt
		初期値	1	None	Disable	P/TCont
	CAM 2	パラメーター	CTL	PosCont	PTSpeed	Power ↓
	CamCTL2	設定範囲	1 ~ 5	PanTilt、 Zm/Focs	Fast、Middle、 Slow	On、Off
		初期値	1	PanTilt	Fast	On
XPT	CAM 3	パラメーター	CTL	C-Menu ↓	Item	Val/Y/N
	CamMenu	設定範囲	1 ~ 5	On、Off	Cursor	Cursor
		初期値	1	—	—	—
	XPT 1	表示のみ	XPT: 1 2 3 4 5 6 7 8			
	Status1		SIG: BK 1 2 3 4 5 6 7			
	XPT 2	表示のみ	XPT: 9 10 11 12 13 14 15 16			
Status2		SIG: 8 9 10 11 12 13 14 Sf				
XPT 3	表示のみ	XPT: 17 18 19 20 21 22 23 24				
Status3		SIG: 15 16 A1 A2 B1 B2 - -				
XPT 4	表示のみ	XPT: 25 26 27 28 29 30 31 32				
Status4		SIG: - PG PV K0 CL M1 M2 Sf				
XPT 5	パラメーター	XPT	Signal	Shift	Sf-Lock	
XPTAsign	設定範囲	1 ~ 32	IN1 ~ 16、 IN-A1、IN-A2、 IN-B1、IN-B2、 Black、CBGD、 CBAR、 FMEM1 ~ 4、 PGM、PVW、 KeyOut、 CLN、MV1、 MV2 (AUX バス のみ)、NoAsign	Off、Right、Left	On、Off	
	初期値	—	—	Right	Off	
XPT 6	パラメーター	Timing				
XPT Swch	設定範囲	Any、Field1、 Field2				
	初期値	Any				

8. セッティングメニュー一覧

メニュー	サブメニュー		パラメーター 1	パラメーター 2	パラメーター 3	パラメーター 4
	F1 を回して選択		F2 を回して選択	F3 を回して選択	F4 を回して選択	F5 を回して選択
MV	MV 1	パラメーター	Split		Pos	Signal
	MV1 PATT	設定範囲	16Split、 10Split、 9Split、 4Split (MV1 の分割数と MV2 の分割数の 組み合わせで、合 計数が 20 まで選 択可能)		1 ~ 16、 1 ~ 10、 1 ~ 9、 1 ~ 4	IN1 ~ 16、 IN-A1、IN-A2、 IN-B1、IN-B2、 CBGD、 FMEM1 ~ 4、 PGM、PVW、 KeyOut、 AUX1 ~ 4
		初期値	10Split		1	IN1 ~ 10
	MV 2	パラメーター	Frame	Char	Label	Tally
	MV1Frame	設定範囲	LUM 0%、 LUM25%、 LUM50%、 LUM75%、 LUM100%、Off	LUM 0%、 LUM25%、 LUM50%、 LUM75%、 LUM100%、Off	On、 Off	Red、 Red+GRN、 Off
		初期値	LUM75%	LUM75%	On	Red+GRN
	MV 3	パラメーター	Split		Pos	Signal
	MV2 PATT	設定範囲	16Split、 10Split、 9Split、 4Split (MV1 の分割数と MV2 の分割数の 組み合わせで、合 計数が 20 まで選 択可能)		1 ~ 16、 1 ~ 10、 1 ~ 9、 1 ~ 4	IN1 ~ 16、 IN-A1、IN-A2、 IN-B1、IN-B2、 CBGD、 FMEM1 ~ 4、 PGM、PVW、 KeyOut、 AUX1 ~ 4
		初期値	10Split		1	IN1 ~ 10
	MV 4	パラメーター	Frame	Char	Label	Tally
	MV2Frame	設定範囲	LUM 0%、 LUM25%、 LUM50%、 LUM75%、 LUM100%、Off	LUM 0%、 LUM25%、 LUM50%、 LUM75%、 LUM100%、Off	On、 Off	Red、 Red+GRN、 Off
		初期値	LUM75%	LUM75%	On	Red+GRN

8. セッティングメニュー一覧

メニュー	サブメニュー	第3メニュー		パラメーター1	パラメーター2	パラメーター3
	F1を回して選択	F2を回して選択		F3を回して選択	F4を回して選択	F5を回して選択
INPUT	INPUT XX* (SDI) * X部分には、 IN1～16、A1、 A2、B1、B2を 表示 (A1、A2、B1、B2 は、AV-HS04M1 接続時に有効)	FS	パラメーター	FS	Mode ↓	
		1/16	設定範囲	On、Off	*Normal、 DbyD、UC、 Auto	
			初期値	On	Normal	
		Freeze	パラメーター	Select	Freeze ↓	
		2/16	設定範囲	Frame、Field	On、Off (トグル)	
			初期値	Frame	Off	
		Name	パラメーター	Type ↓	Name	
		3/16	設定範囲	*Default、 Preset、User		
			初期値	Default		
		UpConv1	パラメーター	Scale ↓	MovDet ↓	Sharp ↓
		4/16 (IN13～16、 A1、A2、B1、 B2のみ)	設定範囲	*SQ、EC、LB	*1～5	*1～5
			初期値	SQ	3	3
		UpConv2	パラメーター	EC-Pos ↓	Size ↓	
		5/16 (IN13～16 のみ)	設定範囲	Center、Right、 Left	100～110	
			初期値	Center	100	
		CC	パラメーター	CC	CpyFrm ↓	CLEAR ↓
		6/16 (IN9～16のみ)	設定範囲	On、Off	IN9～IN16	Prc、Trn、MTX、 ALL
			初期値	Off	IN9～IN16	ALL
		CC Limit	パラメーター	InLimit		
		7/16 (IN9～16のみ)	設定範囲	Off、108、104、 100		
			初期値	Off		
		CC Prc1	パラメーター	Y-Gain	Ped	
		8/16 (IN9～16のみ)	設定範囲	0.0～200.0	-20.0～20.0	
			初期値	100.0	0.0	
CC Prc2	パラメーター	C-Gain	Hue	ClorCnv		
9/16 (IN9～16のみ)	設定範囲	0.0～200.0	0.0～359.9	On、Off		
	初期値	100.0	0.0	On		
CC Trn1	パラメーター	BLv-R	BLv-G	BLv-B		
10/16 (IN9～16のみ)	設定範囲	-0.500～0.500	-0.500～0.500	-0.500～0.500		
	初期値	0.000	0.000	0.000		
CC Trn2	パラメーター	GPos-R	GPos-G	GPos-B		
11/16 (IN9～16のみ)	設定範囲	0.25～0.75	0.25～0.75	0.25～0.75		
	初期値	0.50	0.50	0.50		
CC Trn3	パラメーター	GLv-R	GLv-G	GLv-B		
12/16 (IN9～16のみ)	設定範囲	0.000～1.000	0.000～1.000	0.000～1.000		
	初期値	0.500	0.500	0.500		
CC Trn4	パラメーター	WLv-R	WLv-G	WLv-B		
13/16 (IN9～16のみ)	設定範囲	0.500～1.500	0.500～1.500	0.500～1.500		
	初期値	1.000	1.000	1.000		

8. セッティングメニュー一覧

メニュー	サブメニュー	第3メニュー		パラメーター1	パラメーター2	パラメーター3						
	F1 を回して選択	F2 を回して選択		F3 を回して選択	F4 を回して選択	F5 を回して選択						
INPUT	INPUT XX* (SDI) * X 部分には、 IN1 ~ 16、A1、 A2、B1、B2 を 表示 (A1、A2、B1、B2 は、AV-HS04M1 接続時に有効)	CC MTX1	パラメーター	R-G	R-B							
		14/16 (IN9 ~ 16 のみ)	設定範囲 初期値	-0.600 ~ 0.600 0.000	-0.600 ~ 0.600 0.000							
		CC MTX2	パラメーター	G-R	G-B							
		15/16 (IN9 ~ 16 のみ)	設定範囲 初期値	-0.600 ~ 0.600 0.000	-0.600 ~ 0.600 0.000							
		CC MTX3	パラメーター	B-R	B-G							
		16/16 (IN9 ~ 16 のみ)	設定範囲 初期値	-0.600 ~ 0.600 0.000	-0.600 ~ 0.600 0.000							
INPUT	INPUT XX* (ANA) * X 部分には、 A1、A2、B1、 B2 を表示 (AV-HS04M2 接 続時に有効)	FS	パラメーター	FS	Mode ↓	AnaGain						
		1/4	設定範囲 初期値	On、 Off On	*Normal、 DbyD、 UC Normal	-30 ~ +30 0						
		Freeze	パラメーター	Select	Freeze ↓							
		2/4	設定範囲 初期値	Frame、 Field Frame	On、 Off (トグル) Off							
		Name	パラメーター	Type ↓	Name							
		3/4	設定範囲 初期値	*Default、 Preset、 User Default								
	INPUT XX* (DVI) * X 部分には、 A1、A2、B1、 B2 を表示 (AV-HS04M3 接 続時に有効)	Freeze	1/7	パラメーター 設定範囲 初期値	Select Frame、 Field Frame	Freeze ↓ On、 Off (トグル) Off						
								Name	パラメーター	Type ↓	Name	
								2/7	設定範囲 初期値	*Default、 Preset、 User Default		
								DVIIn	パラメーター	Mode	Scale	Auto ↓
								3/7	設定範囲 初期値	*Dig、 Ana Dig	Fit-V、 Fit-H、 FULL Fit-V	Black、 White、 Init Black
								DVIPhs	パラメーター	ClkPhs	H-Pos	V-Pos
	4/7	設定範囲 初期値	-16 ~ 15 0	-100 ~ 100 0	-100 ~ 100 0							
	INPUT XX* (DVI) * X 部分には、 A1、A2、B1、 B2 を表示 (AV-HS04M3 接 続時に有効)	Status 1	5/7	パラメーター 設定範囲 初期値	H-Freq **.*kHz 表示のみ	V-Freq **.*Hz 表示のみ						
								Status2	パラメーター	Size		
								6/7 (デジタル信号入 力時のみ)	設定範囲 初期値	**** x **** 表示のみ		
								Status3	パラメーター	Dot Clock		
								7/7 (デジタル信号入 力時のみ)	設定範囲 初期値	***MHz 表示のみ		

8. セッティングメニュー一覧

メニュー	サブメニュー	第3メニュー		パラメーター1	パラメーター2	パラメーター3
	F1 を回して選択	F2 を回して選択		F3 を回して選択	F4 を回して選択	F5 を回して選択
INPUT	INPUT XX* (F-DVI) * X 部分には、 A1、A2、B1、 B2 を表示 (AV-HS04M8 接 続時に有効)	Freeze	パラメーター	Select	Freeze ↓	
		1/7	設定範囲 初期値	Frame、Field Frame	On、Off (トグル) Off	
		Name	パラメーター	Type ↓	Name	
		2/7	設定範囲 初期値	*Default、 Preset、User Default		
		DVInn	パラメーター	Mode	Scale	Auto ↓
		3/7	設定範囲 初期値	— —	Fit-V、Fit-H、 Full Fit-V	— —
		DVPhs	パラメーター	ClkPhs	H-Pos	V-Pos
		4/7	設定範囲 初期値	— —	-100 ~ 100 0	-100 ~ 100 0
		Status1	パラメーター	H-Freq	V-Freq	
		5/7	設定範囲 初期値	**.*kHz 表示のみ	**.*Hz 表示のみ	
	Status2	パラメーター	Size			
	6/7	設定範囲 初期値	**** x **** 表示のみ			
	Status3	パラメーター	Dot Clock			
	7/7	設定範囲 初期値	**.*MHz 表示のみ			
	INPUT XX* (Csit) * X 部分には、 A1、A2、B1、 B2 を表示 (AV-HS04M6 接 続時に有効)	FS	パラメーター	FS	Mode ↓	AnaGain
		1/5	設定範囲 初期値	On、Off On	*Normal、 DbyD、UC Normal	-30 ~ +30 0
		Freeze	パラメーター	Select	Freeze ↓	
		2/5	設定範囲 初期値	Frame、Field Frame	On、Off (トグル) Off	
		Name	パラメーター	Type ↓	Name	
		3/5	設定範囲 初期値	*Default、 Preset、User Default		
UpConv1		パラメーター	Scale ↓	MovDet ↓	Sharp ↓	
4/5		設定範囲 初期値	SQ、EC、LB SQ	1 ~ 5 3	1 ~ 5 3	
Setting	パラメーター	Chroma	Ped	Hue		
5/5	設定範囲 初期値	-8 ~ +7 0	-100 ~ +100 0	-30 ~ +30 (システム フォーマットが 1080/59.94i、 720/59.94p、 480/59.94i の ときに有効) 0		

8. セッティングメニュー一覧

メニュー	サブメニュー	第3メニュー	パラメーター	パラメーター1	パラメーター2	パラメーター3
	F1を回して選択	F2を回して選択		F3を回して選択	F4を回して選択	F5を回して選択
OUTPUT	OUTPUTYY* (SDI) * Y 部分には、 Out1～4、A1、 A2、B1、B2を 表示 (A1、A2、B1、B2 は、AV-HS04M7、 または AV-HS04M7D 接 続時に有効)	Asign	パラメーター	Source	Mode ↓	
		1/2	設定範囲	PGM、PVW、 CLN、 AUX1～4、 MV1～2、 KeyOut	*Normal、DC	
			初期値	—	Normal	
		DownCnv	パラメーター	Scale ↓	Delay ↓	Sharp ↓
		2/2 (A1、A2、B1、 B2のみ)	設定範囲	*SQ、EC、LB	*90H (75H)、 1F	*1～5
		初期値	SQ	90H	3	
	OUTPUTYY* (ANA) * Y 部分に、A1、 A2、B1、B2を 表示 (A1、A2、B1、B2 は、AV-HS04M4、 接続時に有効。 AV-HS04M5 接 続時は、A1と B1が有効。)	Asign	パラメーター	Source		
		1/1	設定範囲	PGM、PVW、 CLN、 AUX1～4、 MV1～2、 KeyOut		
		初期値	—			
	OUTPUTYY* (DVI-D) * Y 部分には、 OUT5、OUT6 を表示	Asign	パラメーター	Source	MovDet ↓	
		1/2	設定範囲	PGM、PVW、 CLN、 AUX1～4、 MV1～2、 KeyOut	1～5	
			初期値	—	3	
DVIOut		パラメーター		Size ↓	Scale ↓	
	2/2	設定範囲		*Auto、XGA、 WXGA、SXGA、 WSXGA+、 UXGA、WUXGA、 1080P	*Fit-V、Fit-H、 Full	
	初期値			Auto	Fit-V	
OUTPUTYY* (DVI-I) * Y 部分に、A2、 またはB2を表 示 (AV-HS04M5 接続時に有効)	Asign	パラメーター	Source			
	1/2	設定範囲	PGM、PVW、 CLN、 AUX1～4、 MV1～2、 KeyOut			
		初期値	—			
	DVIOut	パラメーター	Mode ↓	Size ↓	Scale ↓	
	2/2	設定範囲	*Dig、Ana	*Auto、XGA、 WXGA、SXGA、 WSXGA+、 UXGA、WUXGA	*Fit-V、Fit-H、 Full	
	初期値		Dig	Auto	Fit-V	

8. セッティングメニュー一覧

メニュー	サブメニュー		パラメーター 1	パラメーター 2	パラメーター 3	パラメーター 4
	F1 を回して選択		F2 を回して選択	F3 を回して選択	F4 を回して選択	F5 を回して選択
CONFIG	CONFIG 1	パラメーター	BusMode	LCD-BL	MENUDLG	
	Operate	設定範囲	A/B、 PGM/PST	On、Off、60、 120、180	On、Off	
		初期値	PGM/PST	On	On	
	CONFIG 2	パラメーター	LEDMode			
	SHOT MEM	設定範囲	AW、AV			
		初期値	AV			
	CONFIG 3	パラメーター	ENBL			
	SYSCONF	設定範囲	Enable、Disable (Disable を選択 すると、SYSTEM メニューがロック されます。)			
		初期値	Enable			
	CONFIG 4	パラメーター	Port	Assign		GPIEN
	GPIM-In	設定範囲	1 ~ 8	AUTO、CUT、 DSK 1、DSK2、 PinP1、 PinP2、FTB、 BGDAUTO、 BGDCUT、 KEYAUTO、 KEYCUT、 RTlyDBL、 GTlyDBL、 NoAssign		Enable、Disable
		初期値	—	NoAssign		Enable
CONFIG 5	パラメーター	Port	Assign		GPIEN	
GPIM-Out	設定範囲	1 ~ 31	AUTO、CUT、 DSK 1 ON、 DSK 2 ON、 PinP 1 ON、 PinP 2 ON、 FTB ON、 BGDAUTO、 BGDCUT、 KEYAUTO、 KEYCUT、 DSK 1 TRN、 DSK 2 TRN、 PinP 1 TR、 PinP 2 TR、 FTB TRN、 KEYON、 KEYTRN、 R-Tly 1 ~ 20、 G-Tly 1 ~ 20、 NoAssign		Enable、Disable	
	初期値	—	NoAssign		Enable	

8. セッティングメニュー一覧

メニュー	サブメニュー		パラメーター 1	パラメーター 2	パラメーター 3	パラメーター 4
	F1 を回して選択		F2 を回して選択	F3 を回して選択	F4 を回して選択	F5 を回して選択
CONFIG	CONFIG 6	パラメーター	Port	Assign		GPIEN
	GPIP-In	設定範囲	1 ~ 8	AUTO、CUT、 DSK 1、DSK 2、 PinP1、 PinP2、FTB、 BGDAUTO、 BGDCUT、 KEYAUTO、 KEYCUT、 RTlyDBL、 GTlyDBL、 NoAsign		Enable、Disable
		初期値	—	NoAsign		Enable
	CONFIG 7	パラメーター	Port	Assign		GPIEN
GPIP-Out	設定範囲	1 ~ 8	AUTO、CUT、 DSK 1 ON、 DSK 2 ON、 PinP1 ON、 PinP2 ON、 FTB ON、 BGDAUTO、 BGDCUT、 KEYAUTO、 KEYCUT、 DSK 1 TRN、 DSK 2 TRN、 PinP1 TR、 PinP2 TR、 FTB TRN、 KEYON、 KEYTRN、 R-Tly 1 ~ 20、 G-Tly 1 ~ 20、 NoAsign		Enable、Disable	
	初期値	—	NoAsign		Enable	

8. セッティングメニュー一覧

メニュー	サブメニュー		パラメーター 1	パラメーター 2	パラメーター 3	パラメーター 4
	F1 を回して選択		F2 を回して選択	F3 を回して選択	F4 を回して選択	F5 を回して選択
CONFIG	CONFIG 8	パラメーター	USER1	USER2	USER3	
	Button1	設定範囲	PinPPVW, DSK1PVW, DSK2PVW, Edit-EN, COM-EN, GPIMIEN, GPIMOEN, GPIPIEN, GPIPOEN, OSD, StrFM1, StrFM2, StrFM3, StrFM4, SHIFT, AUXTRAN, NoAssign	PinPPVW, DSK1PVW, DSK2PVW, Edit-EN, COM-EN, GPIMIEN, GPIMOEN, GPIPIEN, GPIPOEN, OSD, StrFM1, StrFM2, StrFM3, StrFM4, SHIFT, AUXTRAN, NoAssign	PinPPVW, DSK1PVW, DSK2PVW, Edit-EN, COM-EN, GPIMIEN, GPIMOEN, GPIPIEN, GPIPOEN, OSD, StrFM1, StrFM2, StrFM3, StrFM4, SHIFT, AUXTRAN, NoAssign	
		初期値	PinPPVW	DSK1PVW	DSK2PVW	
	CONFIG 9	パラメーター	USER4	USER5	USER6	
	Button2	設定範囲	PinPPVW, DSK1PVW, DSK2PVW, Edit-EN, COM-EN, GPIMIEN, GPIMOEN, GPIPIEN, GPIPOEN, OSD, StrFM1, StrFM2, StrFM3, StrFM4, SHIFT, AUXTRAN, NoAssign	PinPPVW, DSK1PVW, DSK2PVW, Edit-EN, COM-EN, GPIMIEN, GPIMOEN, GPIPIEN, GPIPOEN, OSD, StrFM1, StrFM2, StrFM3, StrFM4, SHIFT, AUXTRAN, NoAssign	PinPPVW, DSK1PVW, DSK2PVW, Edit-EN, COM-EN, GPIMIEN, GPIMOEN, GPIPIEN, GPIPOEN, OSD, StrFM1, StrFM2, StrFM3, StrFM4, SHIFT, AUXTRAN, NoAssign	
		初期値	NoAssign	NoAssign	NoAssign	
	CONFIG10	パラメーター	OSD	Select		
	OSD	設定範囲	On, Off	PVW, MV1, MV2, MV1+MV2		
		初期値	On	PVW		
	CONFIG11	パラメーター	Fill	Source ↓		
	KSAsgn	設定範囲	IN1 ~ 16, IN-A1, IN-A2, IN-B1, IN-B2, CBGD, CBAR, FMEM1 ~ 4	IN1 ~ 16, IN-A1, IN-A2, IN-B1, IN-B2, CBGD, CBAR, FMEM1 ~ 4, NoAssign		
		初期値	—	(Fill と同じ)		
CONFIG12	パラメーター	CLN				
CLNAsgn	設定範囲	KEY, DSK1, DSK2				
	初期値	KEY				

8. セッティングメニュー一覧

メニュー	サブメニュー	パラメーター	パラメーター 1	パラメーター 2	パラメーター 3	パラメーター 4
	F1 を回して選択		F2 を回して選択	F3 を回して選択	F4 を回して選択	F5 を回して選択
SYSTEM (ロック時)	(Message)	パラメーター 表示のみ	システムメニューがロックされます。			
SYSTEM (ロック解除 時)	SYS 1	パラメーター	Mode ↓	HiRes ↓	16:9SQ	
	Format	設定範囲 初期値	*1080/59.94i、1080/50i、 1080/24psf、1080/23.98psf、 720/59.94p、720/50p、 480/59.94i、576/50i 1080/59.94i	On、Off (システムフォー マットがSD フォーマットの ときに有効)	On、Off (システムフォー マットがSD フォーマットの ときに有効)	
	SYS 2	パラメーター	Mode ↓			
	3DFormat	設定範囲 初期値	2D、3D 2D			
	SYS 3	パラメーター	System	H-Phase	V-Phase	
	OutPhs	設定範囲 初期値	0H、1H 1H	-1375～+1374 0	-100～+100 0	
	SYS 4	パラメーター	Sync ↓	BBSetup	GenLock	
	Ref	設定範囲 初期値	*BBST、BBAD、 TRI、INT BBST	OIRE、7.5IRE 7.5IRE	Locked、 UnLock -	
	SYS 5	パラメーター	PGM	PVW	MV	AUX
	Anci	設定範囲 初期値	On、Off Off	On、Off Off	Off、PGM、PVW Off	On、Off Off
	SYS 6	パラメーター	Power	Fan		
	Alarm	設定範囲 初期値	Alarm、NoAlarm 表示のみ	Alarm、NoAlarm 表示のみ		
	SYS 7	パラメーター	Init ↓	F Init ↓		
	Initial	設定範囲 初期値				
	SYS 8	パラメーター	IP Address	Save ↓		
	NetWork 1	設定範囲 初期値	0～255 192	0～255 168	0～255 0	0～255 10
	SYS 9	パラメーター	Subnet Mask	Save ↓		
	NetWork 2	設定範囲 初期値	0～255 255	0～255 255	0～255 255	0～255 0
	SYS 10	パラメーター	MAC Address			
	NetWork 3	表示のみ				
	SYS 11	パラメーター	Year	Month	Date	Set ↓
	Date	設定範囲 初期値	2000～2099 -	1～12 -	1～31 -	- -
	SYS 12	パラメーター	Hour	Minute	Second	Set ↓
	Time	設定範囲 初期値	0～23 -	0～59 -	0～59 -	- -

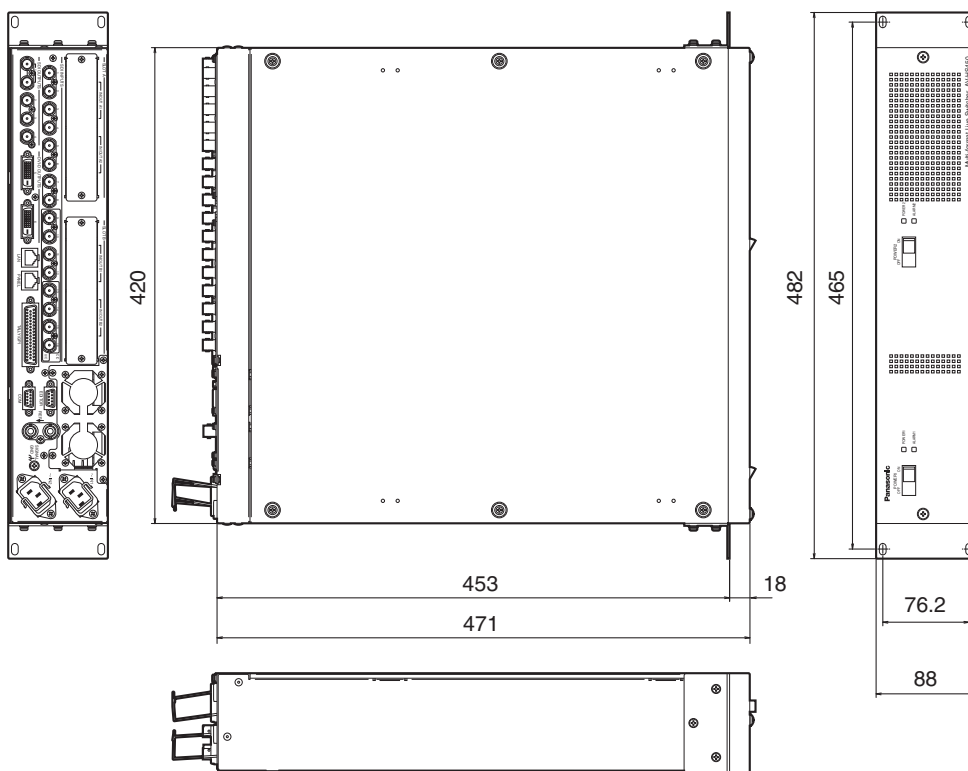
8. セッティングメニュー一覧

メニュー	サブメニュー		パラメーター 1	パラメーター 2	パラメーター 3	パラメーター 4
	F1 を回して選択		F2 を回して選択	F3 を回して選択	F4 を回して選択	F5 を回して選択
SYSTEM (ロック解除時)	SYS 13	パラメーター	Select	Version		SysVer
	MainVer	設定範囲	MFSOFT、 PnISoft、 PnIFPGA、 CntFPGA、 In1FPGA、 In2FPGA、 M/EFPGA、 OutFPGA	バージョン番号		バージョン番号
		初期値	MFSOFT			
	SYS 14	パラメーター	Select	Board	Version	
OptVer	設定範囲	SLOTA、SLOTB	SDI-IN、Ana-IN、 DVI-IN、 DVID-IN、 SDI-OUT、 3D-OUT、 Ana-OUT、 D/A-OUT、 Csit-IN、None	バージョン番号		
	初期値	SLOTA				

9. 外形寸法図

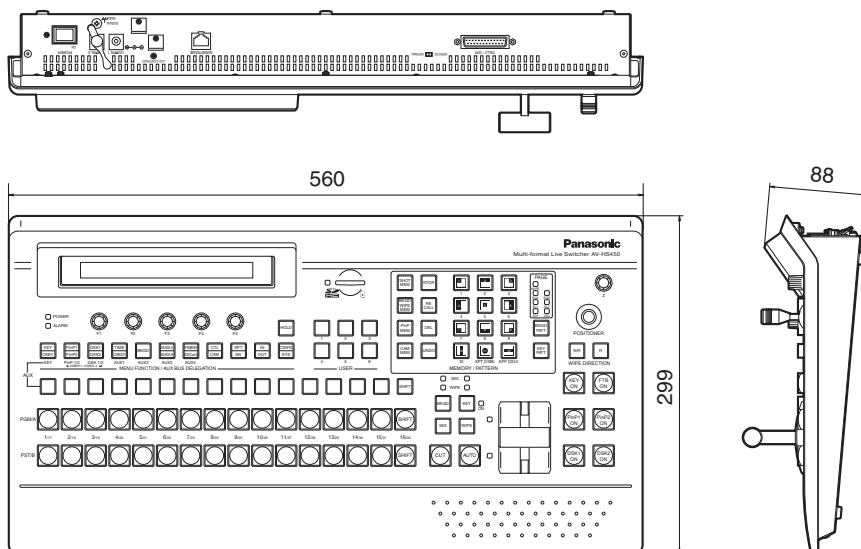
メインフレーム

単位：mm



コントロールパネル

単位：mm



10. 定格

■メインフレーム [AV-HS450U1N]

映像入力 (最大20系統)	標準 SDI : 16 系統 (IN1 ~ 16)		BNC × 16
	オプション : 最大 4 系統 (IN A1、IN A2、IN B1、IN B2) (2つの入出力兼用スロットに最大 2 枚取り付け可能)		
映像出力 (最大10系統)	標準 SDI : 4 系統 (OUT1 ~ 4 ×各 1、OUT1 のみ 2 分配出力)		BNC × 5
	標準 DVI-D : 2 系統 (OUT5、OUT6)		DVI-D × 2
	オプション : 最大 4 系統 (OUT A1、OUT A2、OUT B1、OUT B2) (2つの入出力兼用スロットに最大 2 枚取り付け可能)		
	<ul style="list-style-type: none"> 各出力には、PGM、PVW、AUX1 ~ 4、MV1 (MULTI_PVW1)、MV2 (MULTI_PVW2)、CLN、KEYOUT をアサイン可能 CLN は、メニューにより KEY/DSK1/DSK2 からプリセレクト可能 		
信号フォーマット	SD	480/59.94i、576/50i	
	HD	1080/59.94i、1080/50i、720/59.94p、720/50p、1080/24PsF [※] 、1080/23.98PsF [※] ※下記のオプションボードは対応していません。 AV-HS04M1、AV-HS04M2、AV-HS04M3、AV-HS04M4、AV-HS04M5、AV-HS04M6、AV-HS04M7、AV-HS04M7D	
信号処理	Y : Cb : Cr 4 : 2 : 2 10 bit (ただしフレームメモリーは 8 bit) RGB 4 : 4 : 4 8 bit		
ME 数	1ME		
SDI 入力	HD : シリアルデジタルコンポーネント (SMPTE292M) SD : シリアルデジタルコンポーネント (SMPTE259M)		
	標準 16 系統 : IN1 ~ IN16 最大 20 系統 : IN A1、IN A2、IN B1、IN B2 (AV-HS04M1 を 2 枚使用時、Active スルー付)		
	HD (SMPTE292M (BTA S-004B) 準拠) ・ 0.8 V [p-p] ± 10 % (75 Ω) ・ 入力ターンロス 15 dB 以上 (5 MHz ~ 750 MHz) 10 dB 以上 (750 MHz ~ 1.5 GHz) ・ 自動イコライザー 100 m (5C-FB ケーブル使用時)		
	SD (SMPTE259M 準拠) ・ 0.8 V [p-p] ± 10 % (75 Ω) ・ 入力ターンロス 15 dB 以上 (5 MHz ~ 270 MHz) ・ 自動イコライザー 200 m (5C-2V ケーブル使用時)		

10. 定格

SDI 出力	HD：シリアルデジタルコンポーネント (SMPTE292M) SD：シリアルデジタルコンポーネント (SMPTE259M)
	標準 4 系統：OUT1 × 2、OUT2 ~ 4 × 1 最大 8 系統：OUT A1、OUT A2、OUT B1、OUT B2 (AV-HS04M7 を 2 枚使用時)
	HD (SMPTE292M (BTA S-004B) 準拠) ・出力リターンロス 15 dB 以上 (5 MHz ~ 750 MHz) 10 dB 以上 (750 MHz ~ 1.5 GHz) ・出力レベル 0.8 V [p-p] ± 10 % (75 Ω) ・立ち上がり時間 270 ps 未満 ・立ち下がり時間 270 ps 未満 ・立ち上がり時間と立ち下がり時間の差 100 ps 以下 ・アライメントジッター 0.2 UI (130 ps) 以下 ・タイミングジッター 1.0 UI 以下 ・アイ開口率 90 % 以上 ・DC オフセット 0 ± 0.5 V
	SD (SMPTE259M 準拠) ・出力リターンロス 15 dB 以上 (5 MHz ~ 270 MHz) ・出力レベル 0.8 V [p-p] ± 10 % (75 Ω) ・立ち上がり時間 1.5 ns 以下 ・立ち下がり時間 1.5 ns 以下 ・立ち上がり時間と立ち下がり時間の差 0.5 ns 以下 ・ジッター 0.2 UI 以下
コンポジット入力 (オプション)	アナログコンポジット (NTSC/PAL) (1.0 V [p-p]、75 Ω) 最大 4 系統：IN A1、IN A2、IN B1、IN B2 (AV-HS04M6 を 2 枚使用時、ループスルー付き)
	アナログ入力 (オプション)
アナログ出力 (オプション)	SD/HD アナログコンポーネント Y/Pb/Pr (1.0 V [p-p]、75 Ω) 最大 4 系統：IN A1、IN A2、IN B1、IN B2 (AV-HS04M2 を 2 枚使用時)
	SD/HD アナログコンポーネント Y/Pb/Pr (1.0 V [p-p]、75 Ω) 最大 4 系統：OUT A1、OUT A2、OUT B1、OUT B2 (AV-HS04M4 を 2 枚使用時) ● AV-HS04M5 を 2 枚使用時は 2 系統 (OUT A1、OUT B1)
DVI-I 入力 (オプション)	アナログ/デジタル RGB： XGA (1024 × 768)、WXGA (1280 × 768)、SXGA (1280 × 1024) 垂直周波数：60 Hz
	最大 4 系統：IN A1、IN A2、IN B1、IN B2 (AV-HS04M3 を 2 枚使用時)

10. 定格

DVI-I 出力 (オプション)	<p>アナログ／デジタル RGB： XGA (1024 × 768)、WXGA (1280 × 768)、SXGA (1280 × 1024)、 WSXGA+* (1680 × 1050)、UXGA* (1600 × 1200)、 WUXGA* (1920 × 1200) ※ デジタルのみ 垂直周波数：60 Hz</p> <p>最大 2 系統：OUT A2、OUT B2 (AV-HS04M5 を 2 枚使用時)</p>
DVI-D 入力 (オプション)	<p>デジタル RGB： XGA (1024 × 768)、WXGA (1280 × 768)、SXGA (1280 × 1024) WSXGA+ (1680 × 1050)、UXGA (1600 × 1200)、 WUXGA (1920 × 1200) 垂直周波数：60 Hz デジタル RGB：1080/50P、1080/59.94P</p> <ul style="list-style-type: none"> ● HDCP (High-bandwidth Digital Content Protection) には対応していません。 ● アナログ入力はサポートしていません。 <p>最大 4 系統：IN A1、IN A2、IN B1、IN B2 (AV-HS04M8 を 2 枚使用時)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● DVI-I コネクターケーブルは使用できません。 ● DVI-D コネクターケーブルは、5 m までの長さのケーブルを使用してください。
DVI-D 出力	<p>デジタル RGB： XGA (1024 × 768)、WXGA (1280 × 768)、SXGA (1280 × 1024) WSXGA+ (1680 × 1050)、UXGA (1600 × 1200)、 WUXGA (1920 × 1200) 垂直周波数：60 Hz デジタル RGB：1080/50P、1080/59.94P (垂直周波数は、システムフォーマットと同じになります。システム フォーマットが 1080/23.98PsF、24PsF のときは、出力する ことができません。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● アナログ出力はサポートしていません。 ● ハイレゾリューションマルチビューモード対応： システムモードが SD のときでも高解像度で出力します。 このとき OUT5 に MV1、OUT6 に MV2 が出力され、他の出力に MV1、MV2 を出力することはできません。 <p>標準 2 系統：OUT 5、OUT 6</p> <ul style="list-style-type: none"> ● DVI-I コネクターケーブルは使用できません。 ● DVI-D コネクターケーブルは、5 m までの長さのケーブルを使用してください。

10. 定格

リファレンス 入出力	GENLOCK モード：ブラックバーストまたは TRI 入力信号（ループスルー付） 内部同期モード：ブラックバースト出力信号 × 2 <ul style="list-style-type: none"> システムフォーマットと同じフィールド周波数に対応 1080/23.98PsF、24PsF フォーマット時は、GENLOCK モードのみに対応 1080/23.98PsF フォーマット時は、10F-ID 付きブラックバースト（SMPTE318M 準拠）または TRI 信号に対応 		
映像遅延時間	FS OFF、U/C OFF	1 ライン (H)	
	FS ON または、 U/C ON	1 フレーム (F)	
	<ul style="list-style-type: none"> DVE、マルチビュー、ダウンコンバーター、DVI-IN、DVI-OUT を経由した場合、それぞれ最大 1 フレームの遅延が加わります。 		
制御 I/O	PANEL	100 Mbps × 1 ● コントロールパネル接続用	RJ45
	LAN	100/10 Mbps × 1 ● メンテナンス用	RJ45
	EDITOR	RS-422 制御端子 ● GVG 標準プロトコルサブセット対応	D-sub 9 ピン、 メス
	COM	RS-422 制御端子 ● Panasonic 回転台システム制御など	D-sub 9 ピン、 メス
	TALLY/GPI	INPUT： 8 入力、汎用、フォトカプラ受け OUTPUT： 31 出力、R・G タリー、汎用から選択 ALARM： 1 出力、オープンコレクター出力 (負論理)	D-sub 50 ピン、 メス
動作温度	0 ~ 40 °C		
湿度	10 ~ 90 % (結露なきこと)		
電源	AC 100 V ~ 120 V、50/60 Hz ● リダンダント電源標準対応		AC インレット × 2
	消費電力	120 W	
外形寸法	2RU 482 (幅) × 88 (高) × 471 (奥行) mm (突起部含まず)		
質量	9.8 kg (オプション未装着時、付属品を除く)		
	10.3 kg (フルオプション装着時、付属品を除く)		

10. 定格

■コントロールパネル [AV-HS450C1N]

制御 I/O	MAINFRAME	100 Mbps × 1 ● メインフレーム接続用	RJ45
	TALLY/GPI	INPUT : 8 入力 OUTPUT: 8 出力 ALARM : 1 出力	D-sub 25 ピン、 メス
外部メディア	SD メモリーカード	対応容量：最大 32 GB (SDHC メモリーカード対応) 静止画ファイル：ロード/セーブ セットアップデータ：バックアップ	
動作温度	0 ~ 40 °C		
湿度	10 ~ 90 % (結露なきこと)		
電源	DC 12 V、0.8 A ● AC アダプター 2 台接続によりリダンダント運転可能 ● AC アダプター使用時の消費電力：AC 14 W		DC ジャック × 2
	付属の AC アダプター 入力：AC 100 V ~ 240 V、1.3 A、50-60 Hz 出力：DC 12 V、3.5 A、42 W 付属の電源コード 最大定格：AC 125 V ● AC 100 V ~ 120 V で使用してください。		
外形寸法	560 (幅) × 88 (高) × 299 (奥行) mm (突起部含まず)		
質量	3.9 kg (付属品を除く)		

付 録【用語解説】

本書で使用している用語について説明します。

用 語	解 説
AB Bus AB バス方式	バス制御モードの 1 つです。トランジションの実行により、A バス、B バスの信号が交互にプログラム映像に出力されます。
Ancillary Data アンシラリデータ	映像シリアルインターフェースのデータストリームの内部で伝送される、映像信号以外の補助データのことです。垂直ブランキング期間に重畳されるデータを V アンシラリデータ (VANC) と呼びます。
Aspect アスペクト比	画面の縦と横の比率のことです。HD フォーマットは 16 : 9、SD フォーマットは 4 : 3 です。
AUX [Auxiliary Bus] オグジュアリバス	本線出力以外でスイッチング可能な予備バスのことです。
AVDL [Automatic Video Delayline] 自動位相調整	入力映像信号の位相を水平同期基準信号の位相に合わせて自動的に調整する機能です。
BB ブラックバースト	BlackBurst (ブラックバースト) 信号の略です。全画面黒レベルのコンポジット信号のことで、Genlock (ゲンロック) 用途の基準信号として利用されます。
Border ボーダー	ワイプやキーの縁に付加する縁取りのことで、幅や色を調整することができます。ボーダーの周りをぼかすことをソフト効果と呼びます。
Chroma Key クロマキー	映像信号の色情報を基にキー信号を作成し、キー合成を行う機能のことです。
Clip クリップ	キーソースからキー信号を作成するときの、輝度のしきい値のことです。
Color Background カラーバックグラウンド	バックグラウンド画像として使用する、内蔵のカラージェネレーターから出力される信号のことです。
Cut カット	次の映像へ瞬時に切り替える効果のことです。
Density デンシティ	キー信号の濃さを調整するパラメーターのことです。
Dot by Dot ドットバイドット	等倍で映像を扱うことです。PinP で、SD の映像を HD の映像に合成する場合に、画像を劣化させることなく合成します。
Down Converter ダウンコンバーター	HD フォーマットの素材を、SD フォーマットへ変換する機能のことです。
DSK [Downstream Key] ダウンストリームキー	ミックスエフェクトの最後に行われるキー合成処理のことです。常に映像の一番手前に合成されます。
DVE [Digital Video Effect] デジタルビデオエフェクト	縮小やスライド効果を伴うトランジションパターンのことです。
DVI [Digital Visual Interface] ディー・ブイ・アイ	デジタル方式のビデオインターフェース規格です。ただし、DVI-I はデジタル信号とアナログ信号の両方を扱うことができます。

付 録【用語解説】

用 語	解 説
Embedded Audio エンベデッドオーディオ	映像シリアルインターフェースのデータストリームの内部で伝送される、オーディオデータパケットのことです。
Flip Flop フリップフロップ方式 (PGM/PST 方式)	バス制御モードの 1 つです。プログラムバスで選択されている信号は常にプログラム映像として出力されます。トランジションの実行により、プログラムバスとプリセットバスの信号が入れ替わります。
Flying Key フライングキー	DVE 効果を利用して、キー信号の移動や拡大、縮小を行う機能のことです。
Frame Memory フレームメモリー	1 画面（フレーム）分の映像信号を保持できるメモリーのことです。
Frame Synchronizer フレームシンクロナイザー	非同期の映像信号入力の同期を合わせる機能のことです。
Freeze フリーズ	映像信号を静止させる機能のことです。
FTB [Fade to Black] フェードトゥブラック	バックグラウンド映像が黒画面へフェードアウトする効果のことです。
Genlock ゲンロック	外部同期信号を基準に映像信号を同期させる機能のことです。
GPI [General Purpose Interface] ジー・ピー・アイ	外部からオートトランジションを制御するインターフェース信号のことです。
Hue ヒュー	映像信号の色相（色合い）のことです。
IRE アイ・アール・イー	映像信号レベルの単位のことです。信号のセットアップレベル(黒レベル)を、0 IRE、7.5 IRE などと表します。
Key Edge キーエッジ	キーの縁に付加する縁取り（ボーダー）や影（シャドウ）のことです。
Key Fill キーフィル	キー合成処理で、キー信号で抜いた部分を埋め合わせる信号のことです。
Key Gain キーゲイン	キー信号の増幅度を調整するパラメーターのことです。
Key Invert キーインバート	キー信号を反転させる機能のことです。
Key Mask キーマスク	ボックスパターンなどでキー合成する領域を指定する機能のことです。キー信号の一部の領域だけを使用する場合に、不要な領域をマスクして合成します。
Key Source キーソース	キー信号を作成するための映像信号のことです。
Linear Key リニアキー	輪郭に階調を持っているモノクロのキー信号を基準にキー合成する機能のことです。

付 録【用語解説】

用 語	解 説
Lum [Luminance] ルミナンス	映像信号の輝度（明るさ）のことです。
Luminance Key ルミナンスキー	映像信号の輝度（明るさ）情報を基にキー信号を作成し、キー合成を行う機能のことです。
ME [Mix Effect] ミックスエフェクト	いくつかの映像信号を合成し、ミックス、ワイプ、キーなどの映像信号を作り出す映像効果装置のことです。
Mix ミックス	次の画像とオーバーラップさせながら画面を切り替える効果のことです。ディゾルブとも呼びます。
Multi View Display マルチビューディスプレイ	複数の素材を合成して、1つの画面に表示する機能のことです。PGM、PVWと入力素材を、1つの画面で同時にプレビューすることができます。
OSD [On Screen Display] オンスクリーンディスプレイ	モニター出力にメニュー画面が表示され、設定を行うことができる機能です。
PinP [Picture in Picture] ピクチャー・イン・ピクチャー	バックグラウンド映像に、子画面映像を合成する機能のことです。
PVW [Preview] プレビュー	次のトランジションの後に出力される映像を事前に確認するための機能です。PVW 系統より出力されます。
PGM [Program Bus] プログラムバス	常にプログラム出力されるバスのことです。
PST [Preset Bus] プリセットバス	次のバックグラウンドトランジションの後にプログラム出力されるバスのことです。
RS-422	シリアルインターフェースの規格の1つです。編集機など外部機器からスイッチャーを制御するためのインターフェースです。
Sat [Saturation] サチュレーション	映像信号の彩度（色の濃さ）のことです。
SDI [Serial Digital Interface]	SD、HDの各フォーマットの映像信号を1本の同軸ケーブルで伝送する規格のことです。
Self Key セルフキー	キーフィル信号からキー信号を作成して、キー合成する機能のことです。
Setup Data セットアップデータ	コントロールパネルの状態を保存し、呼び出すことができるメモリーのことです。ボタンの選択状態やボーダー、色などの設定情報を保存します。
Tally タリー	各入力信号のプログラム出力の状態を外部機器へ出力する信号のことです。コントロールパネル上でプログラム出力の状態を示すLEDもタリーと呼ばれます。
Transition トランジション	画像を切り替える機能のことです。切り替え時の効果は、ワイプ、ミックスなどがあります。

付 録【用語解説】

用 語	解 説
Tri-level Sync トライレベルシンク (3 値シンク)	HD フォーマット用の同期信号のことです。
Trimming トリミング	PinP で合成する映像の上下左右の不要な部分をカットする機能のことです。
Up Converter アップコンバーター	SD フォーマットの素材を、解像度の高いHD フォーマットへ変換する機能のことです。
Wipe ワイプ	特定のパターンに従って、現在の画面と次の画面の境界を移動させながら、画面を切り替える効果のことです。

保証とアフターサービス (よくお読みください)

修理・お取り扱い・お手入れなどのご相談は・・・
まず、お買い上げの販売店へお申し付けください。

■保証書 (別添付)

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、
お買い上げの販売店からお受け取りください。よ
くお読みのあと、保管してください。

保証期間：お買い上げ日から本体1年間

■補修用性能部品の保有期間 **8年**

当社は、このマルチフォーマットライブスイッチャーの補修用性能部品の、製造打ち切り後8年保有しています。

注) 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

■修理を依頼されるとき

まず電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店へご連絡ください。

ご連絡いただきたい内容	
製品名	マルチフォーマット ライブスイッチャー
品番	AV-HS450N
お買い上げ日	年 月 日
故障の状況	できるだけ具体的に

● 保証期間中は

保証書の規定に従って、出張修理をさせていただきます。

● 保証期間を過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、ご希望により修理させていただきます。下記修理料金の仕組みをご参照のうえ、ご相談ください。

● 修理料金の仕組み

修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

技術料 は、診断・故障箇所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。

部品代 は、修理に使用した部品および補助材料代です。

出張料 は、お客様のご依頼により製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

パナソニック株式会社 AVCネットワークス社

〒571-8503 大阪府門真市松葉町2番15号 ☎(06)6901-1161

©Panasonic Corporation 2011